

平成 14 年度ファミリー・サポート・センター
活動状況調査報告結果報告書

平成 15 年 3 月

財団法人 女性労働協会

はじめに

近年、少子・高齢化及び核家族化が進む中で、労働者の仕事と育児又は介護との両立が大きな課題となっていますが、厚生労働省では平成6年度より、労働者が仕事と育児又は介護を両立できる環境を整備するとともに、地域の子育て支援を行い、もって労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上を図ることを目的に、ファミリー・サポート・センター事業を実施しています。

ファミリー・サポート・センターは、地域において、育児や介護の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、育児や介護について助け合う会員組織で、市区町村が設立運営を行いますが、運営を公益法人等に委託する場合があります。

財団法人女性労働協会は厚生労働省より委託を受け、ファミリー・サポート・センター運営支援事業を行っています。

当協会では、ファミリー・サポート・センターの運営支援事業のあり方を検討するため、「相互援助活動に関する研究会」を設置し、調査・研究を行っていますが、当研究会の基礎資料とするため、平成14年7月に「平成14年度ファミリー・サポート・センター活動状況調査」を実施しました。

この調査は、ファミリー・サポート・センターの現状を明らかにするため、育児の援助を行いたい会員(提供会員)、育児の援助を依頼したい会員(依頼会員)並びに全国のファミリー・サポート・センターを対象に行いました。

調査にご協力いただきました会員の皆様、各ファミリー・サポート・センターの関係者各位に厚く御礼申し上げます。

また、調査の実施にあたり、ご指導、ご助言いただくとともに、結果報告書をご執筆いただいた研究会委員の先生方、研究会の座長としてお取りまとめいただき、さまざまなご指導をいただきました大日向雅美先生に深く感謝申し上げます。

調査結果報告書が地域の子育て支援に係わっている方、保育に携わっている方、子育て中の若い方など、多くの方々のご参考になれば幸いに存じます。

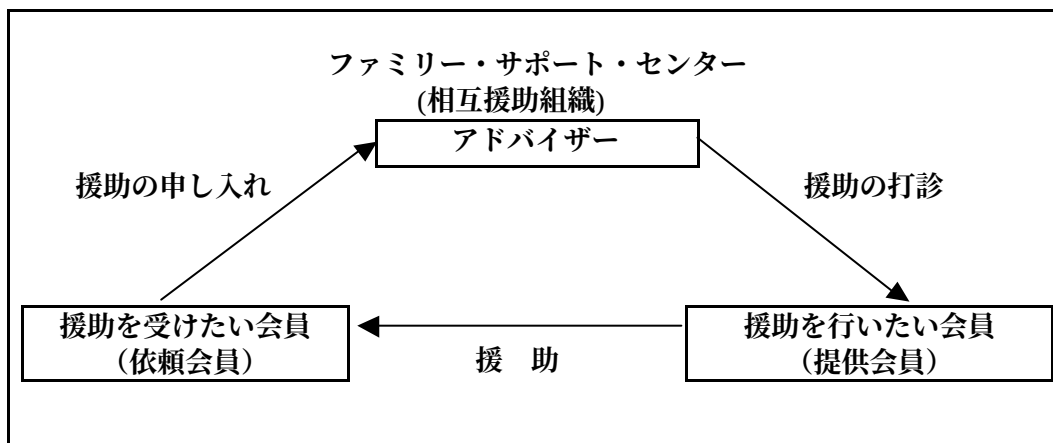
平成15年3月

財団法人女性労働協会

ファミリー・サポート・センターとは

ファミリー・サポート・センターとは、かつての地縁、血縁関係を代替する相互援助活動を組織化したものである。会員は育児の援助を行いたい人と援助を受けたい人からなり、急な残業や急用の際など、既存の体制では応じきれない臨時的、一時的な保育ニーズに対応するなど、地域における育児に関する相互援助活動をおこなう。厚生労働省では、ファミリー・サポート・センターを設置する市町村に対し、経費の補助を行っている。

(ファミリー・サポート・センターのしくみ)



「相互援助活動に関する研究会」委員名簿及び執筆分担

武石恵美子	株式会社ニッセイ基礎研究所主任研究員	Ⅱ. 1 センター編
広岡守穂	中央大学法学部教授	Ⅱ. 2 提供会員編
◎大日向雅美	恵泉女学園大学人文学部教授	Ⅱ. 3 依頼会員編
◎印は座長		

目 次

I 調査の概要	6
II 調査結果の概要	9
1 センター編	9
(1) センターの概要について	9
①センターの運営	9
②開設時間等	9
③活動報酬	11
④会員登録の方法、援助依頼の方法	11
⑤援助内容	12
⑥地域の子育て関連施設や医療機関等との連携	13
(2) 会員について	14
①会員数	14
②会員の年齢	14
③男性会員	14
(3) センター活動について	15
①活動内容	15
②センターの広報	16
③会員募集のための説明会の開催状況	16
④講習会、交流会の開催状況	17
(4) センター活動に対する自由記述の分析	18
①センター活動への支援の要望	18
②利用補助に関する要望	18
③活動の規制等に関する要望	19
④事務処理の簡素化に関する要望	19
⑤具体的記述内容	19
2 提供会員編	28
(1) 提供会員の横顔	28
①40代50代の女性が多い	28
②二足、三足わらじを履き回し？	29
③10人に7人が活動に満足している	30
(2) 活動状況	31
①援助活動の回数、収入、内容	31
②急な依頼とキャンセル、早朝・10時以降・土・日・祝日・宿泊の援助など	32

(3) 自由記述から見えるもの…子育て中の母親に対する励ましのまなざし……………	34
①子育てを支えてあげなければという気持ち……………	34
②仕事と子育ての両立、子どもに対する愛情、夫婦の協力……………	34
③しつけができない、自分の子どもしか目に入らない、親中心、夫が無関心……………	35
④いまの子育ての背景にあるもの……………	35
(4) 自由記述から見えるもの・ファミリー・サポート・センター活動についての意見や要望	36
①もっと広報すべきだという意見……………	36
②利用料が高すぎるという意見／低すぎるという意見……………	36
③ファミリー・サポート・センターに対する高い評価……………	36
(5) 具体的記述内容……………	37
3 依頼会員編……………	51
(1) 依頼会員の概要……………	51
①依頼会員自身について……………	51
②家族や子どもについて……………	52
(2) 依頼状況……………	54
①依頼会員になった理由……………	54
②依頼の有無とその理由等……………	55
③急な依頼、依頼内容や時間の変更、キャンセル等について……………	57
(3) ファミリー・サポート・センター活動に対する評価……………	61
(4) 自由記述の分析……………	62
①子育てについての意見・要望……………	62
②ファミリー・サポート・センター活動についての意見・要望……………	63
③具体的記述内容……………	65
III 集計表……………	82
IV 平成14年度ファミリー・サポート活動状況調査票（省略）	

I 調査の概要

1. 目的

ファミリー・サポート・センターにおける相互援助活動についての実情や問題点を把握し、事業の円滑な運営を資する。

2. 調査の構成

ファミリー・サポート・センター調査、提供会員調査、依頼会員調査の3種類により構成。

3. 調査対象

平成13年度末現在既設のファミリー・サポート・センター（育児）193か所を対象とする。各ファミリー・サポート・センター（支部を含む）にて提供会員10名、依頼会員10名を別紙基準により選定し調査対象とする。（両方会員は調査対象としない。）

4. 調査方法

郵送自計による調査とする。

ファミリー・サポート・センターへ各調査票を送付し、センターより調査対象の提供会員、依頼会員へ調査票を渡し、記入を依頼する。記入済みの調査票は直接女性労働協会へ返送。

5. 調査の時期

平成14年7月実施

6. 調査項目

(1) ファミリー・サポート・センター用調査

① 基本的属性

名称 所在地 施設名 所管部署課名 事業開始年月日

② センターの概要

運営方法 支部設置の有無 アドバイザーの人数と身分 サブ・リーダーの有無と人数
センターの開設時期 センター閉鎖時の対応 活動時間と制限 活動報酬の基準
会員の登録 援助対象児の年齢 宿泊・育児・障害児の受け入れ
子育て関連施設や医療機関との連携

③ 会員について

会員数 年齢 男性会員の有無

④ センター活動について

内容活動件数 広報・講習会・交流会・会員募集の説明会の実施状況

⑤ ファミリー・サポート・センター活動を進めていく中での意見・感想

⑥ファミリー・サポート・センター事業について国や地方自治体等への意見、要望

(2) 提供会員用調査

①会員の概要

性別 年齢 同居の家族 子どもの数 子どもの年齢 仕事の有無

②センター活動について

イ 提供会員になったきっかけ・理由

ロ 3か月間の援助依頼の有無 援助の内容別回数 総活動時間 収入 交通手段 活動の場所

ハ 過去1年間における当日急な援助 当日急な援助のキャンセル 当日急な援助の変更
早朝・夜10時以降・土・日・祝日・宿泊の援助の依頼の有無・回数
自分からのキャンセルの有無・回数・理由・連絡方法

ニ 活動をして良いと思うこと・困ること・その満足度

③今の親の子育てについての意見

④ファミリー・サポート・センター活動への意見・要望

(3) 依頼会員用調査

①会員の概要

性別 年齢 仕事の有無・形態 同居の家族 同居している子どもの数・年齢
登録している子どもの数・年齢 主として昼間子どもが過ごす場所 緊急時の保育を頼める人の有無

②センター活動について

イ 依頼会員になったきっかけ・理由

ロ 3か月間の依頼の有無 依頼した理由別回数 断られた回数・対応 依頼しなかった理由

ハ 過去1年間における当日急な依頼 当日急な依頼内容の変更 早朝・夜10時以降・土・日・祝日・宿泊の援助依頼の有無・対応 当日のキャンセルの有無・理由

ニ 援助依頼をして良いと思うこと・困ること・その満足度

③子育てについての意見

④ファミリー・サポート・センター活動への意見・要望

1. 有効回答数

(1) センター	193	(配布数	193 / 有効回収率	100%)
(2) 提供会員	1,463	(配布数	1,930 / 有効回収率	76.0%)
(3) 依頼会員	1,204	(配布数	1,930 / 有効回収率	62.4%)

選定方法

各ファミリー・サポート・センターの提供会員、依頼会員それぞれの名簿から次の基準により10人を選定する。

- 1 会員数に応じて10人を選定する抽出率を決める。(会員数の下1桁は切り捨て、次の例により決めてください。)

(例) 提供会員88人、依頼会員215人の場合

提供会員の抽出率 $80 \div 10 = 8$ 8人毎に抽出

依頼会員の抽出率 $210 \div 10 = 21$ 21人毎に抽出

- 2 最初の調査対象となる会員を決める。

それぞれの会員名簿に一連番号をつけ、抽出率の数字の中から無作為に番号を選び、最初の調査対象を決める。

(例) 上記の提供会員の場合は1番から8番の中で無作為の番号(例えば3とする)を選び、その番号の会員(3番目の会員)を最初の調査対象とする。

依頼会員の場合は1番から21番までの中で無作為の番号(例えば9とする)を選び、その番号の会員(9番目の会員)を最初の調査対象とする。

- 3 残り9人を決める

最初の調査対象者が決まったら名簿の一連番号により抽出ごとに抽出し調査対象とする。

(例) 提供会員 抽出率 8人毎の場合(最初の対象者は3番)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
		↑							↑									↑			
最初の調査対象者			2番目の調査対象者							3番目の調査対象者											

(例) 依頼会員 抽出率 21人毎の場合(最初の対象者は9番)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
								↑													
最初の調査対象者																					
23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36								
							↑														
2番目の調査対象者																					

- 4 名簿上で選ばれた会員が、すでに会員でない場合等は、その次の会員を選定する。

Ⅱ 調査結果の概要

1. センター編

(1) センターの概要について

①センターの運営

193 センターの運営方法をみると「直営」が103か所（53.4%）、委託が90か所（46.6%）である。「委託」の場合に委託先として最も多いのは「社会福祉協議会」55 か所（61.1%）である。

支部の設置があるのは、調査時点で、大阪市、横浜市、市川市の3か所である。

アドバイザーが複数配置されているセンターが9割以上を占め、「3人」が77か所（39.9%）、「2人」が67か所（34.7%）である。全体のアドバイザー数は545人で、1センターあたりの平均は2.8人。545人のアドバイザーについてその雇用上の身分をみると、「正規職員」は49人（9.0%）、「嘱託・非常勤」が465人（85.3%）と「嘱託・非常勤」が大多数を占めている。

サブ・リーダーを置いているセンターは127か所（65.8%）と2/3を占める。サブ・リーダーの数は「1～5人」が64か所（50.4%）、「6～10人」が47か所（37.0%）である。

図1 センターの運営方法

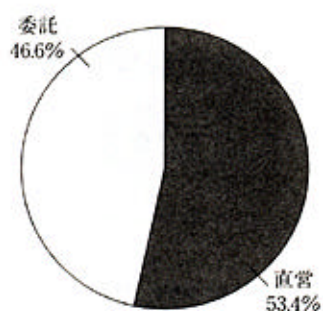
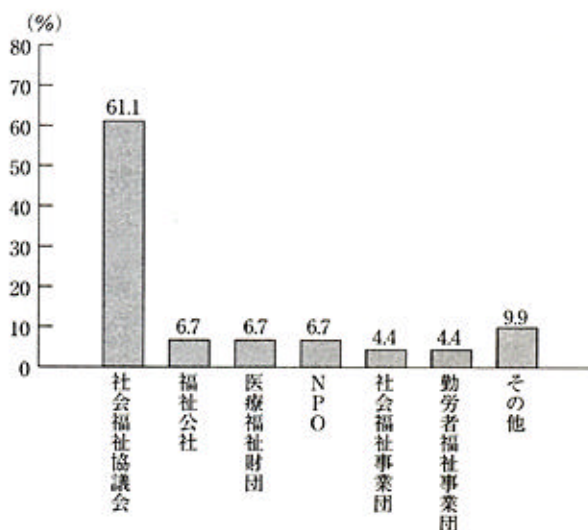


図2 委託先



②開設時間帯

開設している曜日は、月曜から金曜までは9割を超えているが、土曜日は52か所（26.9%）、日曜日は21か所（10.9%）のセンターが開設している。

開設時間は「9:00～17:00」が52か所（26.9%）と最も多く、次いで「8:30～17:15」42か所（21.8%）、「8:30～17:15」33か所（17.1%）となっている。

開始時間は「7 時台」1 か所 (0.5%)、「8 時台」95 か所 (49.2%)、「9 時台」88 か所 (45.6%)、「10 時台」9 か所 (4.7%) となっている。

最も早い開始時間は「7 時 30 分」(1 か所)、最も遅いのが「10 時 30 分」(1 か所)、最も多いのが、「8 時 30 分」(82 か所)、「9 時」(82 か所) となっている。

一方、終了時間は「16 時台」10 か所 (5.2%)、「17 時台」164 か所 (85.0%)、「18 時台」13 か所 (6.7%)、「19 時台」4 か所 (2.1%)、「21 時台」1 か所 (0.5%)、「22 時台」1 か所 (0.5%) となっている。

最も早い終了時間は「16 時」(6 か所)、最も遅いのは「22 時」(1 か所)、最も多いのが「17 時」22 か所となっている。

センター開設時間外の依頼への対応方法としては、「依頼会員が直接提供会員へ連絡する」が 104 か所 (53.9%)、「サブ・リーダーを通して」が 75 か所 (38.9%)、「対応しない」が 11 か所 (5.7%) である。「その他」68 か所 (35.2%) の内容としては、「携帯や自宅でアドバイザーが対応している」30 か所、「FAX や留守電で対応」18 か所、「所管課の職員が対応」3 か所などである。

提供会員の活動時間に制限を設けるセンターは 62 か所 (32.1%) で、残る 131 か所 (67.9%) は制限を設けていない。

制限がある場合の活動時間の範囲をみると、最も多いのは「6:00～22:00」29 か所 (46.8%)、次いで「7:00～22:00」7 か所 (11.3%)「7:00～21:00」6 か所 (9.7%)、「7:00～20:00」5 か所 (8.1%) となっている。

活動の開始時間は早い順に、「5 時」2 か所 (3.2%)、「6 時台」33 か所 (53.2%)「7 時台」23 か所 (37.1%)、「8 時」1 か所 (1.6%) で開始時間「6 時」が 30 か所 (48.4%) と最も多くなっている。

終了時間は「19 時」4 か所 (6.5%)、「20 時」5 か所 (8.1%)、「21 時」7 か所 (11.3%)、「22 時」40 か所 (64.5%)、「23 時」2 か所 (3.2%)、「24 時」1 か所 (1.6%) で、「22 時」の終了が最も多くなっている。

図3 開設している曜日 (M.A.)

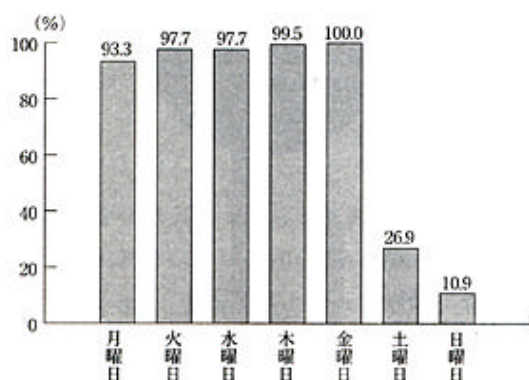
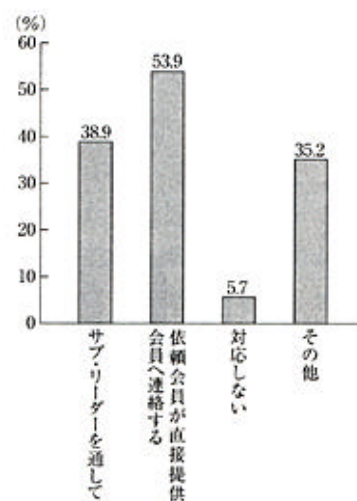


図4 センター開設時間外の依頼への対応 (M.A.)



③活動報酬

基本料金で最も多いのは、1時間「700円」85か所(44.0%)、次に「600円」55か所(28.5%)、「800円」31か所(16.1%)となっている。「その他」の2センターは年齢別料金制となっている。

平日の時間外料金や土日の料金等、基本部分以外の料金については、「差額なし」とするセンターは少なく、「100円増」や「200円増」という対応を行っているセンターが多い。

図5 基本の料金（平日の時間内の料金）

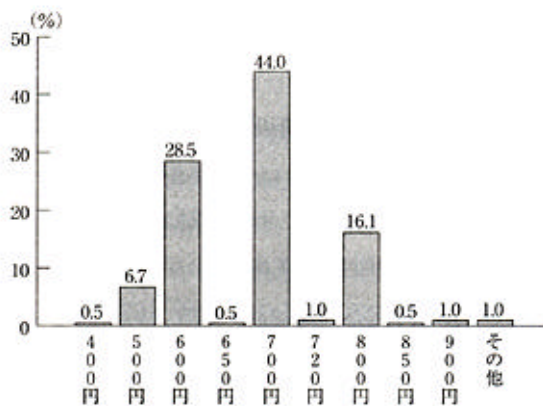
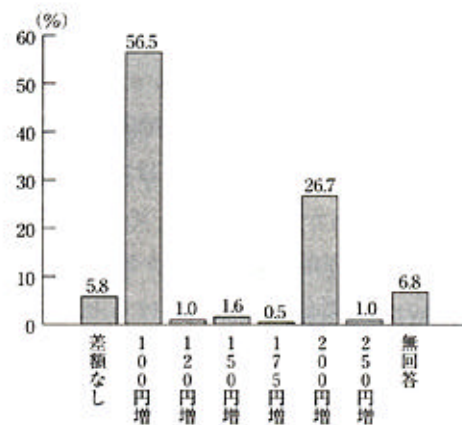


図6 平日の時間外料金（基本料金に対して）



④会員登録の方法、援助依頼の方法

会員の登録方法は、「センター事務局にて登録」が186か所(96.4%)、「説明会時に登録」111か所(57.5%)、「申込書郵送にて登録」52か所(26.9%)、「その他」50か所(25.9%)など、多様な方法を併用していることがわかる。その他は「会員宅での登録」28か所、「会員の講習会時」10か所、「市役所・保育所等の公共施設」6か所などである。

事前打ち合わせが済んだ依頼会員が行っている通常の（緊急時を除く）援助依頼方法は、「センター（アドバイザー）へ」131か所(67.9%)、「直接提供会員へ」80か所(41.5%)、「サブ・リーダーへ」10か所(5.2%)である。

図7 会員の登録方法（M.A.）

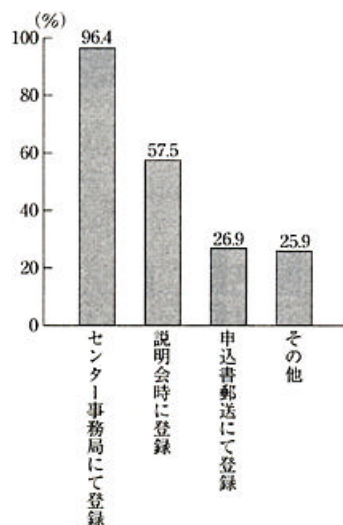
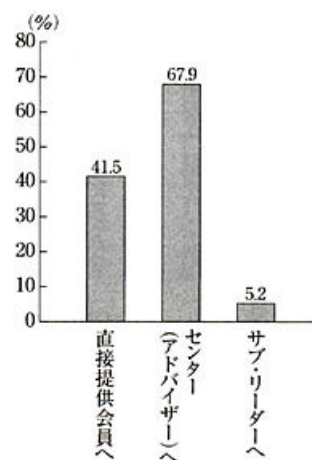


図8 援助依頼方法（M.A.）



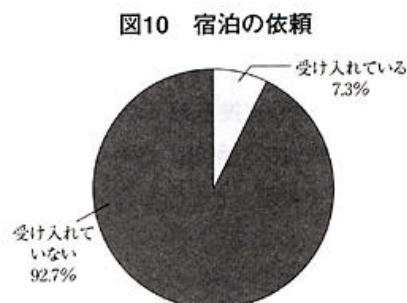
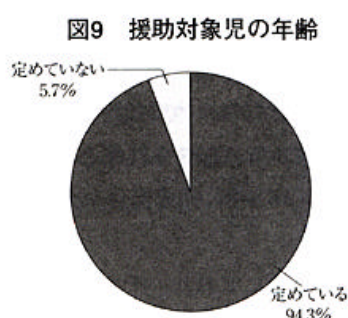
⑤援助内容

援助対象児年齢を定めているセンターは182か所（94.3%）、定めていないセンターは11か所（5.7%）である。

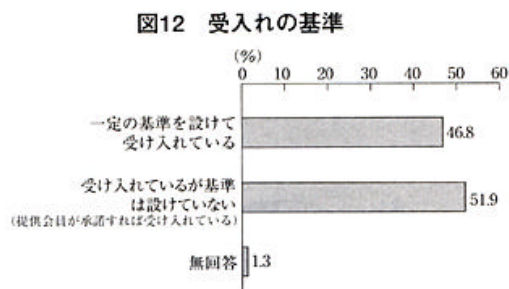
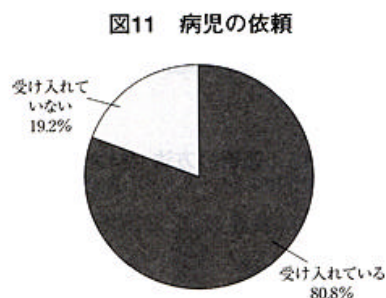
下限の年齢として「0歳」とするセンターが85か所（46.7%）と最も多く、次に「6か月」37か所（20.3%）、「3か月」33か所（18.1%）となっており、180か所（98.9%）が0歳から援助している。

上限の年齢は、「12歳（小学6年生）」が95か所（52.2%）と最も多く、次に「10歳」50か所（27.5%）、「9歳」30か所（16.5%）となっている。

宿泊の依頼を受け入れているセンターは14か所（7.3%）、この3か月間で宿泊の依頼があったのは4か所である。



病児の依頼を受け入れているセンターは156か所（80.8%）。受け入れ方法としては、「一定の基準を設けて受け入れている」が73か所（46.8%）で、その基準は「軽度の病気」33か所、「病気の回復期」30か所、「医師が受け入れ可能と診断した場合」7か所などとなっている。「受け入れているが基準は設けていない（提供会員が承諾すれば受け入れている）」81か所（51.9%）である。この3か月間で依頼があったのは133か所（85.3%）である。



障害児を受け入れているセンターは187か所（96.9%）。受け入れ方法としては、「一定の基準を設けて受け入れている」が29か所（15.5%）で、その基準は「医療行為を伴わない」10か所、「軽度の障害」9か所、「提供会員のできる範囲」8か所、「面接を詳細に」4か所などとなっている。「受け入れているが基準は設けていない（提供会員が承諾すれば受け入れている）」が154か所（82.4%）である。この3か月間で依頼のあったのは139か所（74.3%）である。

病児や障害児の受入れについて、ファミリー・サポート・センターとして一律の方針を決めるのは難しいが、多くのセンターでは、一定のルールを決めながら可能な範囲で対応している状況がうかがえる結果となっている。自由記入欄において、障害者との関わり方についての講習を開催する事例や、看護資格等をもつ有資格者のネットワーク化等の取組事例などが紹介されている。

図13 障害児の依頼

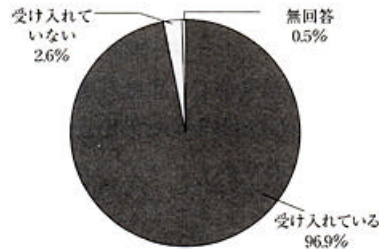
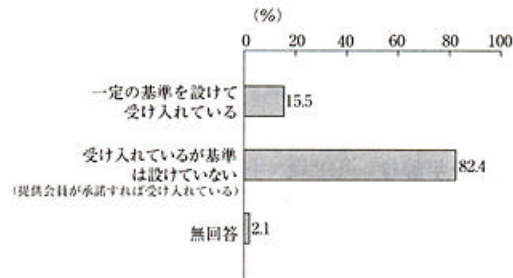


図14 受入れの基準



⑥地域の子育て関連施設や医療機関等との連携

地域の子育て関連施設や医療機関等との連携についてみると、過去1年間に関連施設や医療機関等との情報交換や意見交換を行ったことがあるセンターは148か所(76.7%)である。方法としては、「電話等により個別に」が107か所(72.3%)、「会議の席上」が97か所(65.5%)、「その他」53か所(35.8%)で、「その他」としては「訪問」11か所、「センター来館」6か所、「講習会や交流会の講師」6か所などとなっている。

また、具体的内容については131か所(67.3%)のセンターが記述しており、その概要は次の通りである。

自治体が主催する子育て支援会議、保育園の園長会議、看護師保健師協会や医師会など子育て支援に係るさまざまな会議に出席し、ファミリー・サポート・センターの説明や広報の依頼をしたり、児童虐待、子どもの心身発達等についての意見交換、子育てに関する情報交換などを行っている。

一方、個別の対応としては「障害児の受け入れ」、「育児拒否、心の病気がある等の問題を持つ母親への対応」、「行動に落ち着きがない等問題が見られる子どもへの対応」、「ミルクを飲む量が少ない乳幼児の取り扱い」、「病児保育の受け入れ」などについて、保育士、児童相談員、主治医、保育園、子育て支援センター、医療機関などへ問い合わせしたり、連絡を取るなどして連携を図りながら対応している。

図15 地域の子育て関連施設や医療機関等との連携

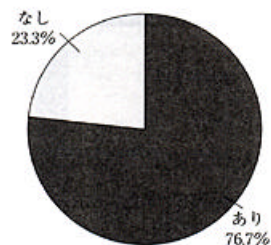
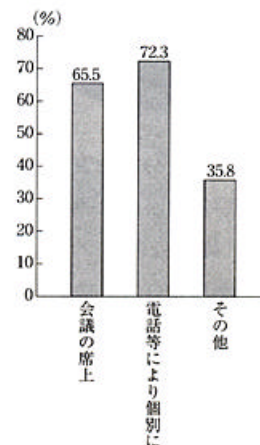


図16 連携の方法 (M.A.)



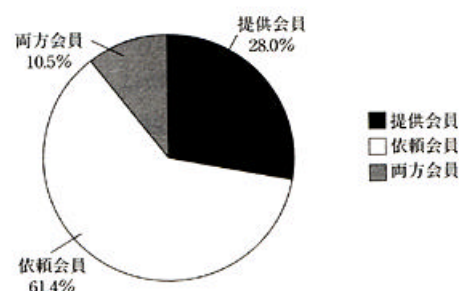
(2) 会員について

① 会員数

調査対象となった193センターにおける会員総数は94,320人で、依頼会員が61.4%、提供会員が28.0%である。

会員数の1センターあたりの平均は「依頼会員」300.4人「提供会員」136.9人、「両方会員」51.4人である。

図17 登録会員数



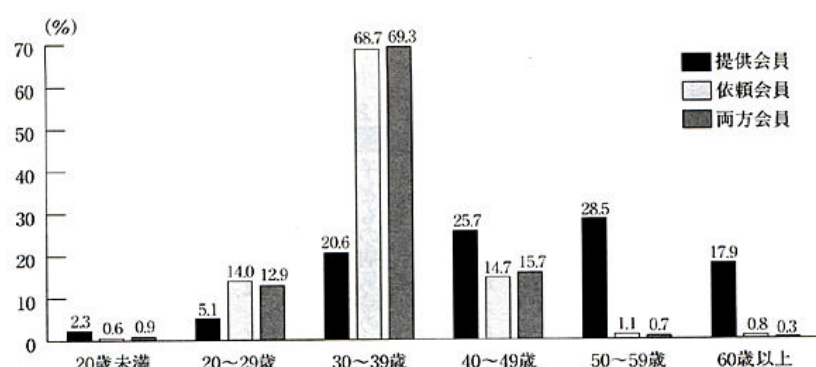
② 会員の年齢

依頼会員で圧倒的に多いのは30代で68.7%を占める。次いで40代の14.7%、20代の14.0%である。

提供会員は、50代が28.5%を占め、40代25.7%、30代20.6%と続く。60歳以上も17.9%である。

両方会員は、30代が69.3%と高く、依頼会員と同様の傾向である。

図18 会員の年齢



③ 男性会員

男性会員がいるセンターは188か所、97.4%にのぼる。

男性会員の内訳は、依頼会員78.0%、平均14.8人、提供会員が19.7%、平均3.7人、両方会員が2.3%、0.4人である。

図19 男性会員

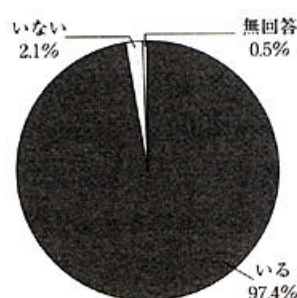
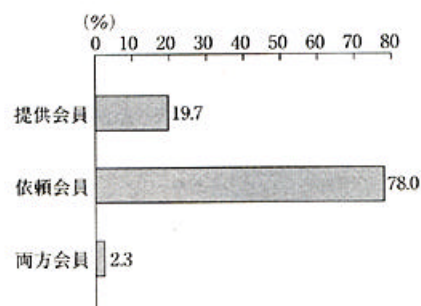


図20 男性会員の内訳

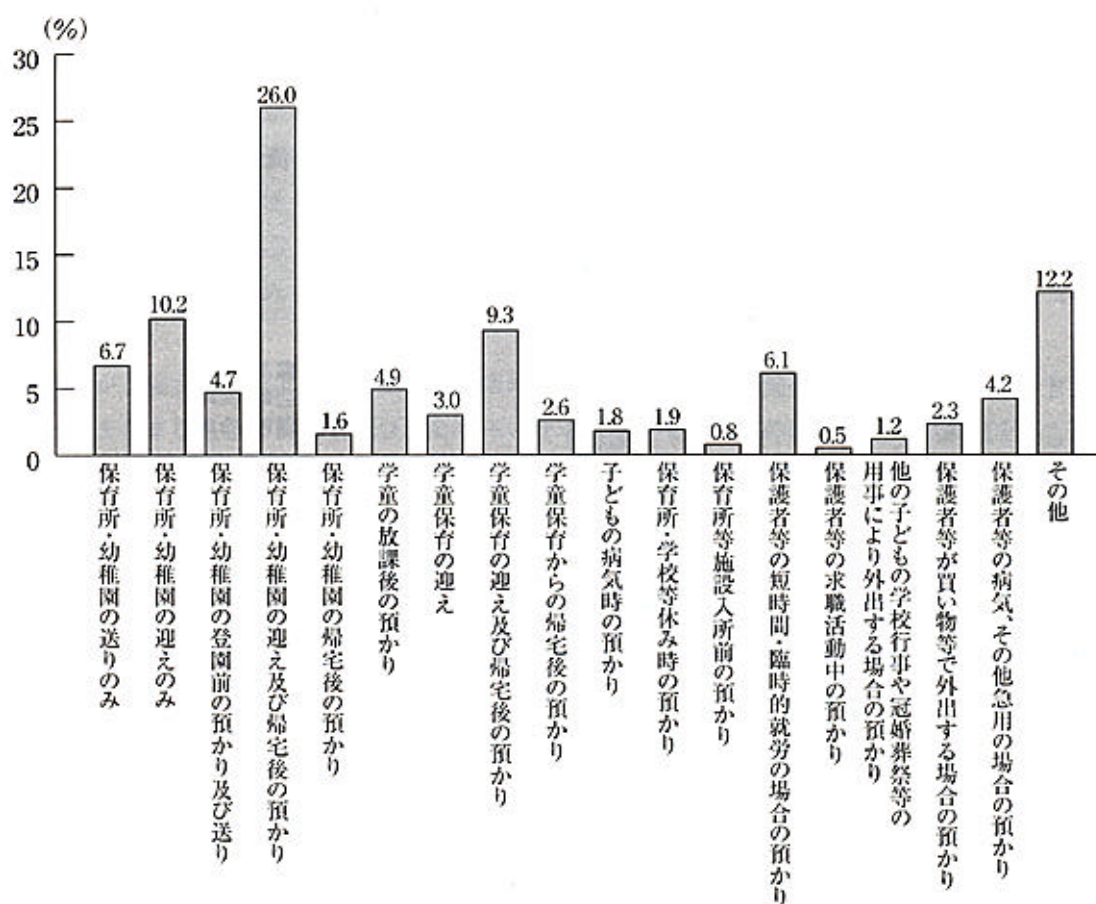


(3) センター活動について

①活動内容

平成14年4～6月の活動件数は、1センターあたり656回である。活動内容をみると、最も件数が多いのが、「保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり」の32,917回(26.0%)である。次いで「保育所・幼稚園の迎えのみ」12,923回(10.2%)「学童保育の迎え及び帰宅後の預かり」11,793回(9.3%)、と続く。全体に多様な活動をしていることがわかる。

図21 活動内容



②センターの広報

センターの広報の方法について平成 13 年度の実績をみると、「随時チラシを作成」174 か所（90.2%）、「自治体の広報誌に掲載」170 か所（88.1%）、「定期的に広報誌を発行している」163 か所（84.5%）などの方法が併用されている。

その他 56 か所の内訳は、「社協だより等併設機関の広報」11 か所、「ポスター掲示」6 か所、「ホームページ掲載」5 か所などがある。

広報誌の発行回数は 1 センターあたりの年間平均 3.0 回。チラシの作成は 1 センターあたり年間平均 1.8 回、チラシの配布場所は、「保健所・図書館・女性センター等公的施設」155 か所（89.1%）、「保育園・幼稚園」152 か所（87.4%）、「小学校」84 か所（48.3%）、「郵送・新聞折込等で各家庭へ」29 か所（16.7%）となっている。この他に、「医療機関」14 か所、「企業やスーパーマーケット」14 か所、「学童保育」10 か所、「市主催の講習会やイベント」7 か所、「児童館・児童センター」5 か所、「コミュニティーセンター」5 か所、「市報への折込」4 か所、「町内会などで全戸配布」6 か所などがあげられている。

図22 広報の方法（M.A.）

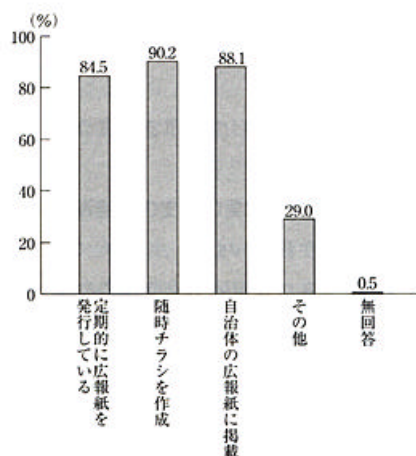
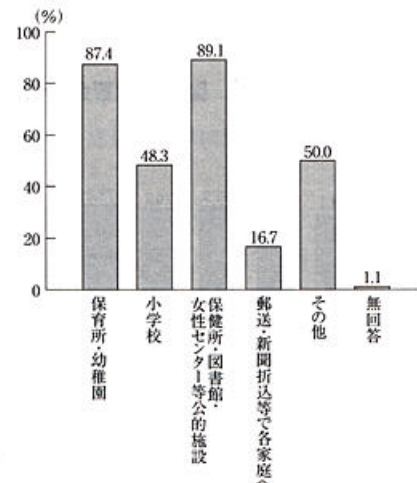


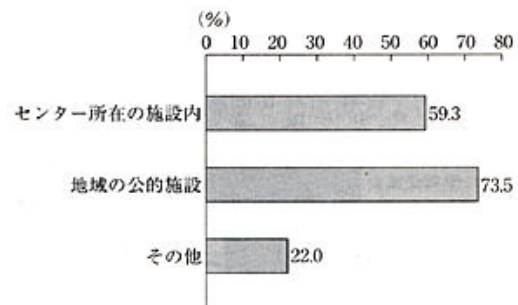
図23 チラシの配布場所（M.A.）



③会員募集のための説明会の開催状況

平成 13 年度の会員募集のための説明会を実施したセンターは、145 か所（75.1%）である。実施場所は、「地域の公的施設」が 106 か所（73.5%）で平均（実施したセンターの平均回数）8.7 回「センター所在の施設内」が 86 か所（59.3%）で平均 9.9 回である。その他は 32 か所（22.0%）で平均 19.3 回、その内訳は「センター内」5 か所、「企業」3 か所、「講習会開催時」3 か所、「PTA の联合会や学童の説明会」3 か所などとなっている。全体では、1 センターあたりの平均 16.6 回、説明会を開催している。参加人数は、述べ 38,204 人、1 回平均 15.9 人である。

図24 開催場所（M.A.）



④講習会、交流会の開催状況

講習会は平成 13 年度 1 年間に平均 5.6 回開催されており、年間で平均 23.6 時間、1 回あたり 4.2 時間の開催時間である。

講習の内容としては、「会員としての心構え」143 か所(74.1%)、「子どもの事故と安全対策」155 か所 (80.3%)、「子どもの心と身体の発達」150 か所 (77.7%)、「子どもの発育と病気」148 か所 (76.7%)、「子どもの遊び」151 か所 (78.2%)、「子どもの世話」98 か所 (50.8%)、「子どもの食事」109 か所 (56.5%)、「保育の際のこころがけ」128 か所 (66.3%)、「救急法」135 か所 (69.9%) など多岐にわたる。とりわけ、提供会員を対象にしたものが多く開催されている。その他では「地域の子育て環境について」15 か所、「センターの活動について」9 か所、「調理実習やおやつ作り」8 か所「絵本の読み聞かせ」7 か所「障害児の理解と関わり」7 か所、「活動事例発表」4 か所、「おもちゃについて」4 か所、「子どもの接し方」4 か所などとなっている。

交流会については、全体交流会を実施しているのは150 か所 (77.7%) で平均 (実施したセンターの平均回数) 1.6 回、地区別交流会を実施しているのは42 か所 (21.8%) で平均 4.8 回、会員別交流会をしているのは43 か所 (22.3%) で平均 3.6 回である。会員別交流会を開催している場合に提供会員を対象とするものが全体で 136 回と多く、依頼会員対象は9回である。

図25 講習会開催状況 (M.A.)

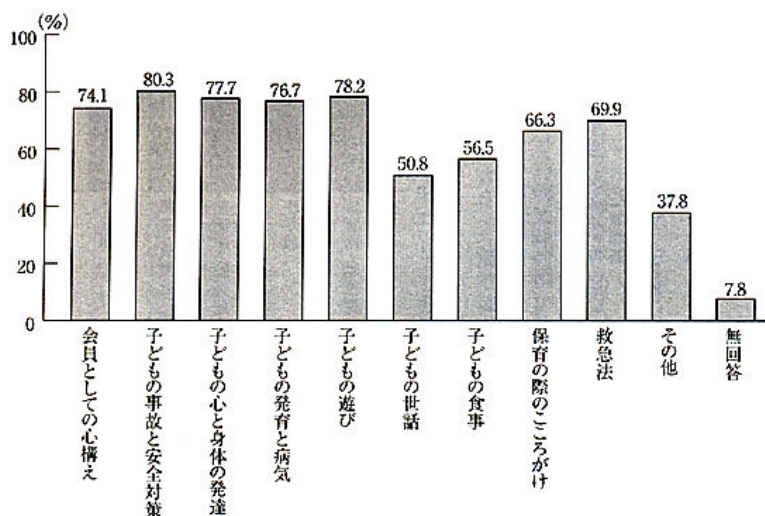
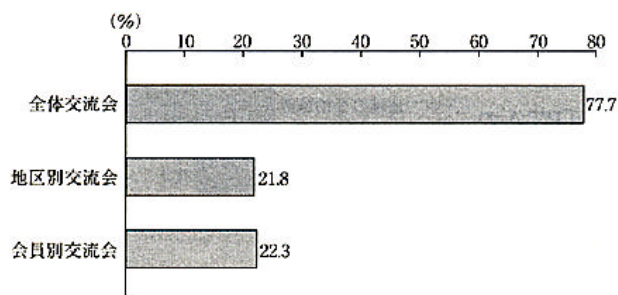


図26 交流会開催状況 (M.A.)



④センター活動に対する自由記述の分析

ファミリー・サポート・センター活動に関する意見や感想、国や地方自治体等への要望等、自由記載欄の記入センター数は166で、有効回答のうちの実に86%にのぼっている。

集約すると、次のように分類できる。

- イ 活動件数に関すること 24件
- ロ 活動報告に関すること 7件
- ハ アドバイザー、サブ・リーダー等に関すること 14件
- ニ センターへの助成に関すること 20件
- ホ 利用料の補助等に関すること 29件
- ヘ 全国レベルの広報等に関すること 13件
- ト 地方自治体への要望 7件
- チ 女性労働協会への要望
 - ・全国交流会の関すること 9件
 - ・保険に関すること 15件
 - ・その他の要望 11件
- リ その他の意見、要望 38件

以下、主な意見を取り上げながら、センターの活動に関する意見を簡単に分析したい。

① センター活動への支援の要望

個々のセンターは少ない人員で援助活動を行っていることから、センターに共通する課題として全国レベルでの活動支援が望まれている。

まず、広報に関することである。提供会員、依頼会員の意見でも、センターの広報の問題があげられているが、センターとしても、ファミリー・サポート・センター活動の認知を高めるための全国的な広報活動が望まれている。

また、アドバイザーやサブ・リーダーの資質向上のために、講習会や事例研究等の開催を要望する意見もある。近年、地域の子育て支援に求められる内容が多様化、複雑化しており、単に子育てのノウハウだけでなく、社会状況の変化を踏まえ、実態に応じた対応のノウハウの提供が求められているように思われる。個々のセンターではアドバイザー数も限られており、1人、2人といった体制で対応しているセンターも少なくないことから、事例やノウハウを共有できるよう支援体制の充実が求められている。

さらに、他のセンター活動の実際についての情報交換をしたり、関係行政機関との連携および機関の一覧等について情報提供を求めたいとするニーズがある。

②利用補助に関する要望

センターの料金に対する評価は、提供会員、依頼会員ともに様々な評価があるが、センターの立場として、より多くの会員に利用してもらうための補助制度の導入に関する要望がある。特に、母子家庭、低所得層への配慮や、有資格者への対応、ヘビーユーザーへの割引制度等、料金設定の柔軟な対応を望む意見がある。

また、提供会員が車で送迎する際にチャイルドシートを取り付けるための費用負担について補助を求めたいといった具体的な提案意見もみられた。

③活動の規則等に関する要望

センター開設にあたっての規則（活動件数）について、地域実情を反映した方向への対応を要望する声は大きい。ファミリー・サポート・センターの位置づけは、保育所の状況や母親の就業状況等地域の実態により異なるケースが多いために、全国一律の規制に対する疑問の声が上がってきているようである。一定の件数を超えることがセンターへの補助の条件となっているために、センターとしては「ノルマ」という受け止め方をしており、数字が一人歩きすることへの懸念の声もある。件数という量的側面だけでなく、サービスの質的な面も踏まえた実態把握を望む意見もみられた。「ファミリー・サポート・センターは子育て支援の一つの選択肢であり、活動件数とその重要性とは必ずしもパラレルではない」といった意見もある。

アドバイザーやサブ・リーダーの処遇等の改善についての要望もある。特にアドバイザーはアンケート調査にも示されている通り、「嘱託・非常勤」が圧倒的多数をしめているのが現状であり、常勤職員の配置により安定したセンター活動運営を望む意見がみられている。

援助活動にかかる保険に関しては、保険の内容について具体的な事例を含めて知りたいという要望に加え、補償内容の充実化を求める意見がある。具体的には、預かっている子どもが提供会員の家のものを壊した場合、自家用車を利用した際の補償等があげられている。

④事務処理の簡素化に関する要望

活動の様式について、特に活動内容の区分の見直しを中心に、簡素化への要望があがっている。

以上の要望や意見は、センター活動が地域でより重要になってきていることを前提とした意見ということができ、センター活動をしながら地域の子育て支援をより強力に展開したいという思いから書かれた意見と考えられる。センターが依頼会員、提供会員の両者の間で最良のサービスをコーディネートできるような支援のあり方について、今後も前向きな検討が求められると考える。

⑤具体的記述内容

次に、自由記述欄に記載されている意見・要望の一部を紹介する。

イ 活動件数に関すること

・センターとして年間1,000件の活動件数を達成しないと、国からの補助金打ち切りとなるようですが、人口5万都市の1,000件と、人口30万都市の1,000件とでは基準があまりにも矛盾しているのではないかと思います。

5万都市で年間1,000件とするならば、25万、30万都市は5倍、6倍の活動があってもいいのではないかと矛盾を感じます。小規模の地方都市は様々な問題も抱えています。不況のあおりを受け、人口の流出、リストラ、このままでは地方都市は崩壊してしまうのではないかと

危機感すら感じる状態です。福祉対策、少子化に歯止めをかけるためにも、国の積極的な手厚い保護を希望いたします。

・当センターでは会員を増やし、活動件数をのばせるよう努めているが、地方都市の実情（大企業がない、残業が少ない、経済的理由で利用できる人が限られている、血縁、地縁が生きている等）もあってコンスタントに「年間 1,000 件」という実績を上げるのは難しいと思われる。国の補助金の対象となる条件について全国一律のノルマではなくこうした実情を加味して頂きたい。

・ファミリー・サポート・センターに子供をお願いしたいと思っているのは人口の多い都会の人だけではないのです。人口の少ない町でも同じように必要とされていると思います。その点をもっと理解して頂きたい。内容的にももっともっと地域の独自性があっても良いのではないのでしょうか。人口数や会員数にこだわらない、困っている方のファミサポにして頂きたい。

・件数、会員数の多寡が事業推進の充実、意義を連動するとは必ずしも言えません。働きやすい環境、生み育てる環境整備は「預けやすくなる」だけではないと思います。この事は国や自治体で考えて頂きたいと思います。

・様々かつ複雑な問題を伴うのがファミリー・サポート・センターの援助活動であり、一つ一つの依頼に対して丁寧に心を込めて調整し、対応するよう努力をしなければならないと常々考えています。本来ファミリー・サポート・センターの活動は、活動回数何回以上確保というようなノルマ的な発想の出来るものではないと思いますので、私たちも数字のみにとらわれることの無い様、心掛けて活動しています。

・国の補助採択要件が「年間活動回数 1,000 件以上」と一律に定められているのは、自治体の規模等様々な要素があるにもかかわらず、あまりにも画一的すぎではないかと考えています。そもそも各自治体での保育所、幼稚園等、F・S・C以外のサービスの充実度とF・S・Cの活動件数は反比例するものと考えられます。F・S・C以外のサービスが不十分な自治体の方が補助を受けやすい現制度について疑問を感じています。1,000 件に満たなくても段階的に補助率を設定するなどの柔軟な対応を願っています。

・他のセンターとの情報交換をしたり、全会員へのアンケートを出し、その結果をもとに改善できる所は早急に改善して、会員がスムーズに、より活発な相互援助活動が出来るように努めており、現在活動件数は前年度の同月を上回っております。しかしながらファミリー・サポート・センター事業が個人での託児や地域での子育てを重要にするものであるならば、件数ではなく、本来その内容を重要視して考えていくべきではないかと思っています。

ロ 活動報告に関すること

・活動内容の分別が解りづらく困難です。現場においては非常に理解しづらいので、もう少し

現場の声を取り入れて頂きたい。

- ・活動件数を計算する際、利用内容があまりにも広範囲なため、区分に苦勞します。仕事している人と仕事をしていない人で分ける方法もあると思います。

- ・活動報告書の活動内容の区別が援助内容と援助して欲しい理由などが混じり合っていて、区分しにくいので見直しをして頂けないでしょうか。

ハ アドバイザー、サブ・リーダー等に関すること

- ・アドバイザーの養成講習会を開催して欲しい。事務全般の進め方、対応の仕方全般、相談の受け方・受けた場合の対応の仕方、トラブル等があった場合の対応の仕方、補償保険についての詳しい説明会など。また、アドバイザーが精神的に相談できる担当がいると心強い。

- ・アドバイザーの業務が、相互援助活動の支援であるということから、依頼会員と提供会員をコーディネートすることだけと考えられている部分がありますが、近年、子育ての内容が複雑化し、その対応も専門職に求められる以上の分野に及んでおります。これらを考慮し、担当の位置付け、身分保障等を考慮して欲しい。また、サブ・リーダーの研修会を開催してほしい。

- ・様々な事例が出てきてその都度対処に悩むことが多い。事例研修会やコーディネートについての学習会、情報交換が出来る場をもっと増やしてほしい。

- ・アドバイザーは援助活動の取り次ぎ業務にとどまらず、会員やセンターへの問い合わせ者の個々の生活課題（病気、障害、生活困窮等）に向き合って行かなくてはならない場面も多い。したがって子育て支援を進めていく上で、アドバイザーの専門性を高めること、研修や各種連絡会への参加をしていくことが重要だと考えられる。

- ・会員同士のトラブルに介入する場合、アドバイザーにもスキルは必要。子供の発達など保育的知識だけでなく、コミュニケーションスキルの講座などの研修システムの確立を望みたい。現在はアドバイザーが自費でカウンセリング講座などに通ったり、自主的に勉強会や情報交換をしている。

二 センターの助成に関すること

- ・当事業を推進するに当たり、アドバイザーの身分待遇について検討頂きたい。またサブ・リーダーを活性化するためには、業務上の必要経費程度を保障する報酬改定が望まれる。

- ・講演会や講習会を開催するに当たり、講師謝礼などの補助金を増やしてほしい。

・発足時に比べ、会員数、援助件数も順調に伸びており、今後一層需要の増加が考えられます。しかしながら当センターにおけるアドバイザーの稼働日数も月 18 日と制限されており、時間差出勤を導入しても、事務局体制としては十分とは言えません。需要に応えるためにも人件費等補助金の充実を要望します。

・予算面での増額をお願いしたい。協力会員が 40～50 代が割に多くいるが、チャイルドシートはこの年齢の方々には経験していなかったもの。安全で取り付けが楽に出来るものをファミリー・サポート・センターに準備しておきたいものである。

・会員数が増加するに連れ、仕事量も増え、援助の内容も込み入ってくるので、今の勤務体制では今後会員や会員になろうとする人達に十分なサービスが出来なかったり、アドバイザー同士の連絡が十分に行えなかったりする可能性が出てくると思う。より良い援助活動をするためには、アドバイザーが連絡を密にとって会員の情報等をよく把握し、会員や会員になろうとする人達に丁寧に應對する必要があるのでは、フルタイムの勤務体制になると思う。

・多様化するニーズに応じていくためにアドバイザーは日々努力していますが、定時に終了する事務量ではありません。残業になることも多く、また、事前打合せのため勤務時間が夜間におよぶ場合もあるが、それに見合う予算もなく、サービス残業になっているのが現状。地域差もあると思いますが…。実態を調査して何らかの対策等を考えて欲しい。

・市民や行政の要望に応えられるセンターにと会員研修や講習、相談や助言等により、密度の濃い事業展開を図ることを課題として取り組む中で、現在は認められていない地方の市では公用車が必需品になってきます。活動が多岐にわたれば時間外勤務も生じてきます。現在は善意と熱意で頑張っています。

・サブ・リーダーに対する報酬、旅費などの増額を望む。

ホ 利用量の補助等に関すること

・不況のためかパートで働きたいという女性が増えている反面、預けたくても時間が長くなると、利用料金が嵩むため利用できないという声もある。

・フルタイムで就労している方は、収入も安定していて有給休暇、育休制度も使用できますが、パート労働者や母子家庭の方々は休暇も取りにくく、収入も低い状況にあります。センターを利用して、利用時間、日数が少しでも長くなると収入を上回る料金を払わなければならないことにもなります。保育施設等への保育料補助だけでなく、センターの活動に対しての料金支払い等、一部補助を望む声が多く聞かれます。

・利用時間が長時間になると利用料金が高額になるので、利用したくても利用できないケース

が多い。母子家庭や低所得家庭にはとても負担が大きい。利用料金についての助成や利用頻度による割引などを考えて頂きたい。

- ・母子家庭等でパートで働いている方にお聞きすると、時給が700円前後なのでファミリー・サポート・センターを使うのは大変という。援助を受けようと思っても、料金がなくて利用まで至らない方がいます。補助金という形で国などから出して頂けないでしょうか。

- ・子供の数が多かったり、収入の少ない人たちが費用の面で負担を感じ、会員になっても利用できない現状がある。利用料金の助成制度を検討して頂きたい。

- ・家族の病気で子供を預けると、ほぼ1日の活動が数日続くことが多く、かなりの金額になる。長時間預ける場合は無認可保育所の方が安く利用できることもある。しかし必ずしも希望にあった施設が見つからないことも多いので、何らかの補助があればと思う。

- ・協力会員をボランティアの美名のもと安い報酬で活動させるのではなく、報酬に対して補助は出ないものだろうか？専業主婦や低所得者層がもっと利用しやすいように収入に応じた減免措置を設けるべきではないか？差額は補助金でまかなう方法が望ましい。協力者は労働に見合った報酬を得、依頼者は格安の値段できちんとしたサービスを受けられる。収入に応じたスライド制料金であれば不公平もないのでは？

- ・金額が高く、母子家庭の人にはなかなか対応できないとか、毎日になると辛いという声を聞く。父子、母子世帯や低所得者層の人でも利用しやすいよう補助金などの整備を進めて欲しいです。

へ 全国レベルでの広報等に関すること

- ・テレビやラジオなどのゴールデンタイムの時間帯で放送していただけるような特集番組を企画してみては・・・センターについての理解や会員確保には一番効果があると思います。

- ・ファミリー・サポート・センターを小学校・学童・幼稚園などで周知徹底して欲しい。

- ・もっとたくさんの方々に知っていただけたるように、広報活動を全国レベルでしてほしい。マスコミ等でもとりあげてもらえたら・・・。良い事業なので利用したい人、(協力・利用とも)増えるのではないのでしょうか。

- ・母子手帳交付時にPRして欲しい。母子手帳に記載して欲しい。(子育て情報の一つとして)

- ・事業の認知度が低いので、国が取り組んでいる事業として、TV など様々なメディアで広くPRして欲しい。

・仕事と育児の両立もちろんですが、育児をひとりでかかえている専業主婦についての育児援助をもっとPRしてもよいのではないのでしょうか。

ト 地方自治体への要望

・定期的に県内のアドバイザーの会議などが開催され意見交換や現状の問題点等について解決できる環境が整うようにしてほしい。

・事業拡大のためにも、県の援助金をつけてほしい。

・当市の場合子育て支援に関しては力を入れているので、親にとって選択肢が多い。ただ所轄がバラバラなので、1 か所ですべての手続きができるようになると親にとって利用しやすくなる。

・会報の発行を県の補助事業として認めてほしい。

チ 女性労働協会への要望

・全国交流会には、必ず現場で対応しているアドバイザーが出席できるようにしてほしい。

・全国交流会では事前打ち合わせ、家庭訪問に有用な聞き取りの技術であるとか、書類についての要件説明であるとか持ち帰ってすぐ役に立つ内容を取り入れてほしい。

・全国交流会で分科会があれば良いと思います。より具体的な話の中から自分たちのかかえている問題の解決のヒントとなるものを得たいからです。

・現在2 か所で開催されている全国情報交流会を5 つ〜6 つのブロックに分けてほしい。地域性を考慮した情報交換会であれば参考になる材料を多く収集できるのではないのでしょうか。

・子供が提供会員宅の物を壊した場合監督ミスということで保険が適用されませんが、提供会員宅にいる長い時間は一番事故がおこりやすい時ではないのでしょうか。一生懸命してくれている提供会員に泣き寝入りさせるのも気の毒ですし、利用会員に弁償させるのもどうか…。F.S.C 保険に是非これをもりこんで欲しいと思います。

・補償保険の充実を図っていただきたい。

感染症の児童を預かって感染してしまった場合（例 結膜炎）

預かっている児童が協力会員の自宅の物品を破損してしまった場合

- ・研修・会合保険の利用の仕方がわかりにくい。

ファミサポ補償保険の（育児）の金額を半額くらいにさげてほしい。（全国の市町村で多く加入していると思うので）

- ・「ファミリー・サポート・センター研修・会員傷害保険」は加入の対象が1日あたり50名以上参加がみこまれる研修・会合に限ると決められていますが、交流会などは小人数で行うほうが意見交換もしやすく自分の地域の会員状況もわかりやすいので後の会員活動に役立つように思われます。そこで補償保険において交流会などの小人数の場合の保障もしくはそれにかわるフォローを考えて頂きたいと思います。

- ・冊子「ふぁみりーさぽと」が会員全体に行き渡る内容で作り配布して欲しい。（サポートに対する考え方等について載せたりとかしてほしい）

- ・もっと他地区の運営状況を知りたい。（同じファミリー・サポート・センターでも地域によって条例や対応が違うので参考にしたい）

- ・他団体の情報提供をタイムリーなかたちで受けたい。女性労働協会がその窓口としての機能を果たしてほしい。

- ・講習会・交流会内容につき企画立案のアドバイスや講師のあっせん等ご教授ねがいたい。

事務が頻繁になり今後を踏まえいかに整理すべきか悩んでいる。事務管理について各センターにおける状況や効率的に進められているセンターのノウハウをお知らせ願いたい。

- ・今回の会員向けアンケートをできれば毎年実施し、内容を所属センターにフィードバックし、今後の運営に反映させる必要がある。

リ その他の意見

- ・相談にみえる方の中で、センターでは対応しきれないケースが多くあり個々のケースにあった機関を紹介したいと思ってます。しかし行政の縦割のはざまです。そういった機関を見つけることすら困難な状況です。役所の管轄にとらわれずに、関係機関の一覧のようなものがあると大変助かります。

- ・ファミリー・サポート・センターが仕事と子育ての両立支援の充実を図る目的で、保育所との連絡を親の代わりに担当するといった事を国は勧めているが果たしてこの事が本当の意味の子育て支援につながるのだろうか。自分の子どもを預けるという事を親が責任をもって自覚し、連絡する事は重要でありそれをセンターがサポートするのはどうかと思う。何よりも子どもの事を第1に考えたサポートセンターでありたいと思っています。

・軽度の病気の子の預かりについては、基準はあるがあいまいである。働く母親にとっては深刻な問題である。病後児保育の制度と施設を早急に準備していただきたい。提供会員の善意に寄りかかりながら事業を進めている現状です。

・少子高齢化の中でシルバー世代の社会参加のひとつにとの考えもあるようだが、手間暇がかかる乳幼児の世話は高齢者には身体的負担が大きいようで拡大につながついていない。

・本当にサポートが必要な母親（障害児を抱えていたり、心身に何らかの異常をもつ人）への働きかけが、ファミリー・サポート・センターだけでは難しい。健康福祉事務所や社協、家庭児童相談所等との連絡との連帯・連絡を密にしていかなければならないことを痛感する。

・子どもを預ける環境の充実の一方で、はたして子供が長時間保育、二重保育を望んでいるか？ということを見ると、子供を育てやすい親の働き方も考える必要があると思う。労働時間の短縮、育児休暇の期間延長・とりやすい環境づくり、再就職のし易さ等。子供の育ちが危ういといわれる昨今、子供の小さい頃にしっかりと親子関係を結べるような、子育てを楽しめるような環境づくりが必要ではないか。

・転勤した場合、再度講習等を受講しなくてもいいように全国共通会員証を（センター同志で連絡とり合う）となると会員の負担も少ないのでは。

・子育て中の親の不安が高く、入会希望を聞いているうちに他関係へ繋ぐ必要のある親子もあり、ネットワークの必要性を感じます。関係諸機関との連帯がよりすみやかに行える様、その体制づくりに一層の支援を頂きたい。

・大都市とことなり活動件数は多くないけれど、子育てについて本当に困っている人がいる以上ファミサポは絶対必要です。市民一人一人の声を聞き子供たちが満足をもち充実した居場所を作る為には5年以上かかるのではないのでしょうか。子育て不安のお母さん達の居場所（子育て相談）にもなっていると思います。人間関係の弱い今の時代だからこそファミリー・サポート・センターは不可欠だと思います。

・当市では障害児のサポートも受けています。お母さんが出産の為、上の子（障害児）のバス停までのお迎えを依頼された事例がありました。お母さんと同じくらいの年齢の方をご紹介します、1 か月半の活動が行われましたが、依頼のお子さんが不安な気持ちにならずに会員さんに甘えながらスムーズに活動が終了しました。他の障害児をもつお母さん達はそのサポートを見て感動され、自分も何か協力したいと会員になって下さいました。このようなお話を聞くと、改めてセンターの必要性を実感でき本当によかったと思います。

・思春期の娘と親子関係があまりうまくいってなかった提供会員が援助活動することにより、依頼会員の子どもを娘がとてもかわいがり、そのことによって会話がはずみ、親子の絆が深まったと喜んで話してくれた。将来の目標として保育士の道を選ぶとのことである。

・当市では市の育児支援センター内にファミリー・サポートが置かれ、子育て相談室も併設しているので、互いに相談し合いながら問題解決にあたることができている。また、市内の子育て関連機関と推進会議等をもったことで、PRなどに協力が得られた。

・開設2年目を迎え、当センター事業も軌道に乗り、周知が進むにつれ母子家庭、障害児を持つ家族の支援等、預かりの幅も広がっている。支援会員さんの親身なサポートが特徴的で、会員さんからの感謝の声を多くいただいている。

・当センターでは、①事前での打ち合わせで十分な話し合い、②依頼会員・提供会員の情報収集、③市独自の特色を生かしたサポートをする、この3点を立ち上げ当初から実施するとともに、会員数・活動件数を伸ばすことだけではなく、きめ細やかなサービスによる信頼関係の確保という点を重視して活動してきました。今まで大きなトラブルもなく円滑な援助活動が行われている結果をみてこの点において間違っていないと確信しています。会員とのコミュニケーション＝信頼関係の大切さが必要だと感じています。人は様々な価値観をもっていてその考え方・感じ方・それに基づく生活形態の相違があって当然なのですからそうしたことにアドバイザーとして耳を傾け、受けとめて、相手の立場に立ってみることで、会員からのさまざまな情報を得ることができ、円滑な援助活動を進めるうえで大きく役だっています。会員ひとりひとりの価値観の相違を大切に考えて、よく話し合い、よく聴きあって近寄る努力をしています。

・障害児を受け入れている基準を設けるのが困難な為、障害を持つ子どもの療育過程、医療行為発作、対処方法などを伺い、承諾をいただいた提供会員と事前の打ち合わせをして受け入れています。保護者の協力を得ながら短時間の援助から始め、少しずつ障害を持つ子どもと提供会員との信頼関係をつくっていくという、長い目で援助活動に取り組んでいただいています。どこまで預かれ、どこまでが預かれないのか素人判断になってしまい、難しいと思うことがあります。

・今年度になって、深夜12時までのサポートをしておりますが非常に喜んで貰っています。

・特別なPR活動はしていないが年1回市広報紙に掲載する事と新聞・TV等の取材を受ける事、又会員、サブ・リーダー等の口コミにより会員増・活動増をみている。

2. 提供会員

提供会員の調査は、各センター毎にそれぞれ 10 名の提供会員を無作為に抽出してもらい、合計 1,930 人に調査票への回答を依頼した。有効回答数は 1,467 人、回収率は 76.0%であった。(調査方法及び調査対象の抽出に関する詳細は、I 調査の概要 P1～P3 を参照)

(1) 提供会員の横顔

① 40 代 50 代の女性が多い

提供会員はどんな人たちだろうか？その平均的な横顔を調査結果から描いてみよう。40 代 50 代の女性で、夫、子どもといっしょに暮らしている。2 人に 1 人は仕事をしていないと答え、仕事をしていると答えた人もほとんどがフルタイム以外で仕事をしているが、おそらく自由な時間をやりくりして、複数の仕事や地域活動に積極的にかかわっているのではと想像される。また子どもが好きで、子育ての経験を生かして、育児の援助をしたいと考えている。何か社会の役に立ちたいという意欲がある。調査結果から浮かび上がってくるのは、そんな横顔である。そして約 70% の提供会員がファミリー・サポート・センターの活動に満足している。

もう少し詳しく見てみよう。

1,467 人の男女別の内訳をみると、女性が 1,428 人 (97.3%)、男性が 39 人 (2.7%) である。つまり圧倒的に女性が多い。年齢別にみると 50 代 (50 歳から 59 歳まで) が 453 人 (30.9%) と一番多く、次いで 40 代が 411 人 (28.0%)、30 代が 294 人 (20.0%) の順になっている。同居している家族はどうかというと、配偶者と同居 1,260 人 (85.9%)、子どもと同居 1,073 人 (73.1%) となっている。子どもと同居している人について、子どもの数を聞いたところ、2 人が 460 人 (42.9%) ともっとも多く、次に 1 人が 383 人 (35.7%) となっている。

図27 性別

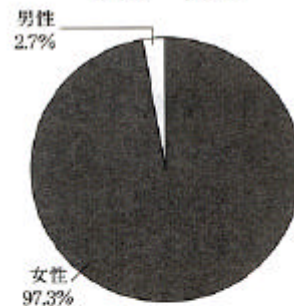


図28 年齢

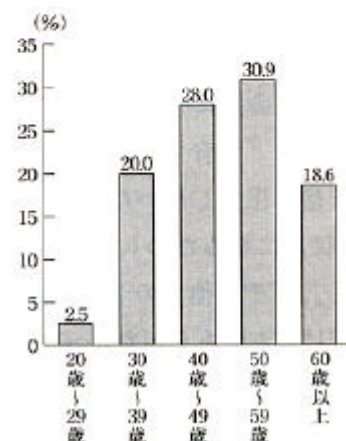


図29 同居の家族(M.A.)

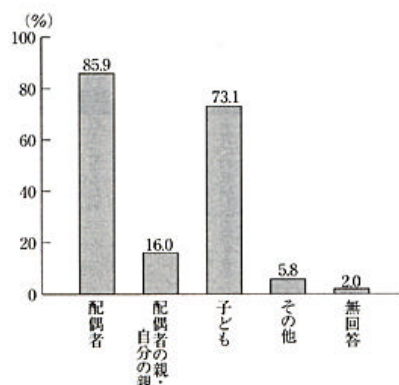
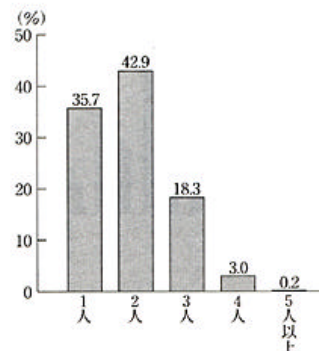


図30 同居している子どもの数



二足、三足のわらじを履き回し？

提供会員としての援助活動以外の仕事をしているかどうかについてみると、仕事「あり」と答えた人が763人（52.0%）。「なし」と答えた人は690人（47.0%）で、「あり」の人がやや多くなっている。「あり」と答えた人の中ではパートタイムで外で働いている人が379人（49.7%）で、主に自宅で働いている人が129人（16.9%）、「その他」198人（26.0%）。フルタイムで働いている人は57人（7.5%）と少数である。

「その他」の中身は、アルバイト、自営業、不定期な仕事、内職、ボランティア活動、ピアノ教師、ホームヘルパーなどで、さまざまである。この問いは選択肢の作り方があまりよくなかったかもしれない。「その他」の中身をみると、どう答えたらいいか回答者が迷っている様子がみえてきそうである。「なし」と答えた人の中にも、ボランティア活動や不定期な仕事をしている人がいるのではないかと想像される。いずれにしても、二足のわらじや三足のわらじを履き回して活動している姿が浮かんでくる。

提供会員になった理由については、「子どもが好きだから」、「子育ての経験が生かせるから」、「持っている資格を生かしたいため」、「育児の援助をしたいため」、「収入になるため」、「時間があり何かをしたかったから」、「その他」の7つの選択肢の中から、あえて1つだけ選んでもらった。

この問いでも、どれを選ぶか迷った人が多いのではと思われるが、結果は「育児の援助をしたいため」460人（31.4%）、「子どもが好きだから」357人（24.3%）、「時間があり何かをしたかったから」205人（14.0%）、「子育ての経験が生かせるから」154人（10.5%）の順になった。社会に役立つ活動をしたいという思いが伝わってくる数字である。

図31 仕事の有無

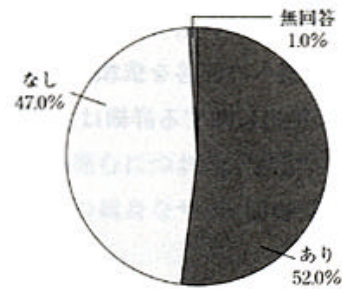


図32 仕事の形態

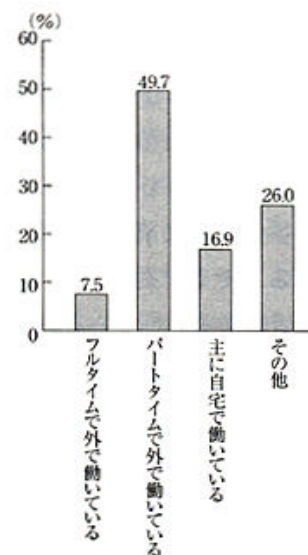
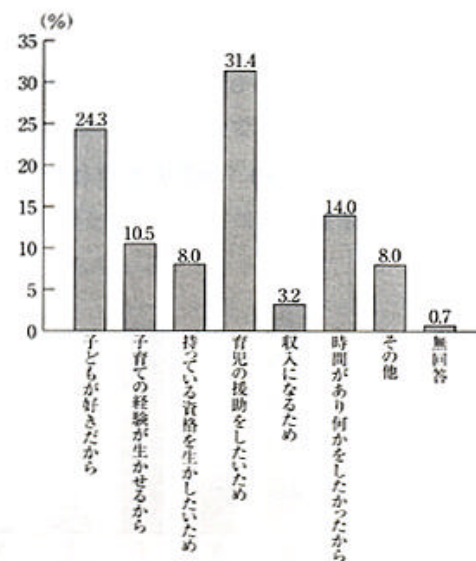


図33 提供会員になった理由



③10人7人が活動に満足している

ファミリー・サポート・センターの活動に満足しているかどうか、という問いには、「大いに満足している」と答えた人が130人(8.9%)で、「満足」と答えた人が907人(61.8%)だった。合わせると10人のうちほぼ7人が満足と答えている。

この点を具体的に活動していて良いと思う点を聞いた。最も多いのは「依頼会員に信頼され、やりがいを感じる」982人(66.9%)で、以下「自分や家族と援助している子どものふれあいが楽しい」919人(62.6%)、「育児の経験を生かすことができる」811人(55.3%)となっている。

反対に困っていることについては693人(47.2%)が「困っていることは特にない」と答え、次に397人(27.1%)が「依頼が少ない」と答えているのが目立つ程度である。活動に対する満足度はたいへん高いといっていよう。

図34 センター活動に対する満足度

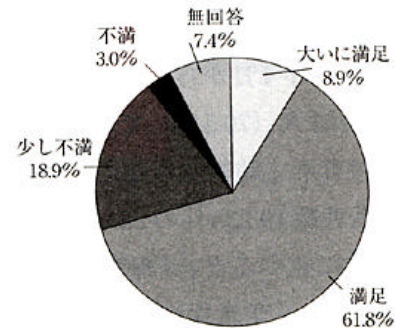


図35 センター活動をやっていて良いと思うこと (M.A.)

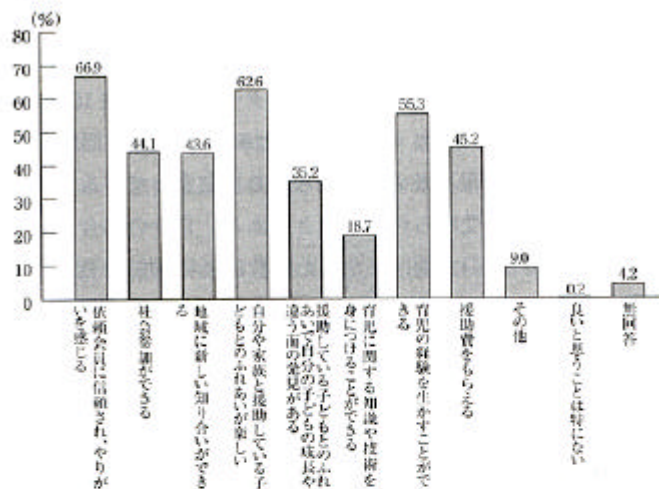
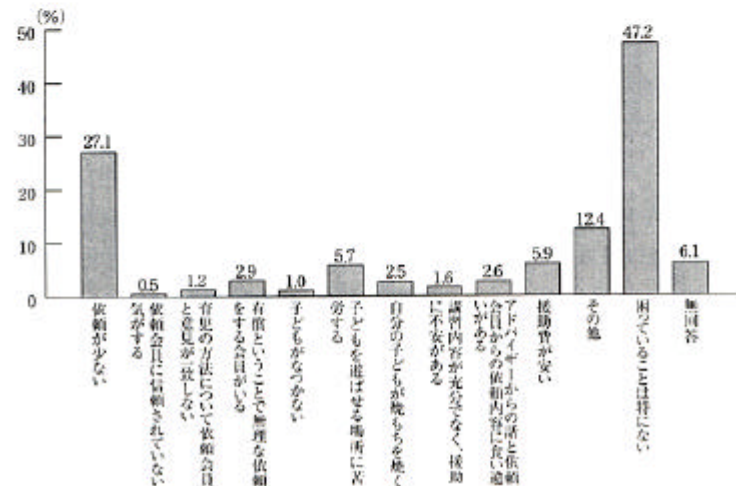


図36 センター活動をやっていて困っていること (M.A.)



(2) 活動状況

①援助活動の回数、収入、内容

平成14年4月から6月からの3か月間に、援助の依頼を受けた者は1,166人(79.5%)であった。援助活動で最も多かったのが「保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり」4,241件で総援助活動件数19,238件の22.0%を占めている。以下多いものから順番に並べると、「保育所・幼稚園の迎えのみ」1,974件(10.3%)、「学童保育の迎え及び帰宅後の預かり」1,679件(8.7%)、「保育所・幼稚園の送りのみ」1,388件(7.2%)、「学童保育の迎え」971件(5.0%)、「保護者等の短時間・臨時的就労の場合の預かり」930件(4.8%)となっている。

送迎に使った交通手段については、「その他」として「車の使用」をあげた人が448人(38.4%)と徒歩と答えた人の389人(33.4%)を上回って最も多かった。

援助活動をおこなった場所は、自宅882人(75.6%)が最も多かった。次に依頼会員の家184人(15.8%)、送迎のみ119人(10.2%)となっている。その他157人(13.5%)で多いのは公民館・児童館などの公的施設37人、公園18人、ファミリー・サポート・センター16人、病院10人などである。

1人当たり1か月の平均援助回数は5.5回で、時間によると1か月約12時間である。また平均の収入金額は1か月約9,000円になり、収入が最も多いもので83,300円となっている。

援助の依頼を受けても、ときには引き受けられないこともある。自分の都合で引き受けなかったことがあると答えた人は226人(19.4%)、引き受けなかった回数は1人平均1.8回となっている。

図37 援助依頼の有無

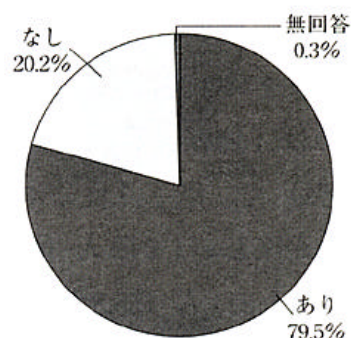


図38 援助活動の内容

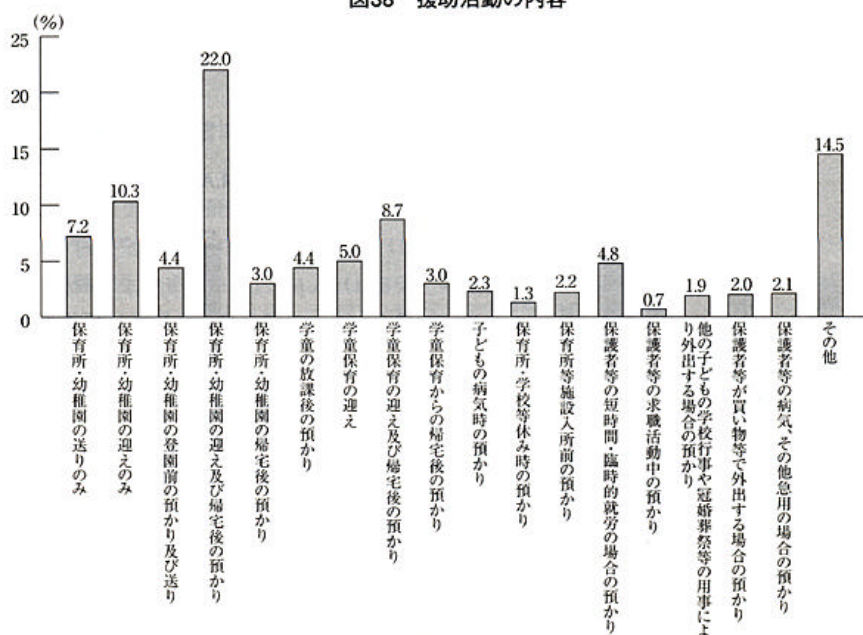


図39 送迎の交通手段 (M.A.)

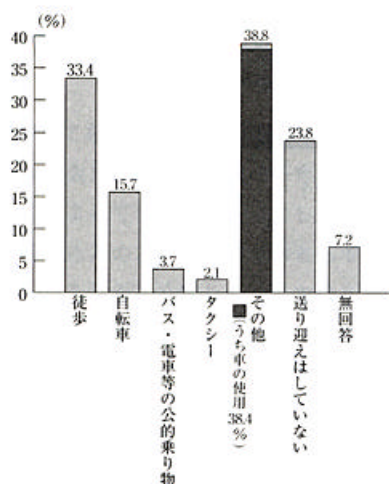


図40 援助活動を行った場所 (M.A.)

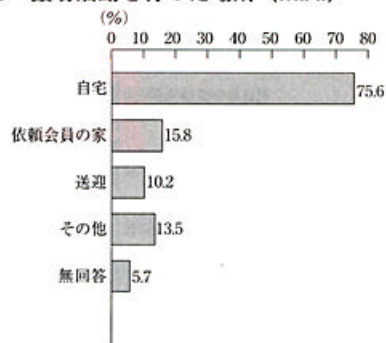
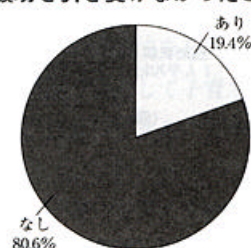


図41 援助を引き受けなかったことの有無



②急な依頼とキャンセル、早朝・10時以降・土・日・祝日・宿泊など

仕事や病気などのために急に援助を依頼されることがある。そういうときの対応状況はどうなっているだろうか。

過去1年間で、当日急な依頼があった人は453人(30.9%)でその回数は1人平均3.5回となっている。当日急なキャンセルがあった人は490人(33.4%)でキャンセルを受けた回数は1人平均2.2回だった。

急な援助(時間や内容)の変更があった人は260人(17.7%)で依頼を受けた回数は1人平均2.8回だった。早朝の援助を依頼された人は217人(14.8%)で1人平均14.2回だった。夜10時以降の援助を依頼された人は80人(5.5%)、宿泊の援助を依頼された人は5人(0.3%)で、いずれも少なかった。

3人に1人近くが急な依頼を受けているわけであるが、では援助を行ったのであろうか。依頼を受けた回数を記入した人数と援助を行った回数を記入した人数が合わないために十分な分析ができないが、たとえば早朝の援助についてみると、依頼を受けた回数は1人平均14.2回で、援助を行った回数は1人平均12.5回となっている。10回のうち約9回は対応していることになり、よく対応していると言えるだろう。

反対に当日急に自分の方からキャンセルした人は121人(8.2%)で、1人平均1.7回だった。キャンセルの理由で一番多かったのは自分の病気のため41人(33.9%)と家族の病気のため41人(33.9%)で、次に自分の用事のため23人(29.0%)、家族の用事のため14人(11.6%)となっている。その他には葬儀、交通事故などがある。

自分からキャンセルしたときの依頼会員への連絡方法は、直接依頼会員に68人(56.2%)、センターを通して57人(47.1%)、サブリーダーを通して8人(6.6%)となっている。

図42 通常以外の援助活動の状況

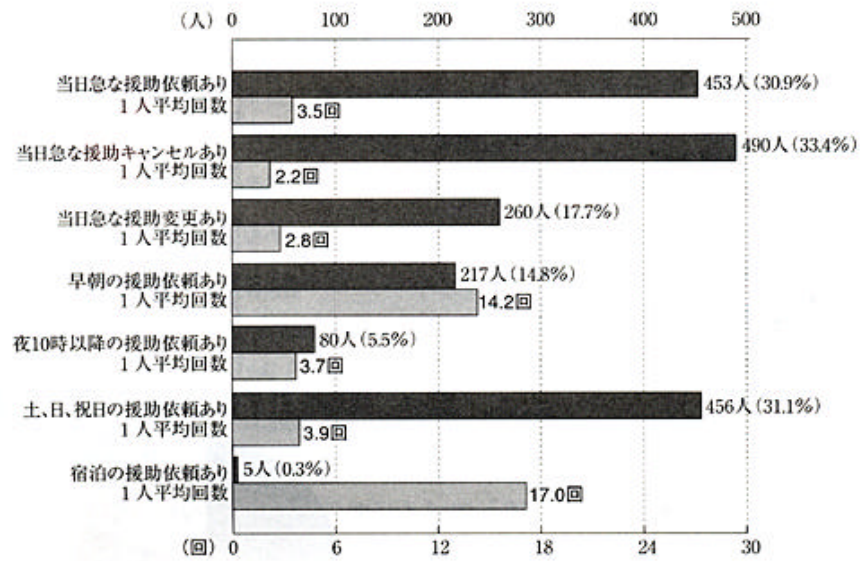


図43 当日急に自分の方からのキャンセル

図43-1 その有無

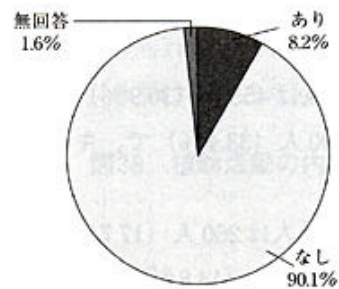


図43-2 その理由 (M.A.)

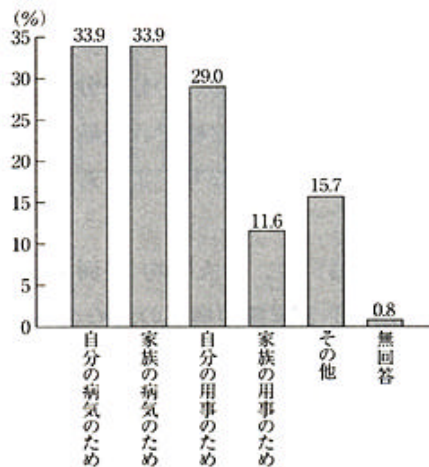
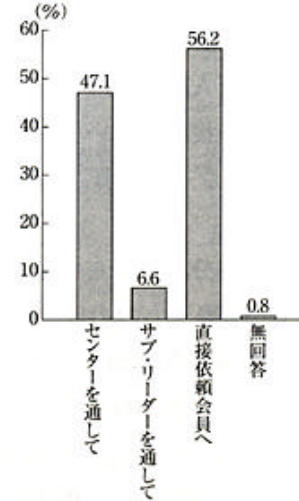


図43-3 依頼会員への連絡方法 (M.A.)



(3) 自由記述からみえるもの…子育て中の母親に対する励ましのまなざし

子育て及びファミリー・サポート・センター活動について意見や要望を自由記載欄に記入した人は1,195人で回答者の81.5%となっている。

①子育てを支えてあげなければという気持ち

提供会員は、最近の親の子育てをどのように見ているだろうか。自由記入方式で聞いてみた。当然人によって考えが違う。まして年齢もさまざま、立場もさまざまである。いろいろな考えがあるのはもちろんのことだが、全体として言えば、若い母親が一所懸命頑張っている姿に感心し、これでいいのだろうかと心配しつつ、やはり社会的なサポートが必要なのだと感じ、あたたかく見守っている様子がみえてくる。もちろん、それはそのまま「1.横顔」でみた提供会員になった理由につながっているのである。

たとえばある人は、お母さんたちはみんなまじめに一所懸命に子育てをしていると見ている。社会環境が変化して、いまの時代の子育てはたいへんだ。社会全体で協力して子育てを支えるようにならなければいけない。子どもは社会が育てるものだ。そして、自分にできることを肩ひじ張らずやっていきたいと考えている。

そうかと思えばある人は、親として未熟な人が増えている。お礼も言えない、挨拶もできない、と感じている。「お金を払っているから当然」みたいな人がいる。しかしそう感じつつも、批判するのではなく、まずあたたかく受け入れてあげることが必要だと考えている。

このように、好意的な意見と批判的な意見は表面的には半々だが、根底に流れているのは子育て中の母親に対する励ましのまなざしである。いまの社会で子育てをすることのたいへんさはよくわかる。働いている女性も働いていない女性も、それぞれに子育ては重荷になっている。だから社会が支援しなければならないという思いである。

②仕事と子育ての両立、子どもに対する愛情、夫婦の協力

もう少し詳しく見てみよう。

とかく批判されがちな今の子育てであるが、むしろ実際の援助活動の経験から得られるのは好意的な意見が多い。

これには大まかに言って3つのパターンがあるといえる。

第一に、困難な環境なのによく頑張っているというものである。仕事と子育てを両立させようと頑張っている姿勢を応援したいという意見である。仕事と子育てを両立させるため頑張っている姿が頼もしい。子どもと過ごす時間が短い分しっかり向き合っている。就労しながら、子育てを上手にしている。意思や愛情の表現がすばらしい。見習いたいところもたくさんある、等々。

第二は、きちんと子育てしているという意見である。こまやかな愛情を子どもに注いでいる。とても微笑ましい。若いけれど一所懸命子育てしているのがわかる。親子のつながりのたしかなさを感じる。自分の気持ちをリフレッシュしながら、新たに子育てのエネルギーを得ている。母親がおおらかで子育てに意欲的で、情緒的にも豊かで、しつめもしっかりしている。子どもの気持ちを尊重している点がとてもいい、等々。

第三は、父母が共に協力して子育てをしているという意見である。子育てと仕事を両立している若い父母を見るといいなと感じる。素敵だと思う。その手伝いができる喜びを味わってい

る。父親がよく迎えに来るなど、両親そろって子育てに参加している。父親が日々の細かい部分から家事まで協力しており、母親である妻の立場も尊重している、自分のころにくらべて羨ましい限りだ、等々。

③しつけができない、自分の子どもしか目に入らない、親中心、夫が無関心

もちろん批判の声もある。体験が違い、世代が違えば、子育てに対する考えが違って当然であるし、年上の提供会員の胸中に、いまの親はという思いがあっても不思議ではない。

とくに多いのが子育ての仕方についての批判である。しつけができていない、叱れない、あまやかしている、ペットのように扱っている、という声が多い。食事など作法が身につけていない、行儀が悪い。さらには身勝手な子どもが多い。善悪がわからない。

これに関連して自分の子どもだけしか見ていないのでは、という意見もある。

さらに情報が氾濫していて、子育てに自信を持てない親が多い。習い事に行かせれば教育熱心だと思い、しつけは幼稚園小学校でしてくれると思っている親がいる、等々。

第二に、親中心の生活になっているのでは、という意見も多い。子どもが親の生活パターンに合わせて生活させられている。親の都合のいい放任主義になっている、等である。そして親の都合が度を越しているとみる人からは、子育ては母親がすべき、という意見も出ている。

第三に、夫が協力しないという意見も少なくない。父親の姿がついぞ見えない。まだまだ男性の理解は少なく、母親に押し付けている。その結果子育ての重荷が母親にのしかかってきている、等々である。

④いまの子育ての背景にあるもの

以上のような批判の言葉も、かならずしも突き放した響きを伴っているわけではない。その背景に、社会的な事情があることを多くの人は認識しているからだ。今の日本社会が子育てにやさしくない。子育て中の母親を追い込んでしまう要素がたくさんある。

核家族で両親がフルタイムで仕事をしていたら誰かの手助けなしでは子育てはできない。乳幼児を持つ若い母親たちは本当に子育てに悩んでいる。母子カプセルから抜け出せないで苦しんでいる。母親が孤立している、等々。

そういった社会的背景をまとめたかたちで指摘した二つの文章を要約して紹介しよう。「人間関係が希薄になった反面、情報が氾濫している。女性たちは子育てだけでは満足できず、自分も社会参画したいと思っている。しかしまだこの社会では子育ての大切さが隅に置かれている。子育てが母親に任されているという現実があり、母親は社会からの疎外感に苦しんでいる。それが育児に悪影響を与えても少しも不思議ではない」、「昔の女性は家庭で子育てに専念できたのに対して、現代の女性は非常に負担の多い生活を強いられている。そのストレスはたいへんなもので男よりも重いのではないか。夫一人の収入で生計はたちゆかず、妊娠して子どもが生まれても共働きしつつ育児に向かう。感心もするし、危惧も覚える。昔は女子教育がいわれたが、いまは男子教育が必要ではないか」若い親たちにエールを送りたい、そんな気持ちがひしひしと伝わってくる文章ではないだろうか。

(4) 自由記述から見えるもの…ファミリー・サポート・センター活動についての意見や要望

調査の最後にファミリー・サポート・センター活動についての意見や要望を自由記述形式で書いてもらった。

① もっと広報すべきだという意見

たいへん多かったのが、もっと宣伝すべきだ、せっかく良い活動をしているのに知らない人が多い、という広報活動に関する意見である。広報の方法についても、役所の広報誌で大々的に宣伝する、産婦人科医、乳幼児雑誌などに働きかける、民生児童委員が0歳より未就園児の家庭を訪問して子育て支援の情報を告知する、などいろいろな提言をいただいた。

② 利用料が高すぎるという意見／低すぎるという意見

利用料に関する意見も多く見られた。預かるのはたいへんだが、利用料が高いので気軽に頼むことはできないのではないかと、ボランティアとしての性格が強いのだからもっと安くしてもいいという意見が多かった。また預かるほうとしては安く、預けるほうとして高い。この差額を行政がうめてはどうかという意見もあった。

逆に安いのではという意見もあった。活動回数が少ないと収入として当てにならないので魅力がないという意見などである。高い、安いの比率はだいたい4対1であった。

利用料の授受がいやだ、子どもの目の前で金銭の受け渡しをしたくない、時間預託制のようなポイント制でもいいのではとか、月々の振込にできないか、など利用料についての意見もあった。

その他次のような内容の意見が多かった。

- ・アドバイザーなどの対応に関する意見／批判や要望
- ・時間外、休日、緊急時等の対応に関する意見
- ・会員間の交流会や講習会に関する意見
- ・依頼が少ないという意見

ほとんどがファミリー・サポート・センター体制の充実にかかわる具体的な意見で、個々のセンターの様子やアドバイザーの顔が浮かび上がってくるようだった。しかし中には、本来なら行政が延長保育を実施するべきなのではないかと、行政とボランティアのパートナーシップのあり方を問いかける声もあった。

③ ファミリー・サポート・センターに対する高い評価

全体的に見て、ファミリー・サポート・センター活動はとても良い活動であると高く評価する意見が多かった。そういう意見のいくつかを紹介しておこう。

- ・女性が働き続けるためにも専業主婦がゆとりを持つためにも子育て支援は必要。いろいろなかたちがあると思うがファミリー・サポート・センターは、行政がかかわっているので安心、専業主婦が堂々と利用できる、有償なので割り切って活動できるなど利点が多い。
- ・とても心を癒される良い仕事と感謝している。
- ・本当に良いシステムだと思う。子どもが好きで子どもとかかわる仕事がしたかったが、資格がないのであきらめていた。活動できてうれしい。

・自分が若かったころには保育園しかなく、仕事を続けたいと思っても保育園に受け入れてもらえず、やむなく仕事を一時中断しなければならなかった。ファミリー・サポート・センターは、若い人たちが安心して子育てをしながら仕事を続けられるためにはなくてはならないシステムだと思う。

さて、以上のように、提供会員はファミリー・サポート・センター活動に対して高い満足と高い評価をしている。その根底には、子育てを社会が支えなければという気持ちがあると言える。子育てを社会が支えるためには、信頼できる関係の中で子どもを預けたり預かったりしながら育てる、そういう仕組みを広げていくことが重要である。ファミリー・サポート・センター活動はその大切な一翼を担っている。しかしせっかくの提供会員になったのに 3 か月間に 1 回も援助依頼がなかった人が 20%いて、また依頼が少なくて困っていると答えた人が 27%いる。提供会員にかかる期待はますます大きいのである。

(5) 具体的記述内容

次に、自由記述欄に記載されている意見・要望を紹介する。

イ 子育てについての意見・要望

イ) 今の親の子育てに関すること

・私もまだ子育て歴 11 年で子育て真っ最中ですが、が、もっと若いお母さん達と接して感じることは、仕事と家庭、子育て、一所懸命やっているということです。髪の毛を染めたり、厚底ブーツで子どもを抱っこしたりと眉をひそめるようなスタイルでも子供を愛しているなど感じる事が多くあります。

・私がお預かりしております親子さんに関してのみ述べさせていただきますと皆さん一生懸命で愛情深く接していらっしゃると思います。相互の信頼感というものがお子様から語られる親への想いの中に感じ取られます。また、自分自身の気持ちをリフレッシュしながら、新たにお子様への育児のエネルギーを得てるお母様もいらっしゃいます。皆様、皆美しい、輝いている顔をされています。

・1 父母が共に協力して子育てをして素敵だと思います。2.母親が大らかで子育てに意欲的で情緒的にもしつけ、しっかりしていると感じます。3.子どもを持って仕事出来る…両立をしている若い父母を見ると随分いいなと感じ、そのお手伝い出来ることの喜びを味わうことが出来る。人との交流や社会の仕組みを活用して生活する、力強く生きているのを若い親から感じます。

・若いけど、一生懸命子育てしているのがわかります。仕事を持っているお母さんなのにノー

トに細かく子供の様子を書いてくれたり、お弁当も可愛く、手の込んだものを作ってくるお母さんや、絵本を沢山読んであげているお母さんなど接しているととても嬉しくなります。子供を虐待している親のニュースとは違ってほのぼのとしてきます。いろんな人がいると思います。私は今の人達、結構頑張っていると思います。見習いたいところも沢山あります。

・今時の親は時々耳にしますが、実際お会いするお母様方は非常に賢い人が多く、お子さんをお願いしますと言う礼儀正しい姿勢は、見事なものです。また、準備すべき用品（ミルク、おむつ、着替え、おもちゃ、ビデオ）に至っても完璧です。中にはさぞかし忙しいであろうのにお弁当を持たせ、1日の過ごし方を日程表にして持たせてくれる方もいらっしゃるほどです。それぐらい子育てに真剣ということでしょう。私自身、我が子を他人に預けることなど考えもしなかった30年前のことを思うとむしろ教えられるのは私の方です。

・「子育て」の良し悪しは判断できかねますが、若いお母さん方は子育てをしながら、自分も成長していくんだという気持ちを持っているように思えます。見守ってあげたいですね。たくましく育てている親もいれば、叱ってばかりで誉めることを忘れていると思われる親、子供の言いなりな親、他人に悪いことをしても注意できない親、親も子も挨拶が出来ない親などなど昔も今もあればきりがありませんが変わりませんよね。小さな目で見ると腹も立ちますが、せめて周りが大きな目で（母を再定義し、母になることの難しさを理解し、共感しあい考えながら）「そんな子育てあっていいよ」と言える子育てをしていてもらいたいですね。

・しつけが今一出来ていない気がする。食事の作法、行儀など出来なさすぎている。親が子供のためという考えに欠け、自分の勝手さに子供を振り回している気がする。そのためか我慢が出来なかったり、怒られたことがないせいか怒られ方を知らなすぎる。親が親でないというか子育てをしているという自覚があるのか考えさせられることがある。

・叱らない親が増えているように思います。物事の善悪を教えてやれるのは親しかいないのに、ただ甘かやすばかりで子供の言いなりになっている親があまりにも多いようです。また子供より自分が可愛い親も多いです。

・私が思いますのに今の親子さん達（全部ではない）は一寸、子供に対して甘やかしすぎ、贅沢のさせすぎ、我慢をすること、朝夕の挨拶、書けば色々ありますが何かできていないように思います。物の大切さ等、考えて欲しいなあと思うことがあります。

・親自身が大人になりきれず、我が子をオモチャ、ペットまたは自分の所有物のような扱いをする人が多く、親としての責任感のなさを感じます。特に虐待により傷つけられたり、命を奪われるような事件が増えている子育て環境に心痛みます。子育てを多方面で援助する必要があると言われている時代ですが、親の教育、親を親として育てる支援も必要だと思います。

・自分の子供だけに興味を持って自分の子供さえよければOKみたいな所がある。誰が見ても叱る場面のところを怒らずに子供の意志を尊重しているのか、親が無関心なのかよくわからないが、余りにもここぞという時に怒らない親が多い。

・子育てを人任せになってきている人が多いと思います。習い事に行かせれば教育熱心、しつけに関しては幼稚園、小学校に行けば出来るようになると思っている人が多くびっくりします。どちらかというと今は自分のことを優先にという人も増えてきていると思います。と同時に余りに育児書を始めとする情報（価値観の違いも）が多く、子育てに自信を持てない親、子育てを楽しめない親もいると思います。

ロ) 父親の子育て参加に関すること

・提供会員として自宅で面接をしています。母親だけでなく父親も面接に来宅してくれています。お迎えもお父さんの時が少なくありません。両親そろって子育てに参加している時代ですね。（当たり前かな？）

・現在私がお預かりする会員さんは、とても父親の育児参加が素晴らしいと思います。協力的なのはもちろんですが、日々の細かい部分から家事までそして母親である奥様の立場までも尊重してくれてて感心してます。私の子育て時代と余り違うのでそう感じるのかもしれませんが、自分の子供と同世代の若夫婦をととても微笑ましく見えています。

・核家族で父親が仕事で忙しく家にいる時間が少ない家庭では、子育ての負担が母親に重くのしかかっているように思います。その結果、気持ちのゆとりを無くし、本来楽しいはずの子育てを辛く感じることも多々あるのではないのでしょうか。仕事をもつ母親だけではなく、育児に専念している母親もセンター活動を利用して適度に息を抜きながら楽しく子育てができればと思います。

・「子育ては女性の役割」から「子育ては夫婦二人で…」という時代ですが、まだ男性の理解は少なく、母親に押しつけられていることが多く、両立させなければいけない女性は大変だと思います。

・父親の協力が余りなく（お仕事が忙しく疲れているから）、ママが困っていて愚痴を聞いてあげることがある。相談にのってあげる身近な人がいないか、又は実家が遠方だということもあり、子育ての大変さをしみじみ感じます。

・今の世の中、ご近所付き合いがなく、一人で悩んでしまうお母さんが多いように思います。大人が「いじめ」の様な事をしていたりする事もあります。単身赴任の方々も多いので誰にも相談できず、家にこもりきりとなってしまう主婦の方も多い。

ハ) 子育てをめぐる環境等に関する事

・活動を始めたときは働いているお母さん達の手助け、女性が社会で働きやすい環境づくりの手伝いをするつもりだったのですが、今は専業主婦で子育てに不安を持ち一人で抱え込んでいる人が多いのに驚きました。情報がありすぎてどこでどうやって子育てしていけばいいのか迷っているようです。ほんの1～2時間子供を預けてお母さんがリフレッシュできるなら、それもいいのか…と思います。育児ノイローゼなどで悩み、最後には悲しい結末を迎える親子も少なくないのです。そんな事にならないように話し相手になり、子育ての先輩としてほんの少しアドバイスする…それもファミリー・サポート・センターの活動には大切な事…と考えるようになりました。どのお母さんもととてもまじめで完璧主義ですね。もっと肩の力を抜いてもいいのになあと思います。

・今の親は孤立し、他人とのかかわり方がへただと思います。もう少し人に頼り相談したり、助けを求めても良いと思います。頼るのは恥ずかしい（自分が駄目な親だと思われるから）頼ったら自分は頼られた時にやってあげなきゃいけないし、付き合いが面倒くさいなど。

・最近は核家族が多くなり、子育てについてのアドバイスしてもらうことも少なくなりました。そのようなことにより子育ての不安から来るストレスをためている親が多いのではないのでしょうか。更には親の知識レベルの低下、親の自覚の欠如等から幼児虐待が多々ニュースなどで聞かれるようになりました。残念なことだと思います。だからファミリー・サポート・センターのような活動が大切だと思います。

・昔の女性が家庭に在って子育てに専念できる時代に対して現代の女性は非常に負担の多い生活を強いられている。子育ての他に外で働くことで女性の地位の向上はしたといえ、反面女性の心身ともに生活力を要求されている。ある意味では夫である男よりも女性には多くのものが降りかかり、そのストレスは大変なものである。共働きしつつ育児に向かう若いお母さんの姿に感心もするし、危惧も覚える。ストレスが子供への虐待にもつながり、家庭不和の原因ともなる。昔は女子教育が必要であったが現在は男子教育が大事に思える。若いお母さんを支援する社会制度を確立しなければ少子化は益々増えていくのではないか。そんな中でファミリー・サポート・センターの設立は時代の要請にあったものだと思います。

・ほとんどが核家族の中、両親がフルタイムで仕事をしていたら誰かの手助けなしではやって行けないのが現状だと思います。昔だったら兄弟が多かったから面倒を見たり、隣の世話好きな人達が助けてくれたでしょうが、今ではやはりお金を出してでも困ったときに頼める人がいる制度を利用できるというのはいい事だと思います。

・私共の頃から比べるとはるかに多くの情報が溢れる中で育児をしておられる若いお母さん方。情報が多いだけに迷いも生じたり、沈んだり、試行錯誤の日々かと思います。そんな中で精一杯子供と向き合って育児を楽しんでいるようで本当によく育てているなど感心しております。ちょっと気になることは現在個性の尊重が重要視され、個性を育てることが大切なことであると言われ続けております。本当にその通りですが、個性を育てることとは自分流に勝手に育てればよいと錯覚して感情のままに子供に接したり、自分だけが幸せならそれでよいと思っている母親も一部あるようです。やはり社会の中で生活している限り、人間として最低の倫理と申しましょうか、マナーと申しましょうか、自分以外の人に対する行動や言葉等に責任の持てる人になるよう育てられたらと願っております。それにはお母さん自身が個に閉じこもらず、公共の機関を利用したり、支援団体を利用したりして楽しい刻を見つけたり、自分自身を高めたり出来るようになって、より豊かな人生を生きてもらいたいと思っております。

・個人差があり一概には言えませんが、親として未熟（感情セーブが出来ない）な人が増えてるように思います。ファミリー・サポート・センターの援助を通してせめて感謝、信頼関係の上にある喜びを感じて欲しいと思います。「お金を払っているから当然…」みたいな人もおられるようです。そんな親を批判するのではなく、先ず温かく受け入れてあげることが必要だと思います。

・ファミリー・サポート・センターを通して知り合ったお母さん達は皆まじめに一生懸命子育てをしているように思う。社会環境が変化しているため、今の時代の子育ては大変だと思う。（むしろファミリー・サポート・センターなどを利用できない方達のことが心配に思う）子供は社会が育てるものだというふうに…子供を取り巻く社会全体で協力していけないものか？と時々考えるが…。子供に夢を持ってのびのびした子供時代を過ごさせてやりたいと思う。一人の力は小さいですが、自分に出来ること、肩肘張らずにやっていきたいと思います。

ロ ファミリー・サポート・センター活動についての意見・要望

イ) ファミリー・サポート・センターの広報活動に関すること

・働いている親で、困っている人は多いはずなのにファミリー・サポート・センターがあまり知られていない気がする。知らないで利用できない人がいるとしたらもっとアピール（広告）すべきだし、料金敵的な問題があるとしたら公的な補助金など出すべきだし、提供会員に対して不安があるとしたら、こんな講習会でレベルアップしていると宣伝するなど、とにかくファ

ミリー・サポート・センターをもっと皆に知らせるべきである。

・アドバイザーの人達はがんばって活動しているが、若い母親にサポート・センターの良さを理解してもらえないと思う。子育てに意欲的、又は興味のある人に伝えなくても自分から知ろうと思うので説明は要らない。若い人にもっと簡単に分かり易い伝え方をしたらいいと思う。ポスターも、もっと若い人を使うべき。

・自分が子育てをしている頃は、すべてがいっぱいいっぱい余裕がなかったなあと反省いたします。センター活動では、もう孫をみるようなゆとりと楽しさがあり、どの子もかわいくて仕方ありません。ただ、自分の子と違ってケガなどない様、細心の注意を払っています。ファミリー・サポート・センターを知らない人がまだまだいる様なので、もっと浸透する様なお知らせがあったらいいなと思います。日本中、どこへ引越ししてもあるといいなと思います。

・子供を預ける側から言うと、低料金で信頼できる人に頼めるし、預かる側もちょっとした副収入でニコリ！！このシステムがない時から、知り合いとは預け預かりしていました。プラス保険がかかっているのも、とても安心です。もっともっと宣伝して、地域の人達にお知らせしたらいいと思います。うちの子どもたちが小さな頃、このシステムがあったらどんなに助かったかと思いますが、今は若いお母さん達のためにがんばります。

・活動については大変満足しております。アドバイザーの方はいつも間に入って、上手に調節してくださっていると思います。私自身どうしても都合が悪くて、引き受けられない時、相手の方に申し訳ない気持ちになります。ご両親で働いて収入がある方はよろしいのですが、収入の少ない（事情のある方）お子様を抱えた母親のリフレッシュとか子育ての勉強会に参加したり…。そのような時の料金は行政の方で出してくださるとか…。ちょっと外れた意見になってしまったでしょうか？気軽に利用できる様 PR を続けて欲しいです。この制度が浸透して若いお母さんが誰でも当たり前のように利用できる時代が来るよう願います。広報をあまり見えない人が多いようです。私自身、知り合いに PR をいつもしております。

・とてもよい活動だと思っています。でもまだまだ利用の仕方がわからない人も多いようです。又、「買い物や美容院、ちょっとストレス解消のための映画や友達とのランチとかにも使えるんだよ」と言うと、驚く人が多いですね。もっと気楽に利用して育児ストレス解消！！できるんだというイメージを知らせることができればなって思います。提供会員は講習を受けているということも知らない人も多いです。その為、不安で預けられないという人もいますので、これらの点を上手に広げることができればなって思います。（口コミで知らせてはいますが）

・まだ始まったばかりですので、こういう制度があるという意識の浸透まではまだまだと思います。今の若いご家庭は、広報等は余り目を通されない方も多いようです。お母さん達の視点にあわせた広報活動がもう少し必要かなと思います。（イベント系のお知らせとかはよくチェックされていますが…。）

・当市もファミリー・サポート・センターができ、すごく会員数も増えていると聞いていますが、地区によってはまだまだ PR 不足の所が多いと思います。国の機関を通じて PR をよろしくお願いします。当市では民生、児童委員の方々が0歳より未就園児のお宅を訪問して子育て支援の情報を知らせる予定だそうです。地区、役員会等を通じて、各団体さんに PR したらどうでしょうか。

・まだまだファミリー・サポート・センターを知らない人が沢山います。産院とか引越ししてきた人に市役所等で渡してもらったらいと思います。

・一般的に知名度が低く、活動していても近所や知人にどうして他人の子の面倒をみるか疑問を持たれる事があるので、もっと国全体で PR をして子育ては母親だけでは限界があり、社会全体で見守る必要性を広めて欲しい。自分の子供も主人の転勤で見知らぬ土地で転々として育てましたが、その先で近所の人に助けられ、無事に下の子も昨年成人したのを感謝しつつ、今後は今の若い母親達の手助けが出来れば、私を助けて下さった方々への恩返しと思って、今後も活動を続けるつもりです。

ロ) 利用料に関すること

・私は提供会員でボランティアで子育て中のお母さんの手助けになればと思っています。その中でお金を頂けるのは嬉しいのですが、自分が子育ての中で子供を預けることを考えると1時間700円は高いのではないのでしょうか。仕事、時間によって1時間単価を変えてもいいのではと思います。

・ファミリー・サポート・センターの存在を市民に知ってもらうことが大事だと思います。多くの市民は知らないのではと PR の必要性を痛感します。と同時に費用をもっと安くしては…と思います。1時間につき700～800円内外ではないかと思います。子供を預ける人は若い人達が多いです。1日預けると7,000～8,000円にもなります。経済的負担大です。これでは気軽に預けることは出来ません。預かる我々も大部分者は若い人達を少しでも応援したいと思ってサポートしているのではないのでしょうか。公的援助を期待します。

・料金についてですが、私達が頂く額としては良いと思いますが、依頼する方としては少々高いのではないかと思います。市などで少し負担して依頼する人の負担を少なくする事は出来ないのでしょうか。そうすると依頼も増えるのではないかと思います。

・協力会員としてはもっと利用してもらいたいと思うが、逆に利用する側としてみると、子育て経験はあっても資格のあるプロではない全くの他人に大事な子供を預ける不安があると思うし、料金の方も決して安くはない。もっと料金が安くなれば仕事以外（例えば講習を受けたり、美容院へ行ったり、趣味の時間など）にも利用する人が増えるのではないかと思う。その為にはやはり、県や市、一般企業の補助がもっと必要になる。また協力会員にももっと専門的な講習を行った方がお互いに不安が無くなると思う。まだまだ問題点もあると思うが、より活性化するように協力会員として出来る限り頑張ってみようと思っている。

・いつもサポートするとき、大切な子供さんを預かっているのですから、けがをさせない様、安全に気を配ったり、楽しんで時間を過ごせる様、年齢にあったおもちゃ（絵本、積み木、ビデオ、手作りの指人形等）を用意して環境を整え、温かい雰囲気の中で子供と接する様、心掛けています。片手間で出来ない仕事だと思っています。当市では、依頼する側の事を考えて 1 時間 500 円という報酬を決定したという事ですが、援助する側の人の事も考え、最低賃金の報酬があっても良いのではないのでしょうか。依頼者に負担を多くかけることが出来ないということであれば、ファミリー・サポート・センターの事業をしている国や市から一部援助して頂くということは出来ないものではないのでしょうか。どうか考えて頂きたいと思います。

・色々な考え方があると思いますが、私は直接相手様からお金を頂くことに抵抗を感じます。月毎の報告により、サポート・センターから振込という形にはなりませんでしょうか。

・依頼会員の有償での金銭の受け渡しが直接的なのは良くない。行政が間に入って振込の形式を取ったほうがよい。せっきくの善意が金銭で評価し、依頼する方は割り切れて良いが、受け取る方は家政婦的で好ましく思えない。

・活動をはじめてまだ 7 か月です。援助費を自分自身が受け取ることに少し抵抗があります。しかし有償であることが依頼会員との間にけじめがついていいと思います。センターを通しての依頼なので援助の仕方、援助費の説明等アドバイザーより指導・助言がいただけるのでとても助かっています。今後ともよろしくお願いします。

・全国組織化し、お金ではなくチケット制または点数制にすることも一つの方法ではないでしょうか。

・私は今 60 才を過ぎています。今自分がしている事をお金ではなく、ポイント制で自分が年老いて若い人達の力を借りたい時に使えたらとても助かると常に思っています。

・有償援助ということで本当に困っている人の援助が出来ていないように思う。これが無料ボランティアになると援助会員は減るのでしょうか？母子家庭のお母さんからお金を頂く時は少し心が痛みます。

・援助の費用は頂く側としては多いと思わないが、若いお母さん方から頂くのは気の毒な気がする。預ける側への公的な援助があればよいと思う。

ハ) アドバイザーなどの対応に関すること

・アドバイザーの皆さんは、大変親切で行き届いたお世話をして下さっていると思います。小さなことでもすぐにお電話をいただいて話し合いができるので、大変良いと思います。又適切な指導をポイントごとに頂くのでありがたいと思っています。

・預かったお子さまに対する疑問点や悩みを本当によくセンターの方は聞いてアドバイスしてくれます。長時間預かる時には、センターから電話も入り、子どもと私だけでの緊張していた空気が、和らぐこともあり助かっております。

・私のお世話になっているセンターのスタッフの方は、依頼会員、協力会員双方に真心の対応をして下さっています。単なる電話対応・書類等事務手続きといったささいな事の中にも安心と信頼のサービスの精神がとてもよく伝わってまいります。今後さらにこのシステムがスムーズに働き、依頼・協力会員・スタッフがより良い信頼関係とコミュニケーションが図られますようお力をお貸しくださいますようお願いいたします。

・私どものセンター担当者の方にとっても親切で細やかな気配りをしてもらい、大変助かっております。やはり常に連絡や相談のできる関係であれば、活動に対してのストレスもなく楽しく参加できると思います。

・とてもよくしていただき、感謝しています。依頼会員とのカップリングや、活動のバックアップが頼もしくいつもいつも感謝です。もっともっと皆様のお役にたちたいと思いがんばります。保育園に通うママ達にこの活動が知りわたり上手に利用してほしいのです。

・ファミリー・サポート・センターから依頼の電話は「ご予約をお聞きます。○月○日の○時～○時まで大丈夫でしょうか」と必ず依頼相手・内容を言わずに聞いて下さいます。自分の子どもの学校行事や予定が入っている場合「済みません。その時はムリです。」と他の協力会員の方がバックにいるという安心感からおことわりすることができます。やはり1対1で依頼されたり、相手がわかっていたら「そうか、何とかしなくちゃ」とムリをしてしまうように思います。気持ちよくそして長く続けていく為に調整していただいていることに感謝しています。

・活動の中に疑問に思ったこと、不安に感じることをいろいろ相談しアドバイスをいただいています。報告書は郵送でもよいそうですが、アドバイザーの方に直接お渡しし「いかがですか」と声をかけられるとちょっとした悩みも相談できるので、私はなるべく伺うようにしています。よそのお子さまをあずかるのでアドバイザーの方に時々声をかけて頂くとホットします。

・1回～2回連絡をいただいて留守電にメッセージを下さっているのですが、こちらからかけ直すと担当の方がおられず話が通じません。事務局の方でもっと密な連携はとれないのでしょうか。かけ直した時に出たかたどなたでも話がわかるようになっているとありがたいのですが。連絡が常にとれる体制になってほしいと思います。

・いつもファミリー・サポート・センターの方々には細やかなご配慮をいただき、またどんな相談事にもアドバイスをいただけるので安心して活動できることに感謝しています。また地域に根ざした活動ができることにやりがいも感じています。依頼会員の方ともお話を重ねながらそこのお子さんにあった内容を工夫していますし、喜んでいただけると大変うれしく思います。子育てについての提供会員同志の情報交換の場があると、さらに充実したものになると思います。また援助に必要なチャイルドシート・自転車の子どもイスなど、気軽にお借りできれば大変助かります。今後もセンターが発展されるのを期待しております。

・預ける親にとって、どんな人が預かるのかという不安は大きいと思います。できるだけ預ける人と預かる人の打ち合わせが充分にとれるように時間的にも精神的にもアドバイスしてほしいと思います。どのようにどれくらい打ち合わせすればいいのか、マニュアルのようなものあればすすめやすいと思います。

・昨年8月に会員になったが3月に1回のみの依頼しかなくて残念です。近くの会員からの依頼がなかったということなのか、活動したくても依頼の無い会員に説明がほしいです。

ニ) 時間外、休日、緊急時等の対応に関すること

・活動をしていて、緊急連絡したい時にいつもファミリー・サポート・センターの電話が留守電になってしまうので、たいへん困ってしまうことがしばしばあります。連絡は常にとれるような体制にしてほしいと思います。

・私の娘が幼児の頃にこのようなシステムがあったら、きっと利用していただろうと思います。ただ、土、日、祝日が休みなので休み明けに急をお願いしたいと思っても連絡がとれず途方に暮れて直接私のところへ電話してきた依頼会員さんがいらっしゃいました。やっぱりお役所仕事だと言われるのはこういう時だと思います。電話番号を交代でしてセンターが閉まる日がないようにすべきなのではないかと思うのは私だけでしょうか。

・私の所属しているファミリー・サポート・センターは開設時間が9時～16時で土、日、祝日休みと利用したい人にとっては不便だと思います。前もってわかっていることに関しては良いのですが、急を要する場合は援助する側も困ることがあります。

・ファミリー・サポート・センターは利用する方々にとって有りがたいサービスだと思いますが、本当に利用したい時、例えば病氣中、急なお迎え、突然のアクシデントなど緊急の場合の対応がナカナカできないのが問題だと思います。この問題が解決できればもっと働く婦人が働きやすくなると思います。

現在の体制では土、日、祝日等センターが休みの時、預け入れ希望者からの取り次ぎをする体制が確立されていないため、希望者がいても受け入れができないのが現状です。このところを改善すればもっと利用者が増えるのではないかと思います。

ホ) 会員間の交流会、講習会等に関すること

・子どもを預かる上で自分自身の子育ての経験が役立っていますが、もう少し病氣・事故・子どもの心理・遊び等の知識や理論が知りたい。これらを学習する機会を作ってほしい。

・利用者から育児に関しての相談を受けることがある。自分の育児経験の中からでは答えられないこともあり、また、サポートをしていてももっと勉強しなければと思うことがある。研修制度のようなものがあれば利用したい。

・サポート会員になる為の講習が20時間あって、内容も充実していました。活動の自信につながったと思います。ファミリー会員の方が安心して利用できるように定期的に勉強会をして頂きたいと思います。

・子育て支援活動の依頼会員が多様化しているように思います。いろいろな依頼の中で一提供会員としての資質も問われるようになってきたように感じます。働くお母さんにとって、もし子ども病氣になった時に安心して預かってもらえるところの確保は重要です。提供会員としては、できる限りの援助をしたいと常に思っていますが、病児の場合などどこまでだったら預かることができるのか判断に迷うことがあります。転勤してこられた方の依頼では、「慣れない土地で頼れる人もなく子どもも環境の変化でグズって困っている」などお母さんからの相談を受けることも多くなりました。その意味からも提供会員（又は依頼会員も含めて）同士の悩みや知恵を出し合って交流を深める機会が基本研修の他にあっていいのでは…。依頼会員、提供会員が相互の信頼のもとで助けたり助けられたりの輪が広がっていくことを望んでいます。ファミリー・サポート・センターの活動は地域で社会で子どもを育てる意味でますます重要な位置を占めると思います。私も転勤族で3人の子育ての時、行く先々で本当に回りの方からたくさんの子育て支援をいただきました。その恩返しも含めて少しでもお役にたちたいと思います。

・会員同士の交流の場・機会をもっと作ってほしい。預ける側、預かる側ともに立場が違いそれぞれ悩みもあるのではないかと思います。それを少しでも解消するためには情報交換が必要だと思います。

・とてもいい活動だと思う。有償といってもボランティアだと思うと依頼会員さんの気になる行動も許せる。でも反対に有償ということでどこまで援助に気を配るのかサービスの質を問われるようでむづかしい。職員のアドバイスやちょっとした会話ではげまされたり、不安が解消される。もっと全体の交流の場を設けてほしい。

・私のような小さな子どもがいる母親で提供会員に興味をもっている方もいると思うのですが、講習会や説明会に託児がないのがとてもネックになっています。まさにこういう機会にファミリー・サポートのシステムの使って、講習会や説明会に参加できるように整備していただきたい。提供会員が一人でも増えるようなら、私が援助します。

へ) 依頼が少ないという意見に関すること

・カップリングがマンツーマンのほうが問題もおきないし最良だと思うが依頼がなさすぎて自分が協力会員だということを忘れてしまうし、やる気もなくなってくる。

・とにかく依頼件数は少ない。昨年サポート会員になってから1度しか依頼されていない。昨年中はいつ依頼が入っても良いように仕事をセーブしていたが全く依頼がないのでパートを始めた。

・会報等では協力会員、依頼会員の人数が増えファミリー・サポート・センターの活動もよく知られる様になった気がしますが、その割には活動件数が少なく活動も特定の人だけの様です。折角会員になったので多くの子ども達とふれあいたいと思います。

・一人一人の子どもさんの事をよく考えて又家族構成についてまで考えてセンターの方は依頼されています。センターの方々は皆とてもいい方ばかりでサポートに行く毎に教えられることがたくさんあります。サポートが全然ない月もありもう少し依頼があればと思っています。

・初めは張り切って何かお手伝いできればと思い参加しましたが依頼はありません。職員さんは私どものことを気遣ってくださっていると思いますが電話のあった時も「いやだったら断ってくださいね」と何度もおっしゃいます。受けない方が良いのかと思ったりしてしまいます。気持ちは大変ありがたいのですが。

・地域でのサポートと限定されているようですが、もう少し範囲を広げるサポートをお願いする人が支払うべき費用を下げるとかもう少し気軽に依頼できるように配慮してはどうでしょうか。ぜひ依頼を受けてみたいのです。依頼をずっとまっているのです。

ト) その他のセンター活動に関すること

・有償ということで経済的に余裕の無い本当に困っている人のサポートはできないのではないのでしょうか。又病児の為に専門家によるサポートも考えてほしいと思う。これはどちらも行政の分野で充実させてもらうべきものだと思うが…

・依頼された援助活動は幼稚園児・保育園児の迎えとお母さんの仕事が終わるまで一緒に自宅で過ごすということでした。しかしこのことはある意味で行政がやるべきことではないか。行政（市）がやらないので私たちがやっているという意識になってきました。市で延長保育ということを取り入れ、休日・祝日のみファミリー・サポート・センターの役割ということにしていく方がよいのではとも思います。

・ファミリー・サポート・センターの活動はとてもいいとおもいます。ただ利用会員さんの要望にいつも応じられる体制をとるのはかなりむずかしいのでは…提供会員としても時・場所において限界がありますし、なかなか要望に合わせられないのが現実だと思います。ファミリー・サポート・センターとしての施設があって、そこで交代で登録制（提供会員の方）にして常時待機していただけるシステム等があればと思うのですが…（地域センターや区民センター老人施設・空き教室などの一角を利用できるといいのですが）1対1や1対2の体制ではやはりムリがでてくるしなるべくたくさんの方がかわれる体制が子どもにとってもいいと思います。

・現在は自宅を利用してお預かりというシステムをセンターではとっていますが、遊び場所・おもちゃなど小さい子どもが自宅にいない場合不足することがあるので、センターやサポート会員の自宅スペースの広いところなどを保育室としていくつか確保し、ブロックを作り何人かのサポート会員が集まってセンターがそろえてくれたおもちゃなどで集団で遊ばせる方法をとる。その方がサポート会員も心強いのでは。

・大切な人様のお子様を預かるという事は、ちょっとどうしたものか戸惑いがありましたが、引越してまいり、地域交流を兼ねてと思い、援助活動をさせてもらうことにしました。私のサポートしているお子様は小学校3年生、私のことをおばちゃんと呼ばず、〇〇さん、〇〇さんと苗字で呼んでくれる小さな友達です。とても楽しい関係です。私にとりまして援助活動はとても有り難いシステムです。これからも続けていきたいと思っております。

・保育所、学童保育が充実したとはいえ、夕方、夜、土日等、施設で足りない時間を家庭的雰囲気の中でゆったりと過ごさせてあげるファミリー・サポート・センターでの活動はとても有意義だと思います。24時間保育など実施されているところもあるでしょうが、やはり一人でも沢山の人の可愛がられて育つ子が幸せと思います。私はほとんど特定の子供さんをお預かりしていて、もう家族の一員で依頼がある日が楽しみです。それに旅行にでかけたりするといつ依頼があるか解らない子のためにお土産を買ったり、おもちゃを揃えたり、とっても楽しみです。我が子も成人し、まるで孫が出来たみたいで楽しみながら預かりをさせて頂いています。それに近所の方とも親しくなり、声をかけてもらい、地域みんなでのサポートといった感じです。今度依頼があったら何して遊ぼうかな？何のおやつにしようかな？御馳走は何がいいかな？..楽しみでいっぱいです。我が家では家族全員で歓迎しています。

・私自身、実家が遠く子供を気軽に見てもらえるところがない中で子育てをしてきて精神的にしんどい事もありました。ファミリー・サポートの活動があったらどんなに楽だったか...と、今のお母さん方がうらやましいです。今現在、私のような思いをされている方のお役に立てることが出来ているとしたらとても嬉しいです。家では何よりも我が家の小学生二人が小さい子が来てくれて一緒に遊べる事を喜んでいます。無理せずゆっくりのんびり続けていきたいです。

・単発的で継続性がない関わりだが、だからこそ重要だと痛感する。ママの一時的な育児からの解放がどんなに大切か、母親の声として毎回のように聞く、「助かります」、「有難うございます」という言葉を頂いたとき、こんなに輝く言葉だったのかと改めて思う。今の若い親は...というが、迎えに必死になって仕事から帰ってくる、汗びっしょり息を切らして子供たちの姿を見てホッとする等、その様子はどの親にも共通だ。子育ての社会支援が叫ばれて以来、少しずつだが頼ったり頼られたりの関係が築かれていくのは子育てに限らずどの世代にも必要なのではないのでしょうか。

・保育園へお迎えに行った私にニコッと笑い、飛び込んできます。本当に可愛い。心をこめて援助する喜びがあります。1時間の預かりでも人のために役立つ幸せ、子供はお母さんが迎えに来られても帰りたくない駄々をこねています。

3. 依頼会員編

(1) 依頼会員の概要

各センター毎に 10 名の依頼会員を無作為に抽出し、総数 1,930 人に対して調査票調査を実施した。有効回答者数は 1,204 人、回収率は 62.4%であった。(調査方法及び調査対象の抽出に関する詳細は I 調査の概要 P1～P3 を参照)

① 依頼会員自身について

回答者の性別は女性が 1,162 人 (96.5%)、男性が 42 人 (3.5%) で圧倒的に女性が多い。

年齢は 35 歳～40 歳が 458 人 (38.0%)、30～34 歳が 438 人 (36.4%) と 30 歳代が全体の 74.4%を占め、40 歳以上は 171 人 (14.2%)、25～29 歳は 122 人 (10.1%) である。

就労状況では、有職者が 825 人 (68.5%) であるが、その勤務形態はフルタイマーが 561 人 (68.0%) と最も多く、次いでパートタイマーが 164 人 (19.9%) である。勤務時間はフルタイム又はパートタイムで働いている者 (合計 725 人) の大半 (633 人/87.3%) が日中の通常勤務である。早出や残業はほとんどない者が半数近い (217 人/42.8%)。一方、月に 3～4 回が 147 人 (23.2%)、月の半数以上が 101 人 (16.0%)、毎日という者は 11 人である。土、日、祝日の出勤についても、半数近く (328 人/45.2%) はほとんどないが、月に 1～2 回程度が 186 人 (25.7%)、5～6 回程度が 112 人 (15.4%) である。

図44 性別

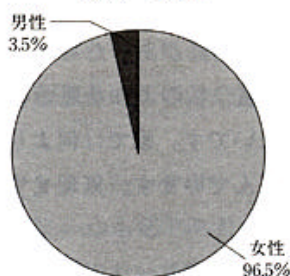


図45 年齢

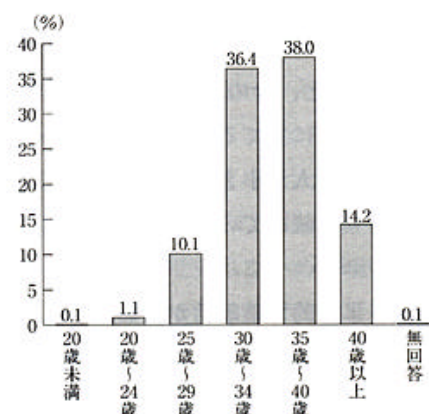


図46 仕事の有無

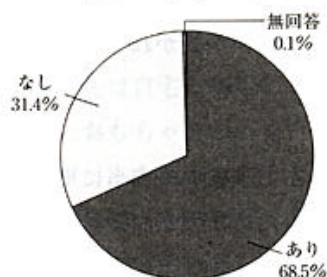


図47 仕事の形態

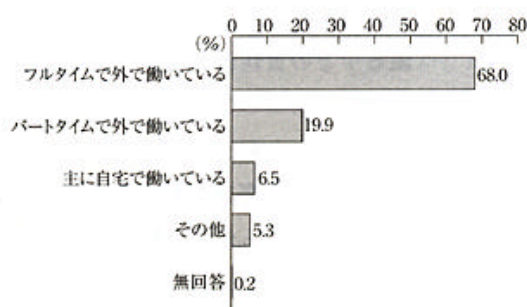


図48 勤務形態

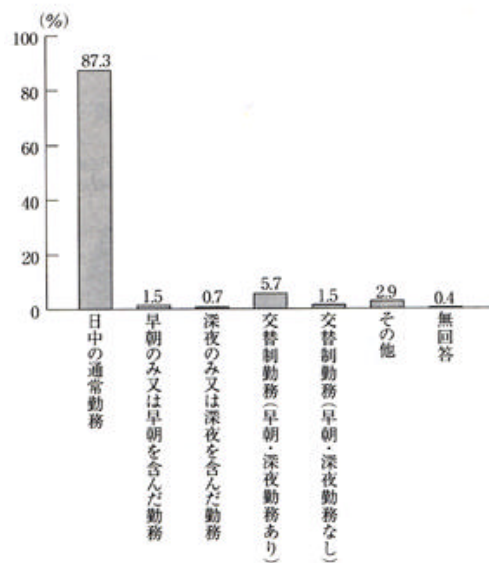


図49 早出・残業の有無

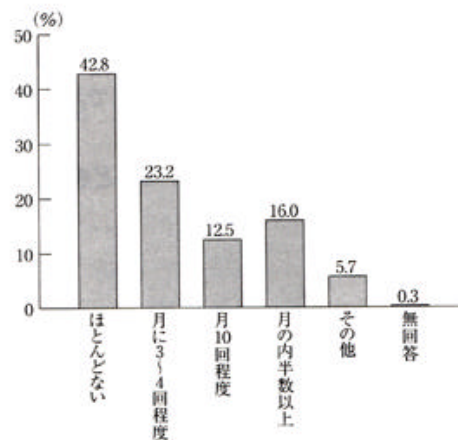
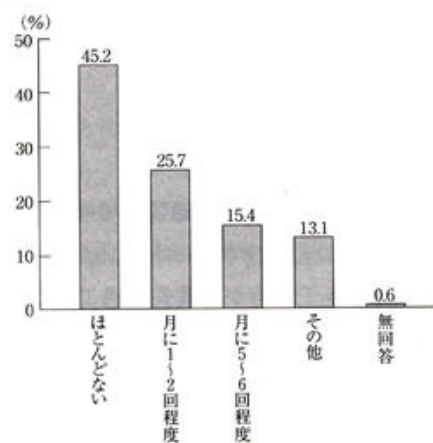


図50 土、日、祝祭日出勤の人数



②家族や子どもについて

家族構成は配偶者と子供からなる核家族が9割近くであり、自分または配偶者の親と同居している者は148人(12.3%)である。

子どもの年齢は3歳以上就学以前が656人(34.5%)と最も多く、次に1歳以上3歳未満が554人(29.1%)、小学校低学年356人(18.7%)、0歳児が179人(9.4%)である。

図51 同居の家族 (M.A.)

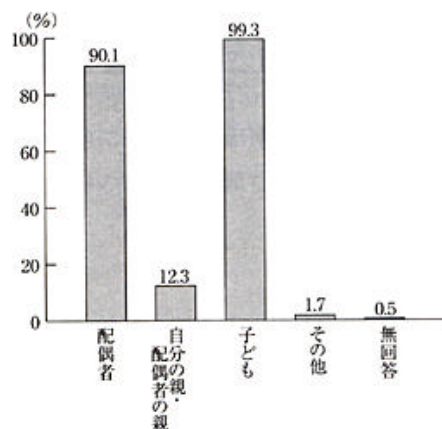
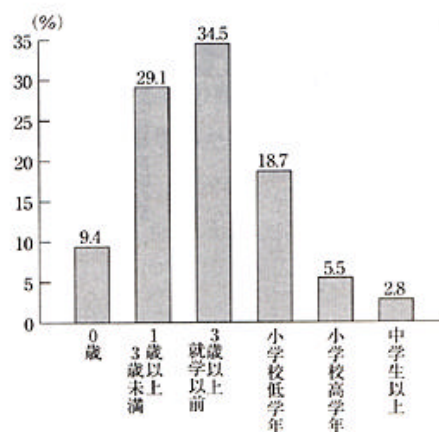


図52 同居している子どもの年齢 (M.A.)



センターに登録している子どもの数は、1人が687人（57.1%）、2人が421人（35.0%）、3人が81人（6.7%）である。このうち、年齢別登録率（登録している子どもの数÷同居している子どもの数）は、0歳が79.9%、1歳以上3歳未満96.6%、3歳以上就学以前95.4%であり、就学前の比率が高い。学齢期になると小学校低学年で89.6%、高学年で54.3%と低下している。

図53 センターに登録している子どもの数

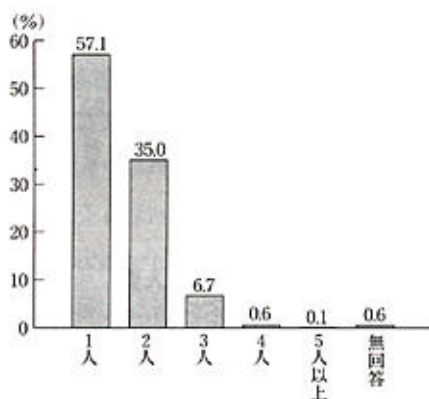
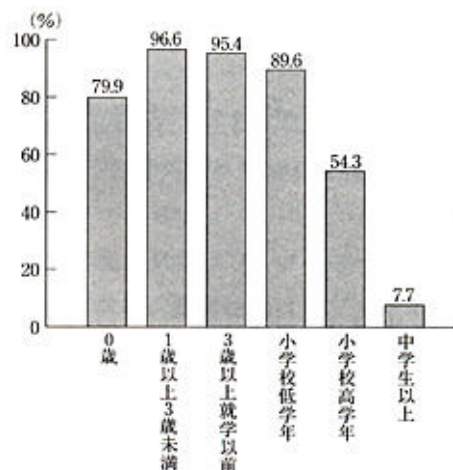


図54 子どもの年齢別登録率(M.A.)



また、その子どもが昼間過ごす場所として一番多いのが、自宅で642人（36.7%）、次に認可保育所533人（30.4%）、小学校348人（19.9%）、幼稚園223人（12.7%）、学童保育152人（8.7%）となっている。また、子どもが一番長く過ごしている場所として最も多いのが、認可保育所626人（35.8%）、次いで自宅497人（28.4%）、小学校376人（21.5%）、幼稚園184人（10.5%）である。

図55 センターに登録している子どもが昼間過ごす場所(M.A.)

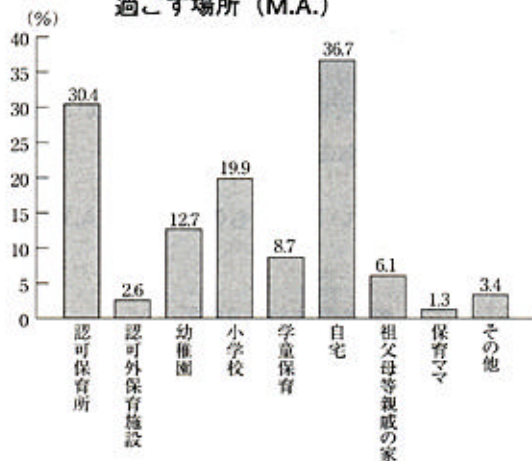
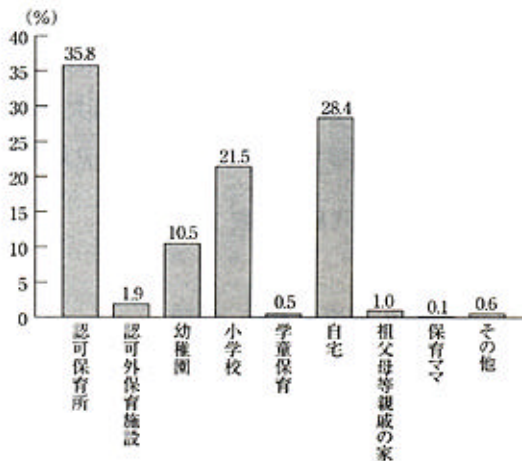


図56 子どもが一番長く過ごしている場所



次に同居の家族以外に緊急時の保育を頼める人がいる者は691人(57.4%)、いない者は487人(40.4%)である。頼める人の内訳で最も多いのは、「自分または配偶者の親」501人(72.5%)で次に「友人・知人」153人(22.1%)である。

図57 緊急時保育を頼める人の有無

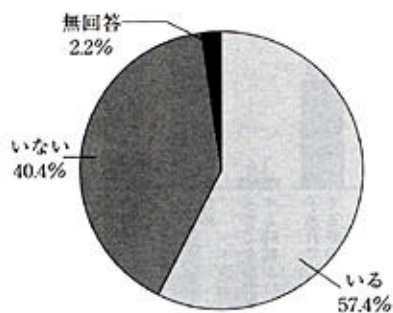
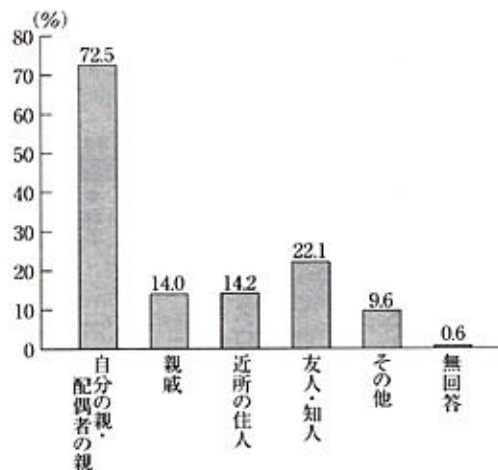


図58 頼める人の内訳 (M.A.)



依頼会員の概要は以上の通りであるが、依頼会員の特徴をまとめると以下のようになる。第1に1歳以上、就学前の子どもを持つ核家族の親が大半で、母親がフルタイムまたはパートタイムで働いている。第2に、母親の勤務形態は日中の通常勤務が大半であるが、残業や土、日、祝日の出勤があるものも4割強いる。第3に子どもたちの大半は日中は認可保育所や幼稚園、小学校で過ごしており、緊急時に保育を頼める人がいると回答している者も半数以上いる。その一方で、日中、子どもが自宅で過ごしている者が3割弱、緊急時に保育を頼める人がいない者は4割強いる。

こうした基本的な属性を持った依頼会員がファミリー・サポート・センター活動に対してどのような依頼を行い、また何を期待しているのでしょうか、その詳細を次に見てみよう。

(2) 依頼状況

①依頼会員になった理由

依頼会員になったきっかけは「自治体の広報紙を見て」が最も多く、666人(55.3%)であり、次いで「友人・知人からの口コミ」が209人(17.4%)、「チラシを見て」が118人(9.8%)である。

依頼会員になった理由は、「仕事のための援助」が578人(48.0%)で最も多く、次に「いざという時の援助」が308人(25.6%)、「子連れでいけない用事等で外出する際の援助」が207人(17.2%)である。その他に「妊娠・出産・病気等の際の援助」、「勉強・習い事等のための外出の際の援助」、「就職活動のための援助」を頼むためなどが67人(5.6%)である。

図59 依頼会員になったきっかけ

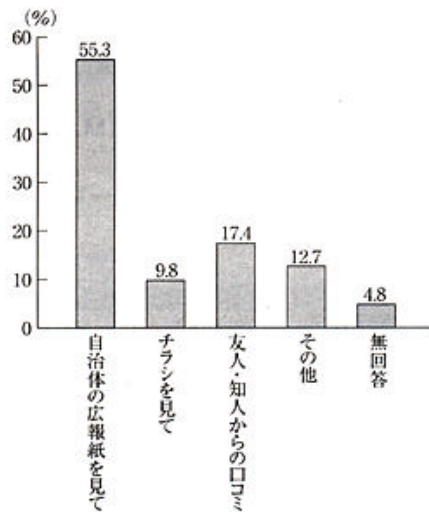
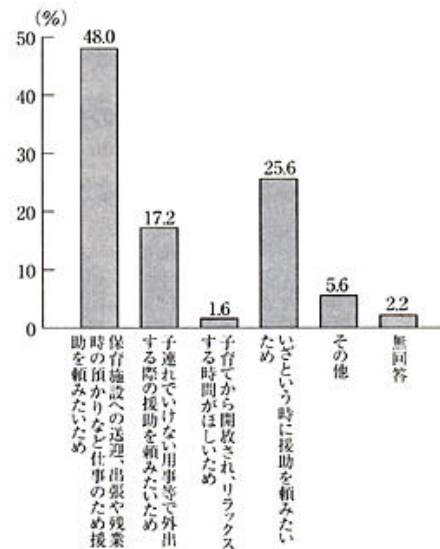


図60 依頼会員になった理由



②依頼の有無とその理由等

平成14年4月～6月の3か月間に、依頼した者は769人(63.9%)であり、その理由は「仕事のため」が最も多い(512人/66.6%)。冠婚葬祭や買い物、美容院、音楽会等の外出のための依頼は76人(9.9%)である。

図61 援助依頼の状況

図61-1 依頼の有無

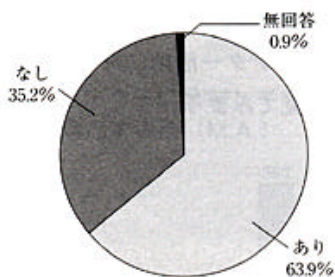
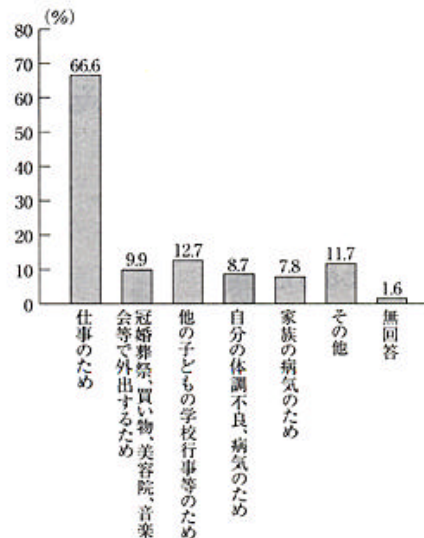


図61-2 依頼の理由 (M.A.)



このうち、仕事のための依頼回数は1～10回が259人(50.6%)と最も多く、次に11～20回が89人(17.4%)である。61回以上(13人/2.5%)や毎日依頼した者(7人/1.4%)もいる。

依頼の受諾状況は「依頼に応じてもらえた」と回答している者は681人(88.6%)で大半を占めているが「断られた」と回答している者もあり、「断られたこともある」が79人(10.3%)、「すべて断られた」が6人(0.8%)となっている。断られた時の対応としては、「自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした」が40人(47.1%)と最も多く、次に「同居の家族に

頼んだ」が15人（17.6%）、「別居の親戚等に頼んだ」が14人（16.5%）、「ベビーシッターに頼んだ」が14人（16.5%）である。

図61-3 仕事のための依頼回数

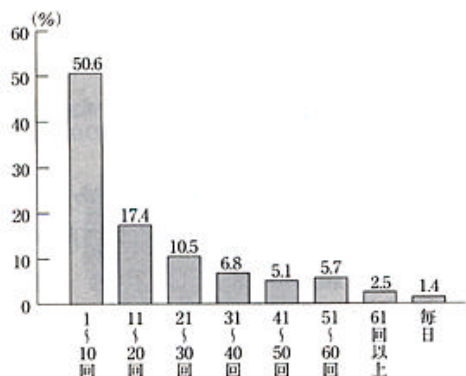


図61-4 依頼の受諾状況

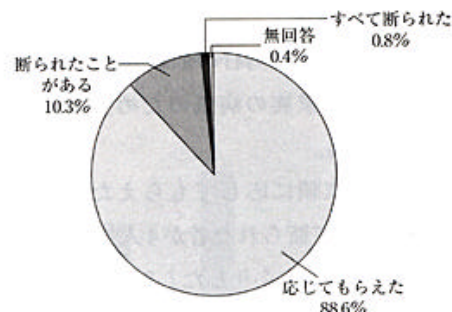
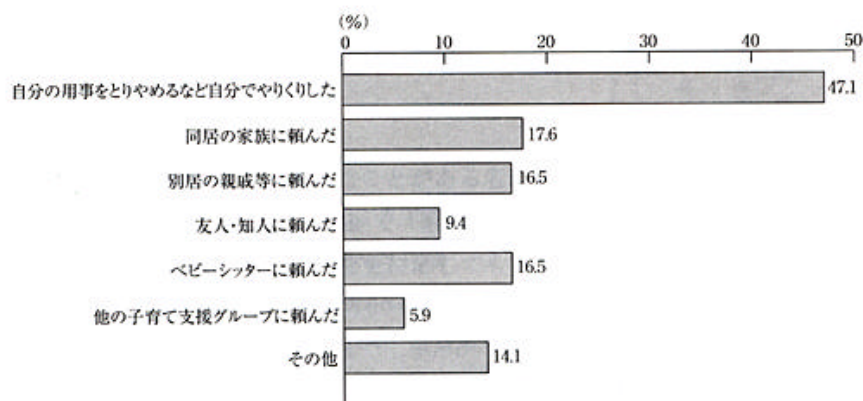
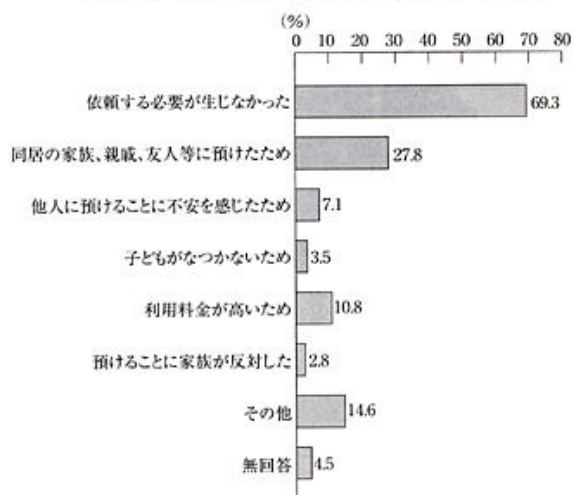


図61-5 断られた時の対応 (M.A.)



一方、3 か月間に援助を依頼しなかった者は424人（35.2%）で、その理由として多い順に、「依頼する必要が生じなかった」294人（69.3%）、「同居の家族、親戚、友人等に預けたため」118人（27.8%）、「利用料金が高いため」46人（10.8%）、「他人に預けることに不安を感じたため」30人（7.1%）である。その他として「他の制度を利用」、「提供会員がない」、「センターは突発的なことに対応できない」などの回答があげられている。

図61-6 援助を依頼しなかった理由 (M.A.)



③急な依頼と依頼内容や時間の変更、キャンセル等について

当日になってからの急な依頼や依頼内容、時間の変更、キャンセル、早朝や深夜の依頼、宿泊等、不規則な依頼の状況について、過去1年間の実態は次の通りである。

〈当日の急な依頼〉

328人(27.2%)が当日の依頼を行っており、その理由は「仕事のため」が199人(60.7%)と最も多く、次いで「家族の病気のため」が68人(20.7%)、「自分の体調不良、病気のため」が54人(16.5%)である。

また当日の依頼に応じてもらえた者は271人(82.6%)、一方、断られたことがある者が45人(13.7%)、すべて断られた者が4人(1.2%)である。断られた時の対応として「自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした」30人(61.2%)、「同居の家族に頼んだ」8人(16.3%)、「別居の親戚等に頼んだ」8人(16.3%)となっている。

図62 当日急な援助依頼の状況

図62-1 当日急な依頼の有無

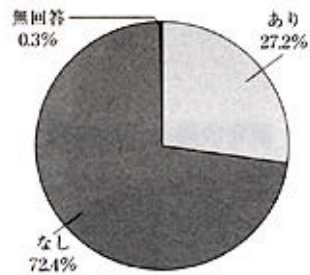


図62-2 依頼の理由 (M.A.)

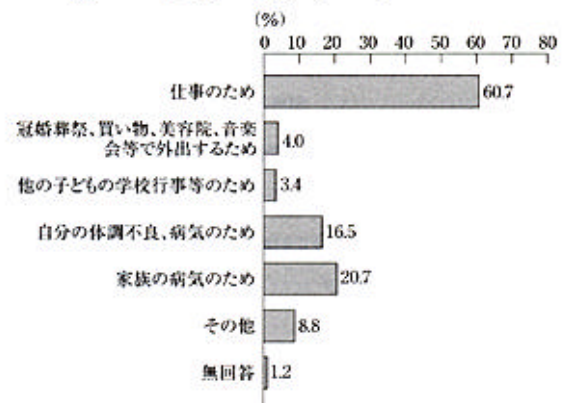


図62-3 依頼の受諾状況

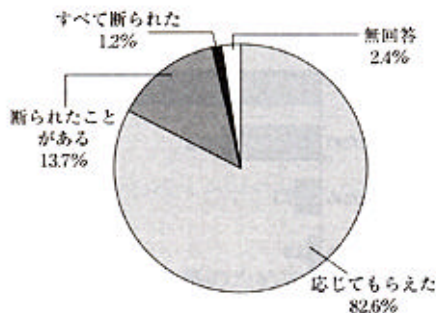
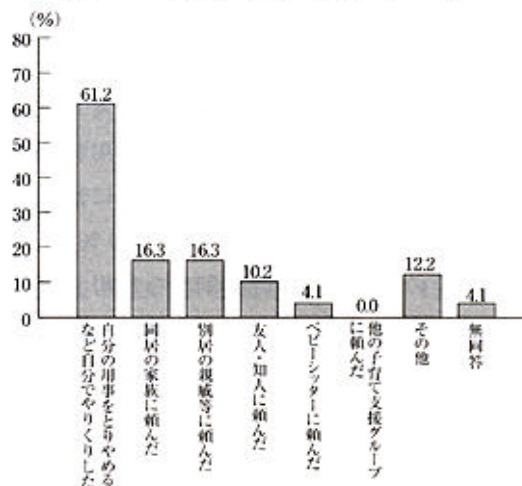


図62-4 断られた時の対応 (M.A.)



〈キャンセル〉

当日になってキャンセルした者は330人（27.4％）である。その理由として「子どもや自分・家族の病気のため」が202人（61.2％）と最も多く、次に「仕事や用事が変更となり依頼する理由がなくなった」が142人（43.0％）である。

図63 当日急なキャンセルの状況

図63-1 キャンセルの有無

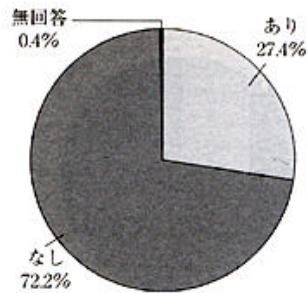
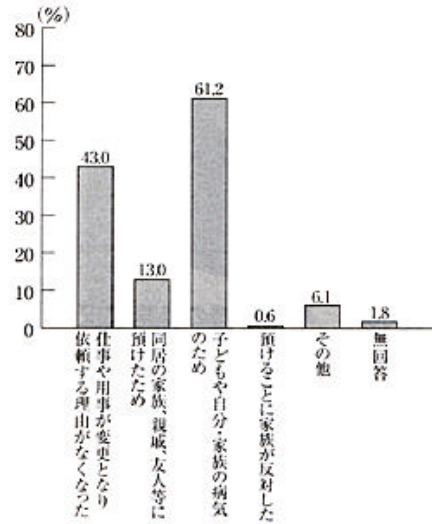


図63-2 キャンセルの理由（M.A.）



〈援助内容や時間の変更〉

当日急に援助の内容や時間を変更したことがある者は287人（23.8％）で、その理由は「仕事のため」が188人（65.5％）と最も多く、次いで「家族の病気のため」55人（19.2％）、「自分の体調不良、病気のため」39人（13.6％）である。変更に応じてもらえた者が269人（93.7％）で、断られたことがある者が11人（3.8％）である。

図64 当日急な援助変更の状況

図64-1 変更の有無

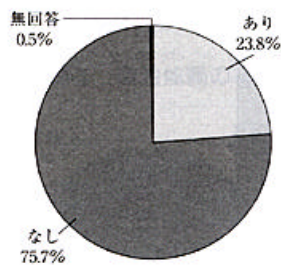


図64-2 変更の理由（M.A.）

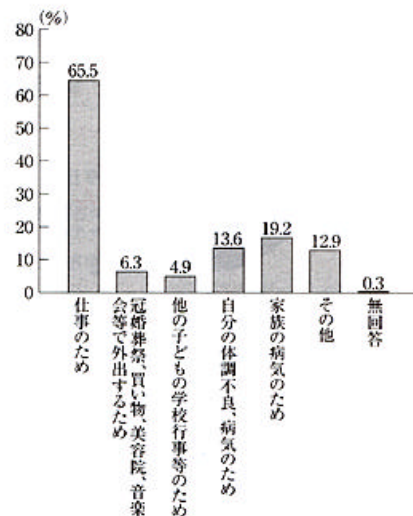
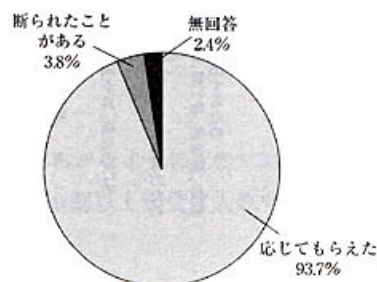


図64-3 援助変更の受諾状況



〈早朝・夜間・土日の依頼〉

早朝（８時前）の援助の依頼依頼をした者は 132 人（11.0％）で、その理由は「仕事のため」が 108 人（81.8％）、「他の子どもの学校行事のため」が 7 人（5.3％）である。その時、応じてもらえた者は 126 人（95.5％）、断られたことがある者は 4 人（3.0％）、すべて断られた者は 1 人（0.8％）である。

図 65 早朝の援助依頼の状況

図65-1 早朝の援助依頼の有無

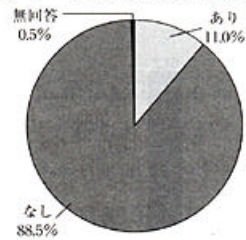


図65-2 依頼の理由（M.A.）

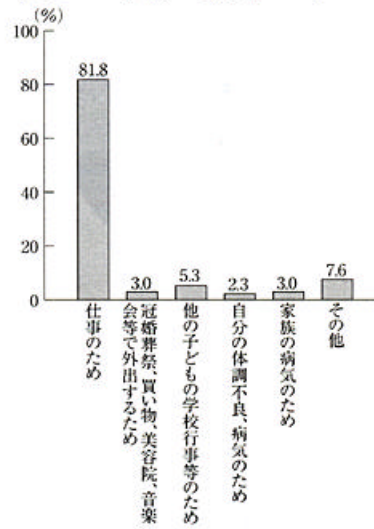
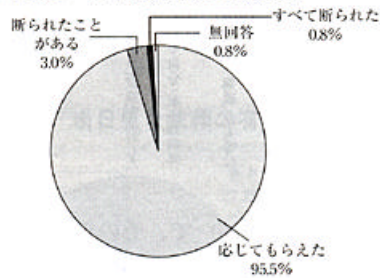


図65-3 早朝依頼の受諾状況



夜 10 時以降の援助を依頼した者は 51 人（4.2％）で、その理由は「仕事のため」が 40 人（78.4％）であり、その際、依頼に応じてもらえたのが、49 人（96.1％）、断れたことがある 1 人（2.0％）となっている。

図 65 早朝の援助依頼の状況

図65-1 早朝の援助依頼の有無

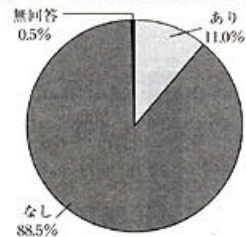


図65-2 依頼の理由（M.A.）

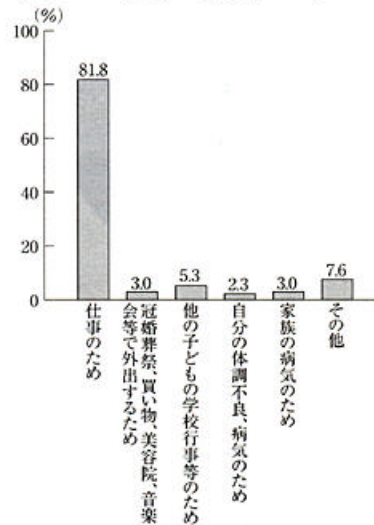
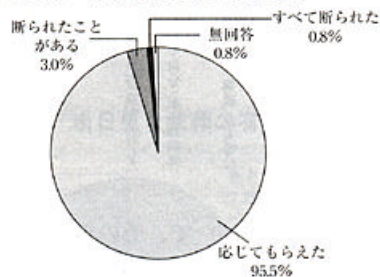


図65-3 早朝依頼の受諾状況



土、日、祝祭日に援助を依頼したことがある者は 286 人 (23.8%) で、その理由としては「仕事のため」が最も多く、182 人 (63.6%)、次に「冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため」が 48 人 (16.8%)、「他の子どもの学校行事等のため」が 32 人 (11.2%) である。その際、依頼に応じてもらえた者が 268 人 (93.7%)、断られたことがある 6 人 (2.1%)、すべて断られた者は 2 人 (0.7%) である。

図 67 土・日・祝祭日の援助依頼の状況

図67-1 土・日・祝祭日の援助依頼の有無

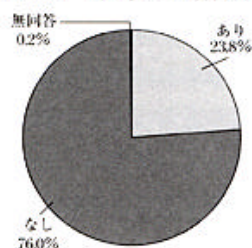


図67-2 依頼の理由 (M.A.)

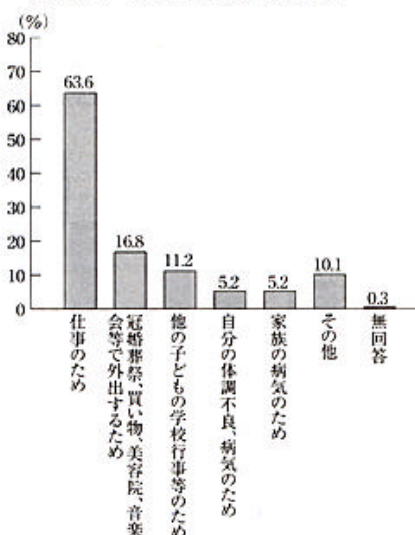
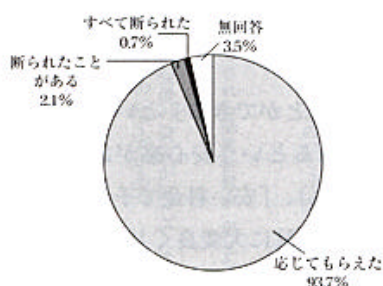


図67-3 土・日・祝祭日依頼の受諾状況



過去 1 年間に子どもの宿泊を依頼したことがあるものは 8 人 (0.7%) だが、その理由は「仕事のため」3 人 (37.5%)、「冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等に外出するため」3 人 (37.5%)、「家族の病気のため」2 人 (25.0%) となっており、すべての者が応じてもらえたと回答している。

図 68 宿泊依頼の状況

図68-1 宿泊依頼の有無

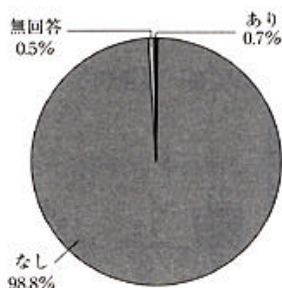
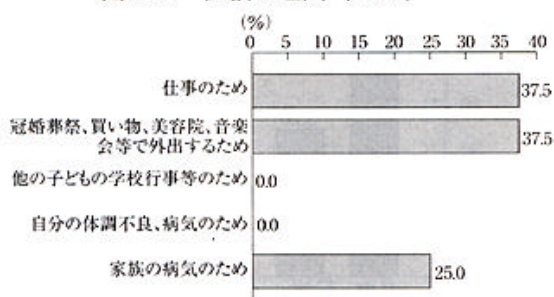


図68-2 依頼の理由 (M.A.)

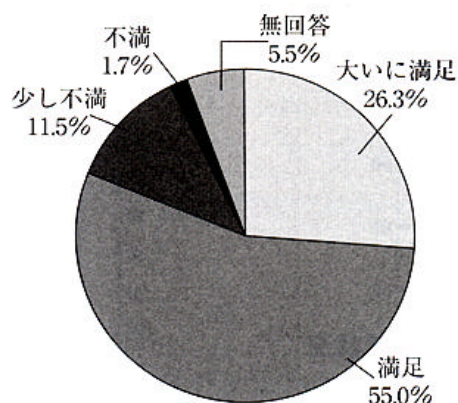


以上から明らかなように、2~3 割前後の依頼会員が急な依頼や依頼内容の急な変更をしているが、それに対して 9 割以上が受け入れてもらっており、柔軟な対応がとられているといえよう。宿泊の依頼は少ない。

(3) ファミリー・サポート・センター活動に対する評価

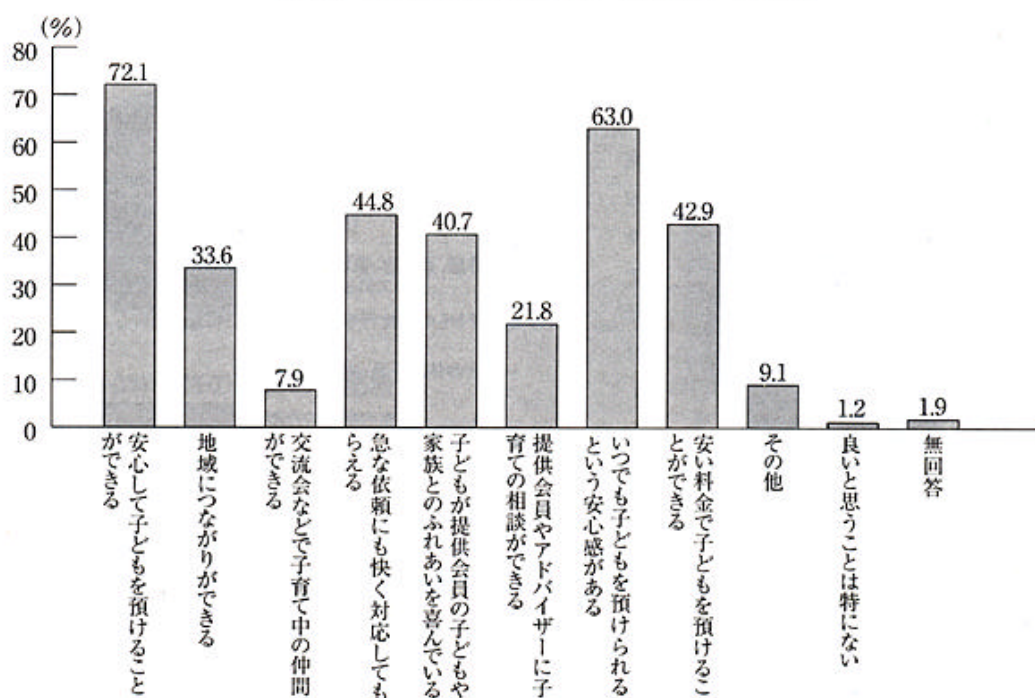
センター活動に「満足」と回答する者が662人(55.0%)、「大いに満足」317人(26.3%)であり、あわせて979人(81.3%)が、満足としている。一方、「少し不満」は138人(11.5%)、「不満」は21人(1.7%)である。センター活動に対する評価は非常に高いといえよう。

図69 センター活動に対する満足度



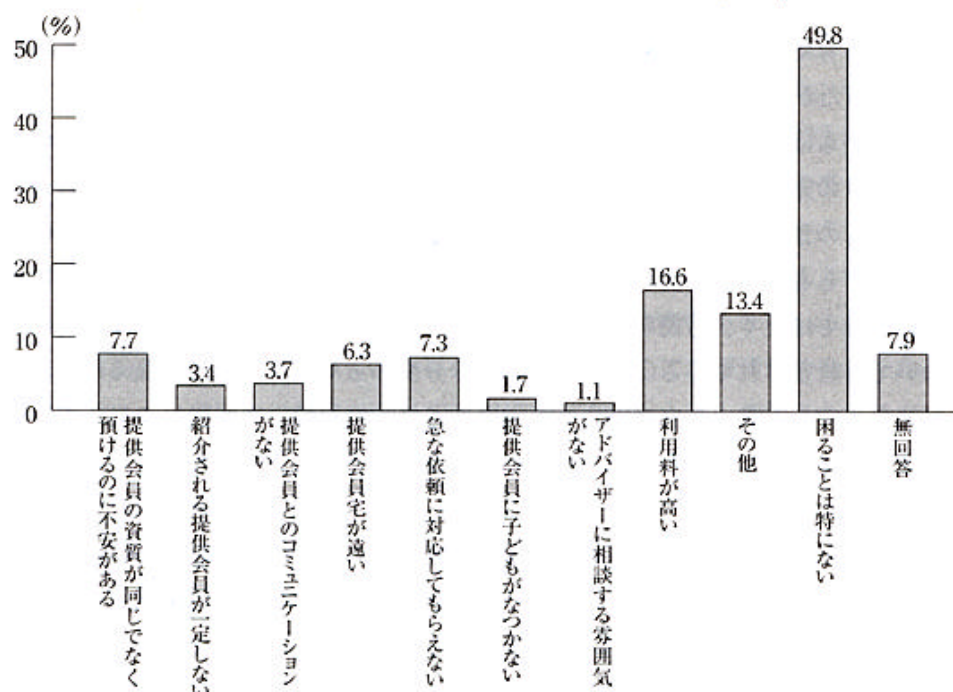
援助依頼をして良かったこととして「安心して子どもを預けることができる」という回答が最も多く、868人(72.1%)であり、次に「いつでも子どもを預けられるという安心感がある」が759人(63.0%)、「急な依頼にも快く対応してもらえる」が539人(44.8%)、「安い料金で子どもを預けることができる」が516人(42.9%)である。「その他」として「提供会員に大変良くしてもらっている」、「子どもが病気の時みてもらえる」、「仕事が続けられる」、「安心して仕事ができる」、「同じ人に預かってもらえる」などがある。

図70 援助依頼をして良かったこと (M.A.)



一方、困っている内容として「困ることは特にない」とする者が600人（49.8%）だが、次に「利用料が高い」を回答した者が200人（16.6%）である。「その他」として、「緊急時、夜間、休日など預かってもらえない」、「時間外、休日などに連絡が取れない」、「子どもが病気の時預かってもらえない」、「提供会員がどういう人かわからない」、「提供会員が少ない」などである。

図71 援助依頼をして困っていること（M.A.）



（4）自由記述の分析

子育て全般について、及びファミリー・サポート・センター活動について意見や要望を自由記述で求めたところ、773名（64.2%）が回答を寄せている。いずれも意見や要望を詳細に記した回答が大半であり、真剣に子育てに取り組んでいる様子がうかがえると共に、ファミリー・サポート・センター活動に対する関心や期待が非常に高いことが示されている。

①子育てについての意見・要望は概ね次のようなタイプに分類される。

- ・ 保育所や学童保育等の増、開設時間の延長、対象年齢の引き上げ等、保育施設の充実を望む意見等 66件
- ・ 子どもが病気の時や病後の一定時期に預けられる施設を望む意見等 32件
- ・ 子育てが母親だけの負担になっている、父親が子育てに参加できるような社会を望む意見等 23件
- ・ 子育てに関する悩み等について相談できる所がほしいという意見等 20件
- ・ 子育て中の母親がリフレッシュできる時間を望む意見等 13件
- ・ 子育て中の母親が交流の場や子育て支援等に関する情報を望む意見等 12件

- ・子供を安心して遊ばせる場所や子供同士で遊べる施設を望む意見等 10 件
- ・労働時間の短縮、残業のない職場等、職場に関する意見等 9 件
- ・親は孤立しがちであるという意見等 8 件
- ・公共施設に託児所を、学校や公的機関の行事等は託児付きという要望等 7 件
- ・子育て中の母親に温かい配慮を望む意見等 7 件

全般的にみると子育てには喜びがあり、子育てから学ぶものが多いことを認めつつも、子育てがこんなにも大変であったかということを実感しているという声が大半を占めている。

働いている母親からは、保育所の増設や保育時間の延長、子どもが病気時や病気明けの保育に関して、施策のいっそうの充実を求める声が多い。また乳幼児期よりも学齢期に至ってからの方が、働く親にとっては子どもの預け先に苦慮しているという実態も示されている。以上は子どもの保育に関する社会的機能が必ずしも働く親の実情に合致していない現状を示す声である。しかし、この問題は単に保育所の問題だけではなく、労働時間の短縮など仕事と子育ての両立を可能とする職場環境の整備の必要性についても言及されている。父親が育児に十分関わっていない実態を嘆く声もあるが、それも結局は男性の働き方を改善する必要があるという声になっている。また男性の働き方や家庭参加のあり方を変えるためにも、幼少期から男女平等の教育が必要であると意見もある。いずれももっともな指摘であろう。

一方、専業主婦の母親からも子育てに悩みや苦勞が絶えないという声が届いている。母親がひと時でも子どもから離れてリフレッシュできる時間、あるいは子どもを安心して遊ばせることができる場や子育てについて相談できる人等を求める声が少なくない。専業主婦の母親がいかに家庭内で孤立無援の子育てを強いられているかということを考えさせられる。地域の皆が子育てを支えてくれるような環境が欲しいという声は、まさにファミリー・サポート・センター事業が果たす役割につながるであろう。

② ファミリー・サポート・センター活動についての意見・要望は概ね次のように分類される。

- ・ファミリー・サポート・センターはありがたい制度で、大変助かっている等、ファミリー・サポート・センター活動を評価する意見等 215 件
- ・利用料に関する意見等
 - 利用料が高い、補助して欲しい等の意見 113 件
 - 低料金で預かってもらえる、民間より安い等の意見 8 件
 - 利用料の授受その他利用料金に関する意見 10 件
- ・ファミリー・サポート・センターを知らない人が多い、気軽に利用できるようにもっと宣伝すべきである等、広報活動に関する意見等 65 件
- ・病気の際、預かって欲しい等、病児の対応に関すること 39 件
- ・緊急時に預かって欲しい等、緊急時の対応に関すること 33 人
- ・時間外、休日等の対応に関する意見等 24 件
- ・会員同士の交流会や情報提供を望む意見等 40 件
- ・提供会員の質の問題に関する意見等 17 件

・アドバイザー、センター職員に関する意見等

大変親切で適切に対応してくれる等の意見 16 件

対応に問題がある等の意見 14 件

・固定した人をお願いしたい、自宅に来て欲しい、複数の提供会員を紹介して欲しい等、その他のセンターの運用に関する意見等（提供会員のリスト、手続き等を含む） 51 件

全般的にはファミリー・サポート・センター活動を高く評価している記述が多い。例えば提供会員には子育ての援助をしてもらうだけでなく、子育ての喜びを共有しあったり、ときには人生の先輩として親の悩みなどの相談にのってもらえるなど、地域で安心して子育てができることに感謝の気持ちを表明する記述が多い。前述したような子育て全般についての意見や悩みの多くが、ファミリー・サポート・センターの活動によって救われていると考えてよいであろう。ファミリー・サポート・センター活動が子育てを通して地域の絆を確かなものになっている様子がうかがえる。しかし、ファミリー・サポート・センターについて知らない人が少なくないことも指摘されている。ファミリー・サポート・センターの活動の良さをもっと広く人々に知ってもらうために広報活動の徹底を希望する声が多い。この点に関連して、定期的に地区の会員相互が情報を交換したり、親しくなれる交流会の設置を求める声もあり、検討すべき課題であろう。

一方、問題点の指摘もある。

まず利用料金に関しては、民間料金に比べて安い料金で預けられて、満足しているという意見がある一方で、けっして安くはないという意見もあり、むしろ、利用料金に関しては改善を求める声の方が多い。たとえば「一般のベビーシッターなどに比べればサポート・センターは確かに安い料金だが、それでもパートの時給では支払いが困難である」とか「一日預けると非常に高額な支払いになる」などの理由から、依頼できないという意見が多い。また行政が行っている活動にしては割高であり、最近は認可保育園や認可外保育園でも一時保育が充実してきているので、センター活動の意義が薄い等の指摘もある。これらの意見を述べている者の多くは「提供会員は非常に良い方であっても料金的な問題から依頼をしづらい」という意見は少なくない。

利用料金の支払い方法に関しては、直接提供会員に現金を支払うことに対する心理的な抵抗感から振り込みやチケット制の導入を希望する意見がある。この他、30 分単位の料金設定を望むなど、料金に対する要望や意見は多い。

次に病気のときや緊急時、時間外や休日に預かって欲しいなどの要望もそれぞれ 20～40 件前後の記述が行われている。それらにすべて対応することが果たして望ましいか否かの議論が必要であると考え、他方で理由によっては柔軟に対応できる体制を整備する必要もあるであろう。

最後に、提供会員やアドバイザーの資質に関しては、対応が適切かつ親身で非常に信頼できると高い評価がある一方で、資質に問題があるという指摘も少なくない。とりわけ預けることに対して「子どもがかわいそう」とか「仕事を辞められないのか」という発言や助言めいた説教をする人もいることが指摘されている。子どもを預けたり預かるという相互援助活動を通して、地域全体で子育てや親を支えあうことを目的としたファミリー・サポート・センター活動の理念について、アドバイザーや会員の理解を深める研修をいっそう充実させていくことが課

題として考えられる。

③具体的記述内容

次に、自由記述欄に記載されている意見・要望の一部を紹介する。

イ子育てについての意見・要望

イ) 保育所や学童保育の等、保育施設に関すること

・保育園の保育時間の延長。現在、通っている場所は最高 18 時 30 分ですけど場所によっては 20 時頃までの所があると聞きます。フルタイムで働いていたらやはり時間外勤務もあるので保育園の時間内に迎えに行くことは難しいと思います。働く女性が増加している現在、もう少し考えてほしいと思います。

・学童保育の充実をまず望みたい。学校のある日は 17 時まで、夏休み等は 9 時から 17 時までという時間帯では父母がフルタイムで働いて祖父母のいない家庭ではどうやってやりくりすればいいのか。せめて 18 時まで、夏休み等も普段と同じ 8 時 30 分オープンというわけにいかないか。切実な望みです。

・民間の認可保育所のため、0～6 才までは朝 7 時～夜 19 時まで預かってもらえるためサポート・センターを利用することはありませんが、今、土曜日小学生の子どもの預け先がなく、本当に困っています。仕方なく一人で自宅におっていますが、気が気じゃありません。学校の週休二日制に伴い、地域もいろいろ公民館活動等やって下さっていますが、働く親だとまったく利用できません。(送り迎えが必要)サービス業に従事する女性が増えていると思うので土曜日、日曜日の保育も充実させてほしいです。

・今後仕事を続けることを考えると、未就学児よりの就学時の長期休暇や放課後のことが心配です。私の地域の小学校には学童保育がないので 2 年後のことが今から心配です。卒園した保育園に放課後行ける制度や学童がほしいと思っています。そしてファミリー・サポート・センターも就学児向けにもう少し低料金にしていただけるといいと思います。

・子どもが大きくなってきたので、個人で預かっていただくよりも同年代の子供たちがいて一緒に活動できる場の方がいいようです。学童のような所が沢山あって、高学年の子も行けると安心だと思います。(現在、上の子は 5 年生なので下校後は自宅で親が帰宅する 18 時 30 分頃まで一人でいます。)

・近所に同じ年頃の子供がいないので、なるべく子供同士の交流をはかれる場所がほしい。保育園での一時保育(週三回以内など)の定員を増やすなど子供を預けられる選択肢が沢山ほしい。

・現在、保育園児と小学生の子供が二人いて自宅を事務所として広告業を営んでいます。自営業ということで保育園が定時の 16 時までとなっており大変園に気をつかい、延長などして預かってもらっている状態です。今一番大変なのは、保育園（所）不足です。ここが充実していないため、女性の労働力が生かせず、母親は存分に働けません。早く保育所を充実したものにしたいと思っています。学童保育についても同じでもっと国として取り組んでほしい。

ロ) 病児保育等に関すること

・核家族のため子供の急病時などいつも不安を抱えながら仕事している。看護婦をしているため、途中で帰宅することも出来ないのもっと病児保育を増やしてほしい。また社会も子供の病気の時、急な時に休める環境がもっとあればいいのにと常々思います。

・子育てをしながら仕事を持って一番困るのが子供の病気などで保育園に預けられないことです。病児保育をしてくれる小児科、病院などが地域にもっと増えることを切に望みます。

・おたふく、水ぼうそうをこの一年でたてつづけに経験し、保育園では当然の事ながら預かってもらえず、一週間ファミリー・サポート・センターに頼んで入れ替わりで見てくださいました。病後児保育の必要性を本当に感じます。

ハ) 父親の子育て参加に関すること

・ファミリー・サポートというありがたい制度は子育て中の母にとってとても心強く思います。しかし、もう少し社会が子育ては母親だけでなく、父親をはじめ社会全体が行うものという意識がないと子育ては辛いものになってしまいます。例えば子供の小さいうちは父親に早く家に帰ってもらうよう残業規制するなどしないと、少子化は防げないと思います。

・子育てはとにかく時間と手間がかかる。女性（母親）が働きながら子育てをするためにはお金の援助だけでなく、手間にかかる年齢の子供に親が時間をさける制度が必要。女性の育休や時短も大事だが、男女が平等に仕事をしていくためには父親（男）も低年齢児がいる間くらいは時短とまでは言わないがせめて残業なしで家事、子育てに参加できる制度を作してほしい。

・夫に理解があっても仕事の都合でほとんど育児協力が出来ないと育児に疲れることもあるように思う。育児放棄する母親と普通の母親というのは紙一重であり、誰でもその危険性をはらんでいるのではないかと気がする。父親も育児に参加することが当たり前の社会にするのは、社会全体の意識が変わる必要がある。

・どうしても子育ては母親だけの（時間的に）負担になっている。子供の（保育所への）お迎えに行くため、父親が会社を早退することをまだまだ認める社会ではないのが問題だと思っています。ヨーロッパでの子育ての現状（父親がしっかり子育て出来るようなシステム）が羨ま

しい限りです。子育てをサポートしてくれるサービスはとても感謝していますが、それよりも父親がしっかり子育てに参加できる社会になって欲しいと願うばかりです。そうすれば母親のストレスも随分減ることでしょう。

二) その他子育てに関すること

・やはり仕事をもちながらの子育ては大変です。また主婦であっても色々あると思う。誰もが子育てに困ったとき相談しやすい場所、サロンはとても大切と感じる。

・年子の乳児二人を育てていてノイローゼになりそうな状態でいます。子供のいる家庭には一年に一回や半年に一回くらいのペースで、家庭訪問のように保健婦さん等が見回りするような体制が今の時代は必要だと思う。密室での育児は本当に恐ろしいです。

・子育てはやはり大変です。まして仕事をしていたりすると育児と職場の往復になるのが現状でそんな中で誰かに少しでも子供を頼めるというのがとても助かります。仕事をするしなにかかわらず、リフレッシュしたいときや、美容院に行きたいときなど気軽に頼みやすい所があれば、育児のストレスからも多少は開放されると思います。子育て中の母親は疲れているし、自分の時間を少しでもほしいと思います。

・子育てが楽しいと感じる事が最近はあまりできません。母親が子供を預けてリフレッシュすることを夫やその家族、または子供の通う保育園の保母達、近所の方達、皆がもっと理解してくれて当然の権利として認めてもらえたら人生もっと楽しくなるのに…なんて思っています。

・子育ては重労働です、「母親が子育てをするのは当たり前」という風潮が強いですが、子育て中の母親もリフレッシュできるような社会ができあがってほしいと思います。安心して預けられる施設の充実、預けることに対する偏見の排除が望まれます。乳幼児を預けて美容院などに出かけても「子供がかわいそう」とか「母親のくせに」とか「我慢が足りない」とか言われな社会で安心して子育てがしたいです。

・地域に知り合いが少ないのでサポート・センターの活動は魅力的ですが、援助依頼の有無に関わらず、地域の先輩ママさんと交流する機会があればいいなと思います。

・仕事を始めてとにかく忙しく、子供をせかしたり、自分も休みなくいつも走っている状態でゆとりがありません。子供のことも必要以上におこっしまい落ち込む日もあります。一人で悩み、誰にも相談できない時にメールや手紙のやりとりで救われたたいと思う。そんなネットワークがあればいいなと思います。

・地域または、みんなで子育てできるのがいいと思います。孤立してしまうのではなく、ちょっとした不安も話し合ったり聞いてもらったりするだけで気分が軽くなるのでそういうお付き合いができるといいです。

・雨の日など外で遊べないときに誰でも利用できる施設、例えば常に使用できる子供の遊び場や広場等、広く皆で遊ぶことのできる室内等の施設があると雨の日や雪の日等、子供の様子を見ながら他のお母さん達とお話ができる場所として使用できると嬉しい。

・自宅の近所は同じくらいの子供がいなくて公園なども人があまりいなくて子供同士遊ばせることがなかなか出来ないので、保育所の開放などもっと増えるといいなと思います。

・子供にかかる時間をもっと欲しいです。仕事を辞め専業主婦になることは自分の将来のことを考えると選択する気にはとてもなれません。子供のためにも働く姿を見せることは必要だと考えていますが、正社員の身分のまま労働時間を短縮できるドイツや北欧のような制度があればいいと思います。

・子育て世代の親は働き盛りで仕事もなかなか充実しています。楽しいです。しかし子供や地域とふれあう時間は多いとはいえません。子育てに関する様々な手当も必要でしょうが、勤務時間の短縮や休暇などの制度の整備も望みたいです。そしてその制度をとことん使い込める環境も…。

・子供が小学生くらいになっても長時間の残業は難しい。他の人が仕事をしているのに毎日自分だけ早く帰るのは気が引ける。子供を安心して預けられる場所も必要だが、社会全体が長時間残業を排除する方向に向かって欲しい。

・いろんなところで言われているように、子育てのしにくい世の中だと思います。こんな地方でも家の前を車が通り、自由に遊べる空き地はなくほとんどの子供達がバスで幼稚園、保育園に通っているため、近所の子供の顔すらわかりません。我が家は転勤族で核家族のため、否応なく夫が家事、育児に参加していますが、仕事が忙しくなる年齢でもあり、私がフルタイムで働くということは難しい状況です。小さい子供を預けて働く、ましてやりフレッシュすると言うことに対する世間の目もまだまだ冷たく、これから成長とともにかかる莫大な教育費のことなどを考え合わせると暗澹とした気持ちになります。母子が孤立しない、本当の意味で子供に優しい世の中になって欲しいと切に願っております。

・保育付きの子育ての講演会などやって母親をリフレッシュさせて欲しい。毎日わんぱくな子供を見ているとかわいいが、時には静かな時間が欲しい。父親は当てにならない。

・子育ては教えられることの方が多く、子供に親として育ててもらっている部分が多々あります・最近、結婚しない女性や子供を産まない女性も多いのですが、子育てがいかに楽しく人生を豊かにするかもっと伝えられたら、男性も育休をとって子育てに時間を割くことが普通にな

ったら、もっと子供を産み育てようという人が多くなるのではないかしら。

・子育てで迷うことばかりです。でも子供から学ぶことが多く“親にさせてもらってる”と思っています。長男が6才、私も母親6年生だと考え、ひとつずつ子育てを楽しみたいと思っています。ファミリー・サポート・センターの提供会員の方々には子育ての大先輩が多くいらっしゃる所以の方々と知り合い、色々教えていただくことが多いです。

・もっと楽しく子育てがしたい。金銭的なことに振り回されずに皆が安心して子育てができる環境になって欲しい。働く女性だけが子育てのサポートを受けるだけではなく、すべての女性（母親）にサポートは必要だと思う。また、すべての子供にとって幸せな環境を作って欲しい。

・フルタイムで働いていますが、定時で仕事を終えても通勤に時間がかかり、園の特例でさえ時間に間に合いません。娘の送迎には私達夫婦の他、両家の母とファミリー・サポート・センターのお母さんと5人体制です。出張、残業等で毎日ギリギリで心身共に余裕が無くゆったりと子供と接する時間とゆとりの心がないのが残念です。

・子供は常々両親だけでなく祖父母、保育園、ヘルパーさん、先生方、地域の人々など、いろいろな人たちと関わり合いながら育てられていくものだと思います。そういう意味でも子育てしながら働くお母さんを支え、助成していく制度がどんどん増えればいいなと思っています。

・子供は多い方がいいという思いから3人目を産みました。「働いているのによく3人産んだね」と人から言われますが、働いているからこそ3人産むことが出来たと思います。共働きでなかったら経済的に3人は無理です。子育てにお金がかかりすぎます。少子化はどんどん進んでいくと思います。

ロ ファミリー・サポート・センター活動についての意見・要望

イ) ファミリー・サポート・センター活動を評価する意見等

・忙しい日々の中では絶対に知り合えない人との橋渡しをしていただき、縁あって良いサポーターさんにも恵まれています。援助していただくだけでなく、子育てを共通の楽しみとして共有している実感があり、感謝の気持ちで一杯です。時には少し人生の先輩であるサポーターさんに私自身の悩みや愚痴も聞いてもらったりして誰のサポーターなの？と思うことも度々です。いい関係を築けていますので甘えすぎることなく節度を持って大事にお付き合いしていきたいと思っています。既に両親も亡く、頼るところも実際にないので本当に助かっています。このような利用者の声をどんどん外へ発信し、活動がより活発になればいいなと思っていますし、何かお手伝いできることがあればしたいと考えています。

・2 番目、3 番目が保育園に入ってから長時間の保育をお願いすることも少なくなりました。でも、いざというとき（日、祝日等、保育園がお休みの時など）は安心して保育をお願いできるという安心感があり、とても助かります。仕事をしながら育児や介護（現在、同居義母が要介護2のため）ができるのは、保育園とファミリー・サポート・センターさんのおかげだと思い感謝しています。お陰様で一番上の長女の将来の夢は「子供を預かるヘルパーさん」だそうです。

・子供に障害があり、共働きなので支援していただけて本当に有難いです。悩みも聞いていただき、家族ぐるみのお付き合いをさせてもらっています。

・提供会員の方がとても良い方で子供もすぐになれて安心して預けられます。いつも子供と二人なのでたまに預かってもらえとリフレッシュになり、明るい気持ちで子供と向き合えます。助かっています。

・本年4月から事情があって仕事を辞めて自宅にありますが、在職中（フルタイム）は、保育園の送迎、病児保育、産前産後の上の子供達への援助等、大変お世話になりました。親も子も預かってもらうこと以上に精神的に支えられてきたように思います。「ファミリー・サポート・センター」がなかったら仕事を続ける事も出来なかったし、これからの復職も考えられません。この事業の今後の益々の発展が望まれます。

・我が家の場合、いつも決まった方が子供を0才から見て下さっていますので子供も親以上にファミリー・サポートの方に親しみをもっていて、本当に有難く思っています。仕事としてではなくて、愛情を持って子供と接して頂いており、病気の時に親がそばにいらなくても心細い、寂しい気持ちをいやして頂いています。私も安心して働くことが出来ます。

・引っ越ししたばかりで知合いもほとんどいなかったのもとても有難い制度だった。子育て経験者の方なので子供の急な病気によるキャンセルなども気持ちよく受入て頂き助かる。また、活動会員の方の子供さんと予想以上に仲良く過ごせているようでベビーシッターなどと違った触れ合いが嬉しい。

・仕事の都合で保育を依頼しておりますが、現在の仕事を続けられていられるのはファミリー・サポートさんのお陰です。もし、このようなサポート・センターがなければ別の仕事を探さなければならず。生活基盤が成り立ちません。いつも急な依頼でも快く対応して下さるお陰で安心して子供をお願いできます。他にもいろいろな研修会や催し物を実施していただき、センターを利用させて頂くことを子供も楽しみにしております。感謝の気持ちで一杯です。

・初めて利用させて頂いたのが昨年5月。急な残業ということと、下の娘ですが双子でしたので心配でしたが、保育園のお迎えと仕事が終わるまで見て頂きました。今思えば少し勇気を出して電話して良かったと思っています。仕事で穴をあけることも少なくなりましたし、子供達もまかせて会員さんに会えることを心待ちにしています。私自身、悩んでイライラすること

が少なくなりました。得ることが多いこの制度、もっと多くの働いているママに知って利用して欲しいですね。

・心に余裕を欠いた時などかえって子供と少しは距離を置いたりして、1対1の子育てから開放されることも時には大切なことだと思います。そういう点でもこのファミリー・サポート・センターの活動は自分一人で息詰まった時に抱え込まずに、子育ての経験豊富な方々に助言を頂いたり、子供を連れていけない場所や急な冠婚葬祭で外出しなければならない時など、子供を見てもらえる人がいない私などは、本当に有難く重宝しております。

・第3子妊娠中に転勤で今のところに来ました。夫婦二人とも実家が遠いので知人も全くいない土地で早速ファミリー・サポート・センターに登録しました。安い料金で預かって頂けるのは本当に嬉しかったです。末っ子が生まれ、0才、3才、5才の子供を抱えて見知らぬ土地で一人で子育てしていくには本当に強い味方でした。上の子の幼稚園、病気、その都度、良い会員の方に恵まれ、何とか切り抜けてきました。現在すっかり土地にも慣れ、多くの友人もでき、上二人が学校、末の子も今年から幼稚園に入り、私自身も多少時間ができ、ファミリー・サポートのお世話になる回数も減りそうです。有り難うございました。

・いつも快く子供を預かってもらい、とても助かっています。子供もとても楽しい時間を過ごすらしく「家に帰りたくない！おばちゃんと遊ぶ」などとおねて寂しいやら頼もしいやらです。もう少ししたら私も援助のほうへまわりたいと思っています。これからもよろしくお願いします。

・私は仕事をしていないのだが、子供が急に具合が悪くなって病院へつれて行くときや、子供の検診の時などどちらかの子供を預けるようにしています。協力会員さんは子供にとって自分のおばあちゃんのような存在でとてもなついています。また私自身が悩んでいることなどそれとなくアドバイスして下さるのでそれだけでも救われる気分になり、本当に有難く思って利用させてもらっています。

・実家も遠く、家族の応援が頼めない状況なので、二人目は諦めかけていたのですが、支援会員の方の支えもあり、二人目を妊娠、出産することが出来ました。産前産後、上の子の預かりや保育園のお迎えをして頂き、本当に助かりました。ご近所の方に頼む場合、御礼はどうしようなどと迷うものですが、サポート・センターの場合だと1時間の保育料も決まっているのでかえって気が楽です。

ロ) 利用料に関すること

・利用料が高いのでなるべく頼まないようにしています。(提供会員の方はとても良い方なのでもっと頼みたいのですが…)

・利用料が子供一人 700 円/H なので二人の子のお迎えを頼むと私の時給 1,325 円より高くなってしまいます。これでは三人以上子供を抱えている人の利用は大変だと思います。本当に必要としている方のために補助金等があると良いのですが。

・1 時間 700 円と聞けば、初めは安い! と思いましたがやはり毎日曜、祝日に長時間にわたり援助してもらうと 1 か月の保育料より、かなり高くなってしまいます。もう少し安くみてもらうようにはならないでしょうか。

・二人の子どもの毎朝保育園に送ってもらい、大変助かっているのも事実ですが、利用料金が高く、経済的負担は大きいです。片道 25 分位の保育園の送りに 1 か月 3 万円以上掛かってしまいます。これだけのお金を払い当日のキャンセル料まで取られているのにサポートする側は自分の都合で予定を変えてしまっても OK、というのはおかしい話だと思います。

・利用料をもう少し安くすると更に気軽に依頼できるし、援助する場合もボランティア感覚で援助することができると思う。リフレッシュしようと預けようと思ってもせいぜい 2~3 時間程度が限界。近辺には転勤族が沢山すんでおり、皆援助してもらえる人がいず、いざというとき困っている。市の最低賃金にするなどして改善して欲しい。ファミリー・サポートはボランティア活動の類ではないのですか。

・依頼のほとんどが土、日、祝日の 6 時間から 9 時間なので一度お願いするとパートの日給の一日分以上の費用が必要になります。それでも利用して働き続けているのはここ数年の辛抱だと考えているからですが、補助金などがあれば有難いと思います。

・当市のファミリー・サポート・センターは大変熱心に取り組んでおられ、どのお宅に預けても安心して任せることが出来ます。子供達も楽しみにしており、お金のつながり以上に心が支えられます。地域でのつながりも出来るし、いざという時に頼めるのも本当に有難いと思っています。ただ料金は二人で一日預ける(土日の仕事が多いので)時は高いなあ! と思いますが…。

・ファミリー・サポート・システムについては大変便利に感じています。核家族が多い社会でこのような援助は若い私達にとって本当にあらゆる意味で有益に感じます。これから利用料を公的に補助していただけるような体制になれば、もっともっと会員増加になると思います。利用したい人は沢山います。

・核家族が増え、気軽に子供を預ける身内が側にいない場合、ファミリー・サポート・センターが出来てとても助かっています。ただ、頼みたいと思っても利用料が高いため、諦めた事が何度かありました。逆に提供会員さんにとっては少ないと思われるかもしれません。両者の不服分を行政で補助していただけると有難いのですが…。

・利用料金は他の施設などに預けた場合よりは安いと思うが、土、日、祝祭日など長時間になると、高い金額になる。仕方ないと思うが、市や県などから少し助成金などでもう少し安く利用できればいいと思う。

・事前に予定して預ける分には問題ないのですが、急な用事ですぐをお願いしたい時は気が引けてなかなか頼めないのが本音。料金も長時間になると負担が大きくなるので長時間の場合の割安制度や定額制度を考えてほしい。

・実家が遠いためとても助かっています。まだ一回だけですが、上の子供の授業参観の時利用させて頂きました。親切にして頂き子供達も楽しかったようです。ただ料金は他で預かって頂くよりとても安いのですが、我が家は三人の子供がいるため、さすがにどうしてもと言うときにしか預けることが出来ません。もう少し兄弟割引などあれば気軽に利用できるのですが。

・ベビーシッターも民間企業としてあるが、時給 2,000 円～2,500 円ぐらい高く、またどのような人がどこから来るのか不安であり、交通費も払わなくてはならず大変だが、ファミリー・サポート・センターは割安で気軽に地域のボランティアというような感覚でお願いでき、非常によい制度だと思う。

・低料金で子供の保育園からお迎え、在宅保育をやっていただけて助かっている。以前ベビーシッターをお願いしたが、料金が高かった上、自宅で保育ということで気を遣い、一度きりで頼むことを辞めてしまった。また善意での活動というこが実感できる。ベビーシッターは全てに値段があり、細やかな請求書がきたが、ファミリー・サポート・センターの活動は協力会員さんが自分の子供と同じように扱ってくれ、家庭的な雰囲気がある。

・直接提供会員さんにお金を払うのはなんだか生々しく抵抗があります。利用料の支払いを現金以外の方法はないでしょうか。振込みとかチケット制とか。

ハ) ファミリー・サポート・センターの広報活動に関すること

・転勤などで引越ししてこられた方は特にこのシステムを知らない方が多いようで、何人にも「こういうサポートがあるよ」と伝えて喜ばれました。転入の際にこのシステムの資料などを渡されると良いのではないのでしょうか？。また乳幼児の健康診断の時などに配布するのはどうでしょうか？。サポートを必要としているのに知らない人が多いことに驚いています。もっと広く周知して頂きたいと思います。

・サポート会員の方がとても子供と仲良くして(?)下さるので安心してお任せできます。サポート・センターのスタッフも非常に丁寧できめ細かい対応して下さい助かっています。素晴らしいシステムだと思いますが、たどり着くまでに時間が掛かりました。サポート会員を増やすためにも子育て支援を必要とする人のためにも認知度を高める必要があるかと思います。区役所に問い合わせた時もこちらから「ファミリー・サポート・センター」の名前言わなければ紹介もしてくれませんでした。保育園の申し込みに来た人に案内を配るなども必要かと思います。

・広報活動を積極的に行い、協力会員を増やして欲しいと思う。価格が高くて良いので定期的に預かってくれる人や宿泊させてくれる会員さんが欲しい。ニーズに合わせて価格や協力パートナーのバリエーションを設けてはどうだろうか。私はセンターの会員さんには急な依頼が出来ないため、他の民間団体での利用をメインにしています。

・依頼会員は預かってくれる人を必死に捜してセンターの存在に気づくが、援助会員は熱心な人しか会員にならない。その分「安心して頼める人」ではあるが、絶対数が増えないのも現実。援助会員を増やす手立てはないものだろうか。町会ニュース等、身近な機関をもっと使って宣伝できないものだろうか。

・保育所等でのファミリー・サポート・センターを見かけましたが、その他では見かけたことが無く、わりと知らない人も多いようです。とても安心できる良い活動なので定期検診時等、子育てのお母さん方に情報提供があると良いのでは…。

二) 子どもの病気、緊急時の対応に関すること

・子どもが病気の時にも相談にのってもらえるがまだまだ臨時的、部分的対応なので病児保育に近い体制を作ってもらえると本当に嬉しい。ファミリー・サポート・センターを利用する最大の理由(困っている、期待している)は本当にそこなので。

・非常に有難い制度で出来たらすぐ応募し、早速理想的な方を近所に紹介してもらい、とても感謝しています。実は子供が軽い熱などの病時もお願ひしています。働く親にとって一番困るけど一番多いのが子供の急病。高熱や重病以外は預かってもらえるようなルールに変えて欲しいです。

・提供会員の方はとてもいい方で利用したいと思うが、料金がかかるため、なかなか利用できない。また園で急に具合が悪くなってもすぐ迎えに行けない時に迎えに行ってもらえたり、病院に連れて行ってもらえたり、「おたふく」などの長期出席停止の病気の時に見てもらえるととても有難い。そういう時。1時間料金でなく、安い1日料金を設定してもらえると助かります。

・フルタイムで働いている場合、突然の残業ややむを得ない事情で子供の病気時の出勤などでも対応できるファミリー・サポート・センターがあればと思います。

・入会当時はセンターさんに無理なお願いをしましたが、突発的な依頼には事実上対応しきれないことがわかり、その後は予めわかっている残業や休日出勤の時だけお願いすることにし、突発的な時にはベビーシッターさんを利用しています。センターさんは皆様のご厚意でなりたっているものなので、無理を言えないのかもしれませんが、フルタイムで働く者として一番困るのが急に保育園から連絡が入り、迎えに行かなくてはいけないけど仕事の都合上、すぐにはどうにもならない時、そんな時に対応して頂けると本当に助かります。

・現在看護婦をしており、日勤のパートとして働いています。17時までの仕事が終わらないことも多く、ファミリー・サポート・センターに忙しくて電話がかけられない状態です。17時以降センターへの連絡が取れないことと、土日急に預かって欲しい時の連絡が取れない点を改善して欲しいです。

・いつも大変お世話になっており、有難く思っております。アドバイザーさんの対応も温かく、また我が家のお世話になっている提供会員さんは「少し子育ての先輩」という感じなのでとても安心感があります。具合の悪い子供にお粥を作って頂くなどのきめ細かい対応はマンツーマンだからこそ出来る事だと思います。預かってもらえる子供の年齢の幅が広いことも兄弟一緒をお願いすることが出来、有難いです。一点だけセンターの開設時間がもっと長ければいいのと思っています。私は子供の急病の際、仕事が休めず援助を依頼することが殆どなのですが、夜間や早朝に個人のお宅に電話するのはやはり憚られます。そういうときにセンターが間にあって入ってくださればいいのと思っています。

・当日急に子供の発熱等で預けたい時はセンターが空くまで待ち、そこから電話依頼をし返答を待つということで午前中から預かってもらう事が非常に難しい。早朝から受付をして頂けると本当に助かる。昼から子供を預かってもらうことが出来ても、結局仕事が中途半端になり1日看病することになる。早朝受付してもらえたらな…とよく思います。

ホ) 交流会の情報提供に関すること

・転勤族のため、周りに知り合いもないところでの出産で、上の子供はどうしようかと不安な時、ファミリー・サポート・センターの活動を知り、お願いしましたらいい方を紹介して頂き大変助かりました。日頃から定期的にもっと交流の場があって提供会員の方や他の子供を育てている人と話せる機会が増えればもっといいのと思っています。

・いざという時、預け先があるという点で気持ち的に楽な部分はすごくあります。でもたまに預ける場合、人見知りの激しい我が子を安心して預けられるかというのを悩まします。普段から交流があれば子供も私も安心できるのですが…。ならし的な意味でも何か良い方法がないのでしょうか。

・普段から提供会員との何らかの定期的なコミュニケーションがあればいざという時、無理して我慢せず気軽に預けられる。そのような機会を設けていただけるとありがたい。

・交流会の時、どの方にもこにこして預かり会員の笑顔にお願い会員の私はホッとできました。でも預ける人がいつも同じ方で信頼できる方なので逆にその方が無理だと他の方にということが自分から頼めなく、今回はやめてきます。という事も度々あります。いろんな交流会でためになる事もありますが、会員同士もっと気軽に話せる集まりもあっていいと思います。

・普段お世話になっているサポートさんの都合が付かなくて代わりのサポートさんをお願いしたいとき何人かリストを見せてもらって決められたらいいと思う。自分である程度「この人なら…」と思う人と、それから面接が出来たら…と思います。やはり全く知らない人に子供を預けるのだからどういう人か私は出来れば自分も子育てをしたことがある人と思うので、今の「何々さんに会って下さい。」ではない方が不安が無くなると思います。今は会うまでどんな人かがわからなくとても不安になります。

・提供会員と依頼会員との交流会を何度か行って欲しい。初顔合わせで預けると子供が不安がったりするので…。全く面識がない方に子供を預けるのは最初は不安がありましたが、本当にいい方達なので今は安心しています。

・子供の援助をしてくださる方がいい人で安心して預けられるのでとても満足しています。また子育ての先輩でもあるので子供のことでいろいろと相談にものって下さるので本当に助かっています。今後、援助を依頼している人同士の交流の場を作ってくれたら、周りの人にもっともっと広がっていくのではないかと思います。

・このような活動をやって頂き大変有難く思う。ただ、いまだ利用したことがない。それは近所のどのような協力会員の方がいらっしゃるのかわからないため、なかなか利用に踏み切れなからである。もっと気楽に利用できるよう支障をきたさない範囲で協力会員の情報を公開して頂けると有難い。一度利用すると利用しやすくなるのかもしれないが、最初の利用への積極的な取り組みも是非お願いしたい。

・他人に預けるのは心配だし不安でした。交流会に行ったら提供会員の方がどんなに気をつけて預かって頂けるかがよくわかりましたので、交流会をどんどん行ってもらいたいです。親もこの方なら安心と思って預けたいです。

へ) 提供会員に関すること

・サポート会員の方に子供の性格などについてアドバイスされた事があるのですが、結構傷つくことまで言われ、預けるのが嫌になりました。良かれと思って言われたことだと思うのですが…。たまに短い時間、預かっただけで何がわかるのでしょうか…。「ほめる」ことはしても「けなし」たり、心配をあおる様な事を言うのはして欲しくない。ビジネスライクに子供を預かってくれればいいと思います。

・一度お願いした提供者の方に子供がなつかず、お願いの時間をほとんど泣いてばかりいたと…。その方に「こんな子、見たこともない！叩きたくなった！」と言われました。親としては聞き流せない一言でしたがセンターの方にもその件は申ししておりません。提供会員が誰でもなれるというのはどうかなと思います。多少なりとも本当に子供好きで子供の扱いの上手な方が沢山いてくださると、こちらでも安心してお願いできる気がします。

・私は三年前から上の子の時と同様のベテラン提供会員にお願いしているのですが、もう子供を連れて行くと子供用お布団が出てたり（そのお宅には子供はいないのに）おもちゃが出してあったり、子供用のCDがかけてあったり、万全の準備で待っていてくれるのが嬉しい！しかし過去二回位、お願いした別の方は特別な準備などはなく、自分の子供の遊び相手として預かり会員をやっている！という感じでした。提供会員の方の質の向上と統一したサービスを願っています。

・現在はとてもいい援助会員さんを紹介して頂き、その方に安心して頼りきっている状態なのでとても満足していますが、もしその支援会員さんの都合が悪くなる事があったら…と少し不安も持っています。支援して頂くすべての方が同じようにして頂けるわけではないと思うので、ファミリー・サポート・センターと言うよりは今の支援さんに大満足という感じです。

・料金が安いから仕方がないのですが、子供を預かって下さる方の意識が「お金をもらって仕事をしている」というよりも「サービスでボランティアでやってあげている」という傾向が強いように感じます。それゆえこちらとしては不満も言えず、こちらとしても不満を言われたら次がないのでとても気をつけてます。

・以前利用していたが、利用する理由や家の中や個人的な事に関して批判的な目で見える方に当たって非常に不愉快な思いをした。「自分はちゃんとやってきたのに」的な目で利用する側を見ないで欲しい。

ト) アドバイザー等センター職員に関すること

・アドバイザーが頑張っています。まめに連絡を取ってくださってアドバイザーの紹介だったら…と安心しています。アドバイザーの努力がファミリー・サポート・センターの力（信用）となっていると実感しています。提供会員の中に室内犬を飼っている方がいると聞きました。

・私は紹介頂いてませんが我が家の子供はアレルギーが強く、犬や猫にも反応します。会員の紹介は大変気配り等必要でアドバイザーは苦心すると思います。

・センターに電話するといつも「どうですか、調子は？」等々、声をかけて下さるので事務的な対応ではなく、親しみを感じています。一度相談したときもすぐに対応して頂きとても助かりました。

・上の子が入院してワラをもつかむ思いで市役所に相談しました。即、明日から預けたいとの急な要望に会員登録手続きも後回しに丁寧に対応してくれたので感激しました。友人にもどんどん紹介しようと思います。

・結婚してなれない土地で保育園等わからず、当日に子供を預ける場所を見つけられず困っていた時に見つけたのが、出産した病院から頂いたファミリー・サポート・センターの広報誌でした。そのままセンターに行き、理由を話すと快く協力会員さんを探して下さいました。本当にたすかりました。有り難うございます。

・近くに頼れる人が全くいないなかでの第2子妊娠と言うことで不安な毎日だったのですが、親身になって相談にのって下さるアドバイザーさんのお陰でとても良い提供会員さんの方に巡り会うことができ、非常に感謝しております。秋から子供二人を保育所に預けて職場復職の予定ですが、いざという時でも頼りになる方がおられると思うととても安心です。ファミリー・サポート・センターの活動が益々広がっていくことを願っています。

・センターの方3名のうち、1名の方は対応もソフトで働く女性の不安や事情をととても理解して下さい信頼しております。他の方については「朝早くから、子供がかわいそう」や「ご自分でも預け先を探す努力をして下さい」、「仕事を辞められないのか」等、サポートする側からこんな事を言われるのかと驚くような言葉をかけられました。何か質問をしても「こういう決まりですので」と一言帰ってくるだけです。3名の方に援助して頂いていますが、いつもは私が調整していても、援助する方の御都合が悪くなり、サポート・センターに連絡が入ることがあります。すると「今回はセンターが間に入りましたが」と強く言われます。せっかく援助して下さい方は質の良い方が多いのに窓口の働く女性に傷つけられ口調もきつく連絡するのもためらってしまいますが、それでも利用しなければ生活が成り立たず、利用させて頂いていますが…。センターがより良くなる事を願っています。

・ファミリー・サポート・センターへ登録へ行った初めての日、子供を預ける事にただでさえ不安を抱いているのにそこへ「子供を預けるのはかわいそう、なるべく預けない方がいい」なんて事を言われ、大変不愉快になった。もっと一丸となって子供を安心して預けられるような雰囲気作りをしてもらいたい。センター側のスタッフの意識改革も大切だと思う。

・提供会員の方と子供の様子を見ながらお互いに話し合っただけで決めた事柄に関してアドバイザーの方から一方的に「それは間違っている」という内容の電話を受けたことがあります。アドバイザーの方も子育ての経験があったのですが、直接子供の様子を見たわけでもなく、提供会員からの電話報告だけで内容を確認することがなく、依頼した当方の考え方を否定するような話は良くないと思います。子育てのアドバイスはこちらから求めた場合だけにしてほしい。

・ファミリー・サポート・センターは大変有難いと思っています。が、中間を取りもつ係員の方がプロ意識に少々物足りなさを感じます。民間と違うのだから仕方ないのかもしれませんが、17時でハイ終了！といった感じが有り、心もとないです。

・提供会員の受けている講習内容がわからないので不安。良い方と悪い方の差が大きい。センターに不満を言ったら「仕方のないこと、皆さんボランティアですから…」と言われた。何のため報酬があるのか？提供会員より利用会員（子供）のことを一番に考えて欲しいと思う。（センターで）よろしくお願いします。

チ) センター運営に関すること

・毎日頼みたい時があり、一週間に三人の方で見てもらえることになったが、10か月児で人見知りがあったため、「同じ人に毎日見てもらえたらどんなにいいだろう…」と思った。ベビーシッターさんに高い料金を支払う代わりに一人の人が見てくれるので微妙な年齢の子供にはベビーシッターさんの方がよい。仕事を持つ母親にとってはまだまだ使える制度にはなっていないので今後に期待します。

・制度の考え方としては良い事だと思う。ただ人対人の関係であるため、子供との相性、提供者の資質のバラツキ等で複数の方に対応してもらっていると親も子も疲れてしまうことがあり、依頼している手前、強くものが言えないこともある。現在、この制度のお陰で就学後の子供がフォローしてもらえてとても有難く思っています。

・未登録時に一週間後のサポートを依頼したところ、登録手続きにある程度の日数がかかる上、急な話であるのでサポーターが手配できないであろうから、他を探すように言われた。民間に問い合わせると登録手続きはすぐに行うことが出来るし、サポーターも手配できると即答された。料金が安くても民間レベルの小回りが利く活動をして欲しい。

・保育園へのお迎えとその後2時間位の預かりを依頼していた時、その当日の朝、会社にサポート・センターの方から電話があり、「協力会員の方が急に都合が悪くなったので今日の件はキャンセルさせてください。」と言われた。他にお願いできる人も見つからず、仕事（残業で会議）に穴をあけたことがある。次にこんな事になるともう会社はクビになりそうなのでサポートセンターは信頼できないと思い、ちゃんと依頼したことは責任をもってやってくれるベビーシッター会社にその後は頼んでいます。

・前もってわかっている用事でも既に紹介して頂いている提供会員さんの都合が合わない場合、新たに提供会員さんを紹介して頂いたとしても、また事前打ち合わせなどしなければならぬので日程調整が難しいような気がして、ちょっとおっくうだなと感じることが正直あります。

・ファミリー・サポート・センターの良いところは一時保育と違い、自分の子供を提供会員の方がマンツーマンで見守れるということです。現在今までの提供会員の方が病気で子供を預けることが出来なくなりました。市に相談したところ、一度交流会に出席しているので代替りの提供会員はその交流会に出席した人からでないと駄目と言われました。が、そのときの提供会員は二人しかおらず、うち一人は既に平日の一人の子を預かっているため駄目とのこと、残りの人は子育て中の人でいつでもOKということではなかった。結局子供を預けたい時は夫が会社を休み、私の用事を済ませている。何のためにファミリー・サポート・センターに登録したのか？現在とても困っている。

・料金は少し高くなってもやむを得ないときは提供会員の方が依頼会員の自宅へ来てもらえると思うことがあります。子供が小さい時だと自宅では安心してよそのお宅では泣き出すこともありました。

・今までに3人の方にお世話になりましたが、どの方も素晴らしい方達でした。このシステムは本当にありがたいです。でもできれば小学3年生までではなくて、小学6年生まで見て欲しいです。小学4年生くらいでは1人で一日お留守番するにはまだまだ小さいように思えます。

リ) その他のセンター活動に関すること

・この夏から6年生までに対象が広がってとても助かるが、学童保育は3年生までなので4年生からの夏休みの対応が大変。提供会員宅に丸1日預かってもらうのは負担が大きい。数人まとめて小学校や会館でのびのび遊ばせるのにサポーターが何人か来てもらう…といういったシステムは考えられないか？

・ボランティア的要素が大きいこと、ご家庭を持っている方が多いことから、早朝や夜遅くなどご迷惑をかけそうな時間、お願いするのが申し訳なく、現在のところ高額の子育てサービス会社をお願いしています。

・核家族化が進み、実家が遠い人が多い市ではファミリー・サポート・センターはとてもいい活動だと思います。仕事を持つ人も持たない人も子育て中は、ずっと子供に縛られてしまいストレスもたまります。急な用事だけでなく、息抜きのためでも気軽に依頼できるような雰囲気があることを望みます。

・育児がある間は普通の人（男女問わず）と同様に働くのは難しいです。しかし実際には同様に働かないと仕事の成果、強化、自己実現の場で与えられた方など色々な面において不利になります。そういった中で働く上でファミリー・サポート・センター活動は大変役立っており、感謝で一杯です。ただそれに甘えてはいけないと常に注意しております。そしてそのことを利用者だけでなく社会一般も認識していく必要があると感じております。社会に対するケイモウ活動もよろしくお願いいたします。

・預ける時、一番心配なのが提供会員の資質です。仲介するセンターやリーダーが提供会員の情報を熟知し、依頼会員の希望の条件にあった紹介をすることがセンターや制度の評価につながると思います。

・いつも私の中で問題となるのが紹介して頂く会員さんのことを知らないことからおこる不安です。自分より若い人は何だか不安とか、子供が沢山いる人は一緒に見ますと言われても本当だろうかとこれまた不安、不安だらけです。電話で紹介されても相手の顔もわからず、センターの方を信じるしかないのですが、今まで一度もトラブルがなかったのですが、どうしてもこの相手選びが大きな問題となります。

・ファミリー・サポート・センターは自宅で行うわけですが、それを学童保育のように各地区に施設を置くようにならないでしょうか？預ける家が変わると子供も戸惑います。せめて行く場所が同じなら園のように意味（預けられる）が理解しやすいのではないのでしょうか？でもこれは違う事業になってしまいそうですね。

・本当に預けたい時は急な事が多く急な時ほどセンターでは対応しきれない気がする。託児所的な（保育園的な）ファミリー・サポート事業があれば使いやすいと思う。電話一本ですぐ受け付けしてもらえて、手続きもシンプルな、子供を預けるサポートの他に家事代行のようなサポートシステムも出来れば依頼の幅が広がると思います。

・5 月に出産したばかりで、7 月から仕事に復帰している。利用回数はまだ一回しかないが、今後かなり高い頻度でお願いしたいと考えている。現在の仕事では出張や深夜、早朝にまたがる仕事が多く、今のような昼間や送迎を主な目的としたサポートのみでは不安がある。フルタイムで今までの働き方を変えないで済むようなサポートまで出来れば求めていきたいと思っているが、今の規約や料金体制では頼みにくいと感じる。さらなるサポートの充実を希望したい。

Ⅲ 集計表

1. ファミリー・サポート・センター調査結果

表1 センターの運営

表1-1 センターの運営方法

直営	103 (53.4%)
委託	90 (46.6%)
合計	193 (100.0%)

表1-2 委託先

社会福祉協議会	55 (61.1%)
福祉公社	6 (6.7%)
医療福祉財団	6 (6.7%)
NPO	6 (6.7%)
社会福祉事業団	4 (4.4%)
勤労者福祉事業団	4 (4.4%)
その他	9 (9.9%)
合計	90 (100.0%)

表2 支部の有無

有	3 (1.6%)	—大阪市、横浜市、市川市
無	190 (98.4%)	
合計	193 (100.0%)	

表3 アドバイザーの配置

表3-1 アドバイザーの数

1人	2人	3人	4人	5人以上	合計
17	67	77	23	9	193
(8.8%)	(34.7%)	(39.9%)	(11.9%)	(4.7%)	(100.0%)

表3-2 アドバイザーの身分

正規	49人 (9.0%)
嘱託・非常勤	465人 (85.3%)
その他	31人 (5.7%)
合計	545人 (100.0%)

表4 サブ・リーダーの状況

表4-1 サブ・リーダーの有無

いる	127 (65.8%)
いない	66 (34.2%)
合計	193 (100.0%)

表4-2 サブ・リーダーの数

1～5人	64 (50.4%)
6～10人	47 (37.0%)
11～14人	10 (7.9%)
15人以上	6 (4.7%)
合計	127 (100.0%)

表5 センターの開設時間

表5-1 開設している時間

(M.A.)

月	火	水	木	金	土	日	合計
180 (93.3%)	189 (97.7%)	189 (97.7%)	192 (99.5%)	193 (100.0%)	52 (26.9%)	21 (10.9%)	193 (100.0%)

表5-2 開設している時間

7:30～22:00	1 (0.5%)	9:00～16:30	2 (1.0%)
8:30～17:15	1 (0.5%)	9:00～17:00	52 (26.9%)
8:00～18:00	1 (0.5%)	9:00～17:15	9 (4.7%)
8:15～17:00	2 (1.0%)	9:00～17:30	9 (4.7%)
8:15～17:15	1 (0.5%)	9:00～17:45	1 (0.5%)
8:30～16:15	1 (0.5%)	9:00～18:00	4 (2.1%)
8:30～17:00	42 (21.8%)	9:00～18:15	1 (0.5%)
8:30～17:15	33 (17.1%)	9:15～17:00	1 (0.5%)
8:30～17:30	1 (0.5%)	9:15～18:00	1 (0.5%)
8:30～18:00	3 (1.6%)	9:30～16:30	1 (0.5%)
8:30～19:30	1 (0.5%)	9:30～17:00	2 (1.0%)
8:30～21:00	1 (0.5%)	9:30～18:00	1 (0.5%)
8:40～17:25	1 (0.5%)	10:00～16:00	2 (1.0%)
8:45～17:00	1 (0.5%)	10:00～17:00	2 (1.0%)
8:45～17:15	4 (2.1%)	10:00～18:00	2 (1.0%)
8:45～19:00	1 (0.5%)	10:00～19:00	2 (1.0%)
8:50～17:10	1 (0.5%)	10:30～17:30	1 (0.5%)
9:00～16:00	4 (2.1%)	合計	193(100.0%)

表6 センター開設時間外の依頼への対応

(M.A.)

サブリーダーを通して	75(38.9%)
提供会員が直接提供会員に連絡する	104(53.9%)
対応しない	11(5.7%)
その他	68(35.2%)
合計	193(100.0%)

表 7 活動時間

表 7-1 提供会員の活動時間の制限の有無

あ り	62(32.1%)
な し	131(67.9%)
合 計	193(100.0%)

表 7-2 制限ありの活動時間

5：00～22：00	1(1.6%)	7：00～20：00	5(8.1%)
5：00～24：00	1(1.6%)	7：00～21：00	6(9.7%)
6：00～22：00	29(46.8%)	7：00～22：00	7(11.3%)
6：00～23：00	1(1.6%)	7：00～23：00	1(1.6%)
6：30～21：00	1(1.6%)	7：30～22：00	1(1.6%)
6：30～22：00	2(3.2%)	8：00～19：00	1(1.6%)
7：00～19：00	3(4.8%)	無回答	3(4.8%)
		合計	62(100.0%)

表 8 活動報酬の基準

表 8-1 基本の料金(平日の時間内の料金)

400 円	1(0.5%)	720 円	2(1.0%)
500 円	13(6.7%)	800 円	31(16.1%)
600 円	55(28.5%)	850 円	1(0.5%)
650 円	1(0.5%)	900 円	2(1.0%)
700 円	85(44.0%)	その他	2(1.0%)
		合計	193(100.0%)

表 8-2 平日の時間外料金(基本料金に対して)

差額なし	11(5.8%)	200 円増	51(26.7%)
100 円増	108(56.5%)	250 円増	2(1.0%)
120 円増	2(1.0%)	300 円増	0
150 円増	3(1.6%)	400 円増	0
175 円増	1(0.5%)	無回答	13(6.8%)
		合計	191(100.0%)

表 8-3 平日の深夜料金(基本料金に対して)

差額なし	8(4.2%)	200 円増	29(15.2%)
100 円増	67(35.1%)	250 円増	2(1.0%)
120 円増	1(0.5%)	300 円増	0
150 円増	2(1.0%)	400 円増	0
175 円増	1(0.5%)	無回答	81(42.4%)
		合計	191(100.0%)

表 8-4 土曜日の時間内料金(基本料金に対して)

差額なし	30(15.7%)	200 円増	55(28.8%)
100 円増	100(52.4%)	250 円増	1(0.5%)
120 円増	1(0.5%)	300 円増	0
150 円増	0	400 円増	0
175 円増	1(0.5%)	無回答	3(1.6%)
		合計	191(100.0%)

表 8-5 土曜日の時間外料金(基本料金に対して)

差額なし	8(4.2%)	200 円増	67(35.1%)
100 円増	70(36.6%)	250 円増	2(1.0%)
120 円増	2(1.0%)	300 円増	1(0.5%)
150 円増	3(1.6%)	400 円増	3(1.6%)
175 円増	0	無回答	35(18.3%)
		合計	191(100.0%)

表 8-6 土曜日の深夜料金(基本料金に対して)

差額なし	8(4.2%)	200 円増	67(35.1%)
100 円増	70(36.6%)	250 円増	2(1.0%)
120 円増	2(1.0%)	300 円増	1(0.5%)
150 円増	3(1.6%)	400 円増	3(1.6%)
175 円増	0	無回答	35(18.3%)
		合計	191(100.0%)

表 8-7 日・祝の時間内料金(基本料金に対して)

差額なし	17(8.9%)	200 円増	58(30.4%)
100 円増	108(56.5%)	250 円増	1(0.5%)
120 円増	1(0.5%)	300 円増	0
150 円増	2(1.0%)	400 円増	0
175 円増	1(0.5%)	無回答	3(1.6%)
		合計	191(100.0%)

表 8-8 日・祝日の時間外料金(基本料金に対して)

差額なし	8(4.2%)	200 円増	67(35.1%)
100 円増	70(36.6%)	250 円増	2(1.0%)
120 円増	2(1.0%)	300 円増	0
150 円増	3(1.6%)	400 円増	3(1.6%)
175 円増	0	無回答	36(18.8%)
		合計	191(100.0%)

表 8-9 日・祝日の深夜料金(基本料金に対して)

差額なし	6(3.1%)	200 円増	49(25.7%)
100 円増	51(26.7%)	250 円増	2(1.0%)
120 円増	2(1.0%)	300 円増	0
150 円増	2(1.0%)	400 円増	1(1.6%)
175 円増	0	無回答	78(40.8%)
		合計	191(100.0%)

表 9 会員の登録方法 (M.A.)

センター事務局にて登録	186(96.4%)
説明会時に登録	111(57.5%)
申込書郵送にて登録	52(26.9%)
その他	50(25.9%)
合計	193(100.0%)

表 10 通常の援助依頼方法 (M.A.)

直接提供会員へ	80(41.5%)
センター(アドバイザー)	131(67.9%)
サブ・リーダーへ	10(5.2%)
合計	193(100.0%)

表 11 援助対象児

表 11-1 援助対象児の年齢制限の有無

あ り	182(94.3%)
な し	11(5.7%)
合 計	193(100.0%)

表 11-2 援助対象児の年齢

援助対象児の下限年齢		援助対象児の上限年齢	
0 歳	85(46.7%)	8 歳	2(1.1%)
生後 30 日	1(0.5%)	9 歳	30(16.5%)
1 か月	1(0.5%)	10 歳	50(27.5%)
43 日	5(2.7%)	11 歳	1(0.5%)
57 日	5(2.7%)	12 歳	95(52.2%)
58 日	1(0.5%)	13 歳	1(0.5%)
2 か月	6(3.3%)	15 歳	1(0.5%)
3 か月	33(18.1%)	18 歳	2(1.1%)
4 か月	5(2.7%)	合計	182(100.0%)
6 か月	37(20.3%)		
8 か月	1(0.5%)		
1 歳	2(1.1%)		
合計	182(100.0%)		

表 12 宿泊依頼への対応

表 12-1 宿泊依頼の受け入れの有無

受け入れている	14 (7.3%)
受け入れていない	179 (92.7%)
合計	193 (100.0%)

表 12-2 3 か月間の宿泊依頼の有無

あ り	4 (28.6%)
な し	10 (71.4%)
合 計	14 (100.0%)

表 13 病児依頼への対応

表 13-1 病児依頼の受け入れの有無

受け入れている	156 (80.8%)
受け入れていない	37 (19.2%)
合計	193 (100.0%)

表 13-2 3 か月間の病児依頼の有無

あ り	133 (85.3%)
な し	19 (12.2%)
無回答	4 (2.6%)
合 計	156 (100.0%)

表 13-3 受け入れの方法

一定の基準を設けて受け入れている	73 (46.8%)
受け入れているが基準は設けていない (提供会員が承諾すれば受け入れている)	81 (51.9%)
無回答	2 (1.3%)
合計	156 (100.0%)

表 14 障害児依頼への対応

表 14-1 障害児依頼の受け入れの有無

受け入れている	187 (96.9%)
受け入れていない	5 (2.6%)
無回答	1 (0.5%)
合計	193 (100.0%)

表 14-2 3 か月間の障害児依頼の有無

あ り	139 (74.3%)
な し	47 (25.1%)
無回答	1 (0.5%)
合 計	187 (100.0%)

表 14-3 受け入れの方法

一定の基準を設けて受け入れている	29 (15.5%)
受け入れてはいるが基準は設けていない (提供会員が承諾すれば受け入れている)	154 (82.4%)
無回答	4 (2.1%)
合計	187 (100.0%)

表 15 地域の子育て関連施設や医療機関等との連携

表 15-1 過去 1 年間の地域の子育て

表 15-2 連携の方法

(M.A.)

関連施設や医療機関等との連携の有無

あ り	148(76.7%)
な し	45(23.3%)
合 計	193(100.0%)

会議の席上	97(56.5%)
電話等により個別に	107(72.3%)
その他	53(35.8%)
合計	148(100.0%)

表 16 会員数

		1 所あたり平均
提供会員	26,426 人(28.0%)	136.9 人
依頼会員	57,977 人(61.4%)	300.4 人
両方会員	9,917 人(10.5%)	51.4 人
合計	94,320 人(100.0%)	488.7 人

表 17 会員の年齢(回答 187 センター、無回答 6 センター)

	提供会員	依頼会員	両方会員	合計
20 歳未満	543 人(2.3%)	320 人(0.6%)	91 人(0.9%)	954 人(1.1%)
20～29 歳	1,219 人(5.1%)	7,510 人(14.0%)	1,243 人(12.9%)	9,972 人(11.4%)
30～39 歳	4,947 人(20.6%)	36,757 人(68.7%)	6,670 人(69.3%)	48,374 人(55.5%)
40～49 歳	6,183 人(25.7%)	7,863 人(14.7%)	1,512 人(15.7%)	15,558 人(17.9%)
50～59 歳	6,849 人(28.5%)	602 人(1.1%)	72 人(0.7%)	7,523 人(8.6%)
60 歳以上	4,292 人(17.9%)	416 人(0.8%)	37 人(0.3%)	4,745 人(5.4%)
合計	24,033 人(100.0%)	53,468 人(100.0%)	9,625 人(100.0%)	87,126 人(100.0%)

表 18 男性会員

表 18-1 男性会員の有無

い る	188 (97.4%)
いない	4 (2.1%)
無回答	1 (0.5%)
合 計	193 (100.0%)

表 18-2 男性会員の内訳(回答 187 センター、無回答 6 センター)

		1 所あたり平均
提供会員	700 人(19.7%)	3.7 人
依頼会員	2,771 人(78.0%)	14.8 人
両方会員	80 人(2.3%)	0.4 人
合計	3,551 人(100.0%)	18.9 人

表 19 平成 14 年 4～6 月の内容別活動回数

①保育所・幼稚園の送りのみ	8,525回 (6.7%)
②保育所・幼稚園の迎えのみ	12,923回 (10.2%)
③保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	5,926回 (4.7%)
④保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	32,917 回 (26.0%)
⑤保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	2,017 回 (1.6%)
⑥学童の放課後の預かり	6,196 回 (4.9%)
⑦学童保育の迎え	3,735 回 (3.0%)
⑧学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	11,793 回 (9.3%)
⑨学童保育からの帰宅後の預かり	3,349 回 (2.6%)
⑩子どもの病気時の預かり	2,226 回 (1.8%)
⑪保育所・学校等休み時の預かり	2,412 回 (1.9%)
⑫保育所等施設入所前の預かり	1,052 回 (0.8%)
⑬保護者等の短時間・臨時的就労の場合の預かり	7,730 回 (6.1%)
⑭保護者等の求職活動中の預かり	649 回 (0.5%)
⑮他の子どもの学校行事や冠婚葬祭等用事により外出する場合の預かり	1,461 回 (1.2%)
⑯保護者等が買い物等で外出する場合の預かり	2,886 回 (2.3%)
⑰保護者等の病気、その他急用の場合の預かり	5,309 回 (4.2%)
⑱上記以外	15,450 回 (12.2%)
合 計	126,556 回 (100.0%)

表 20 センターの広報活動の方法

(M.A.)

広報の内容	実施センター数 (%)
定期的に広報紙を発行している	163 (84.5%)
随時チラシを作成	174 (90.2%)
自治体の広報紙に掲載	170 (88.1%)
その他	56 (29.0%)
無回答	1 (0.5%)
合計	193 (100.0%)

表 21 平成 13 年度の広報活動の実績

表 21-1 広報紙の発行

回答	162 センター
発行回数	483 回
一所あたりの平均	3.0 回
無回答	1 センター

表 21-2 チラシの作成

回答	153 センター
発行回数	275 種類
一所あたりの平均	1.8 種類
無回答	21 センター

表 21-3 チラシの配布場所

(M.A.)

保育所・幼稚園	152(87.4%)
小学校	84(48.3%)
保健所・図書館・女性センター等公的施設	155(89.1%)
郵送・新聞折込等で各家庭へ	29(16.7%)
その他	87(50.0%)
無回答	2(1.1%)
合計	174(100.0%)

表 21-4 自治体の広報誌に掲載

回答	158 センター
掲載回数	568 回
一所あたりの平均	3.6 回
無回答	12 センター

表 22 説明会の実施状況

表 22-1 平成 13 年度の説明会実施状況

実施したセンター数	145(75.1%)
無回答	48(24.9%)
合計	193(100.0%)

表 22-2 開催場所別実施回数

(M.A.)

実施した場所	実施センター数	実施回数	1 所あたりの平均
センター所在の施設内	86 (59.3%)	849 回	9.9 回
地域の公的施設	106 (73.5%)	923 回	8.7 回
その他	32 (22.0%)	619 回	19.3 回
合計	145 (100.0%)	2,403 回	16.6 回

表 22-3 のべ参加者数

回答	143 センター
人数	38,204 人
1 回あたりの人数	15.9 人
無回答	50 センター

表 23 平成 13 年度の講習会実施状況

表 23-1 平成 13 年度の講習会実施回数、のべ時間数

実施総回数	1,073 回	(1 所あたり 5.6 回)
実施総時間	4,588 時間	(1 所あたり 23.6 時間) (1 回あたり 4.2 時間)

表 23-3 内容別、参加対象会員別実施状況

(M.A.)

講習内容	実施センター	提供会員	依頼会員	両方会員
会員としての心構え	143 (74.1%)	141 (73.0%)	82 (42.5%)	125 (64.8%)
子どもの事故と安全対策	155 (80.3%)	154 (79.8%)	57 (29.5%)	137 (71.0%)
子どもの心と身体の発達	150 (77.7%)	147 (76.2%)	56 (29.0%)	129 (66.8%)
子どもの発育と病気	148 (76.7%)	146 (75.6%)	59 (30.6%)	128 (66.3%)
子どもの遊び	151 (78.2%)	148 (76.7%)	67 (34.7%)	133 (68.9%)
子どもの世話	98 (50.8%)	98 (50.8%)	28 (14.5%)	83 (43.0%)
子どもの食事	109 (56.5%)	108 (56.0%)	33 (17.1%)	94 (48.7%)
保育の際のこころがけ	128 (66.3%)	127 (65.8%)	44 (22.8%)	112 (58.0%)
救急法	135 (69.9%)	133 (69.0%)	55 (28.5%)	116 (60.1%)
その他	73 (37.8%)	72 (37.3%)	45 (23.3%)	63 (32.6%)
回答	178 (92.2%)			
無回答	15 (7.8%)			
合計	193 (100.0%)	193 (100.0%)	193 (100.0%)	193 (100.0%)

表 24 平成 13 年度の交流会実施状況

表 24-1 平成 13 年度の交流会実施状況 (回答 188 センター 無回答 5 センター)

(M.A.)

	実施センター	実施回数	1 所あたりの平均
全体交流会	150 (77.7%)	239 回	1.6 回
地区別交流会	42 (21.8%)	202 回	4.8 回
会員別交流会	43 (22.3%)	154 回	3.6 回
	193 (100.0%)		

表 24-2 会員別交流会実施状況

回答	41 センター
提供会員対象	136 回
依頼会員対象	9 回
その他	4 回
無回答	2 センター

2. 提供会員調査結果

表 25 性別

女性	男性	合計
1,428 人 (97.3%)	39 人 (2.7%)	1,467 人 (100.0%)

表 26 年齢

20 歳未満	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	合計
0	36 人 (2.5%)	294 人 (20.0%)	411 人 (28.0%)	453 人 (30.9%)	273 人 (18.6%)	1,467 人 (100.%)

27 家族

27-1 同居の家族 (M.A.)

配偶者	1,260 人 (85.9%)
配偶者の親 自分の親	234 人 (16.0%)
子ども	1,073 人 (73.1%)
その他	85 人 (5.8%)
無回答	29 人 (2.0%)
合計	1,467 人 (100.0%)

27-2 同居している子どもの数

1 人	2 人	3 人	4 人	5 人以上	合計
383 人 (35.7%)	460 人 (42.9%)	196 人 (18.3%)	32 人 (3.0%)	2 人 (0.2%)	1,073 人 (100.0%)

27-3 同居している子どもの年齢 (M.A.)

就学前	小学校低学年	小学校高学年	中学生	高校生以上	無回答	合計
185 人 (11.8%)	231 人 (14.7%)	242 人 (15.4%)	248 人 (15.8%)	650 人 (41.5%)	11 人 (0.7%)	1,567 人 (100.0%)

表 28 援助活動以外の仕事

表 28-1 援助活動以外の仕事の有無

あり	763 人 (52.0%)
なし	690 人 (47.0%)
無回答	14 人 (1.0%)
合計	1,467 人 (100.0%)

表 28-2 仕事の形態

フルタイムで外で働いている	57 人 (7.5%)
パートタイムで外で働いている	379 人 (49.7%)
主に自宅で働いている	129 人 (16.9%)
その他	198 人 (26.0%)
合 計	763 人 (100.0%)

表 29 提供会員になったきっかけ

自治体の広報紙を見て	853人（58.1%）
チラシを見て	79人（5.4%）
友人・知人からの口コミ	366人（24.9%）
その他	155人（10.6%）
無回答	14人（1.0%）
合計	1,467人（100.0%）

表 30 提供会員になった理由

子どもが好きだから	357人（24.3%）
子育ての経験が生かせるから	154人（10.5%）
持っている資格を生かしたいため	117人（8.0%）
育児の援助をしたいため	460人（31.4人）
収入になるため	47人（3.2%）
時間があり何かをしたかったから	205人（14.0%）
その他	117人（8.0%）
無回答	10人（0.7%）
合計	1,467人（100.0%）

表 31 3 か月間の援助活動

表 31-1 3 か月間（平成 14 年 4 月～6 月）の援助の依頼の有無

あ り	1,166人（79.5%）
な し	297人（20.2%）
無回答	4人（0.3%）
合 計	1,467人（100.0%）

表 31-2 援助活動の有無

依頼を引受け援助活動をした	940人（80.6%）
自分の都合で引き受けなかったことがある	226人（19.4%）
合計	1,166人（100.0%）

表 31-3 引き受けなかった回数

回答	224人（無回答 2人）
回数	410回
1人平均	1.8回

表 32 3 か月間の援助内容

表 32-1 3 か月間の援助内容活動回数

①保育所・幼稚園の送りのみ	1,388回 (7.2%)
②保育所・幼稚園の迎えのみ	1,974回 (10.3%)
③保育所・幼稚園の登園前の預かり及び送り	845回 (4.4%)
④保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	4,241回 (22.0%)
⑤保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	580回 (3.0%)
⑥学童の放課後の預かり	853回 (4.4%)
⑦学童保育の迎え	971回 (5.0%)
⑧学童保育の迎え及び帰宅後の預かり	1,679回 (8.7%)
⑨学童保育からの帰宅後の預かり	586回 (3.0%)
⑩子どもの病気時の預かり	441回 (2.3%)
⑪保育所・学校等休み時の預かり	248回 (1.3%)
⑫保育所等施設入所前の預かり	418回 (2.2%)
⑬保護者等の短時間・臨時的就労の場合の預かり	930回 (4.8%)
⑭保護者等の求職活動中の預かり	135回 (0.7%)
⑮他の子どもの学校行事や冠婚葬祭等用事により外出する預かり	371回 (1.9%)
⑯保護者等が買い物等で外出する場合の預かり	386回 (2.0%)
⑰保護者等の病気、その他急用の場合の預かり	395回 (2.1%)
⑱上記以外	2,787回 (14.5%)
合 計	19,238回 (100.0%)

表 32-2 3 か月間の総援助回数

回答	1,166 人
総援助回数	19,238 回
1 人平均	16.5 回 (1 か月 5.5 回)
最高	202 回 (1 か月 67.3 回)
最少	1 回

表 33 3 か月間の援助活動時間

表 33-1 活動時間別状況

活動時間	人数
5 時間未満	164 人 (14.1%)
5 時間以上 10 時間未満	153 人 (13.1%)
10 時間以上 15 時間未満	119 人 (10.2%)
15 時間以上 20 時間未満	87 人 (7.5%)
20 時間以上 30 時間未満	150 人 (12.9%)
30 時間以上 50 時間未満	156 人 (13.4%)
50 時間以上 100 時間未満	180 人 (15.4%)
100 時間以上 150 時間未満	59 人 (5.1%)
150 時間以上 200 時間未満	22 人 (1.9%)
200 時間以上 300 時間未満	8 人 (0.7%)
300 時間以上	2 人 (0.2%)
無回答	66 人 (5.7%)
合計	1,166 人 (100.0%)

表 33-2 3 か月間の総括活動時間

回答	1,100 人
総活動時間	39,335.9 時間
1 人平均	35.8 時間 (1 か月約 12 時間)
最高	500 時間 (1 か月 166.7 時間)
最小	0.5 時間

表 34 3 か月間の援助活動による収入金額

表 34-1 収入金額別状況

金額	人数
5,000 円未満	226 人 (19.4%)
5,000 円以上 10,000 円未満	179 人 (15.4%)
10,000 円以上 20,000 円未満	205 人 (17.6%)
20,000 円以上 30,000 円未満	144 人 (12.3%)
30,000 円以上 50,000 円未満	170 人 (14.6%)
50,000 円以上 100,000 円未満	124 人 (10.6%)
100,000 円以上 150,000 円未満	38 人 (3.3%)
150,000 円以上 200,000 円未満	6 人 (0.5%)
200,000 円以上	5 人 (0.4%)
無回答	69 人 (5.9%)
合計	1,166 人 (100.0%)

表 34-2 総収入金額

回答	1097 人
総収入金額	29,839.268 円
1 人金額	27,200 人 (1 か月約 9,000 円)
最高	250,000 円 (1 か月 83,300 円)
最少	350 円

表 35 子どもの送り迎えの交通手段 (M.A.)

徒歩	389人 (33.4%)
自転車	183人 (15.7%)
バス・電車等の公的乗り物	43人 (3.7%)
タクシー	25人 (2.1%)
その他	452人 (38.8%)
うち車の使用	448人 (38.4%)
送り迎えはしていない	277人 (23.8%)
無回答	84人 (7.2%)
合計	1,166人 (100.0%)

表 36 援助活動を行った場所 (M.A.)

自宅	882人 (75.6%)
依頼会員の家	184人 (15.8%)
送迎	119人 (10.2%)
その他	157人 (13.5%)
無回答	66人 (5.7%)
合計	1,166人 (100.0%)

表 37 過去 1 年間の当日急な援助依頼の状況

表 37-1 当日急な援助依頼の有無

あ り	453人 (30.9%)
な し	972人 (66.3%)
無回答	42人 (2.9%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 37-2 援助依頼の回数、援助回数

	依頼を受けた回数	援助を行った回数
回答	295人	270人
合計	1,029回	950回
1 人平均	3.5回	3.5回
無回答	158人	183人

表 38 過去 1 年間の当日急なキャンセルの状況

表 37-1 当日急なキャンセルの有無

あ り	490人 (33.4%)
な し	895人 (61.0%)
無回答	82人 (5.6%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 38-2 キャンセルの回数

	キャンセルを受けた回数
回答	448人
合計	989回
1 人平均	2.2回
無回答	42人

表 39 過去 1 年間の当日急な援助変更の状況

表 39-2 当日急な援助変更の有無

あ り	260人 (17.7%)
な し	1,153人 (78.6%)
無回答	54人 (3.7%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 39-2 援助変更依頼の回数、援助回数

	変更依頼を受けた回数	援助を行った回数
回答	178人	114人
合計	503回	367回
1 人平均	2.8回	3.2回
無回答	82人	146人

表 40 過去 1 年間の早朝の援助依頼の状況

表 40-1 早朝の援助依頼の有無

あ り	217人 (14.8%)
な し	1,197人 (81.6%)
無回答	53人 (3.6%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 40-2 援助依頼の回数、援助回数

	依頼を受けた回数	援助を行った回数
回答	146人	110人
合計	2,079回	1,375回
1 人平均	14.2回	12.5回
無回答	71人	107人

表 41 過去 1 年間の夜 10 時以降の援助依頼の状況

表 41-1 夜 10 時以降の援助依頼の有無

あ り	80人 (5.5%)
な し	1,330人 (90.7%)
無回答	57人 (3.9%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 41-2 援助依頼の回数、援助回数

	依頼を受けた回数	援助を行った回数
回答	45人	46人
合計	168回	225回
1 人平均	3.7回	4.9回
無回答	35人	34人

表 42 過去 1 年間の土・日・祝日の援助依頼の状況

表 42-1 土・日・祝日援助依頼の有無

あ り	456人 (31.1%)
な し	965人 (65.8%)
無回答	46人 (3.1%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 42-2 援助依頼の回数、援助回数

	依頼を受けた回数	援助を行った回数
回答	289人	250人
合計	1,134回	1,071回
1 人平均	3.9回	4.3回
無回答	167人	206人

表 43 過去 1 年間の宿泊援助の状況

表 43-1 宿泊援助の有無

あ り	5人 (0.3%)
な し	1,404人 (95.7%)
無回答	58人 (4.0%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 43-2 援助依頼の回数、援助回数

	依頼を受けた回数	援助を行った回数
回答	3人	3人
合計	51回	20回
1人平均	17.0回	6.7回
無回答	2人	2人

表 44 過去 1 年間の当日急な自分の方からの援助キャンセルの状況

表 44-1 援助キャンセルの有無

あ り	121人 (8.2%)
な し	1,322人 (90.1%)
無回答	24人 (1.6%)
合 計	1,467人 (100.0%)

表 44-2 援助キャンセルの回数

回答	120人
合計	199回
1人平均	1.7回
無回答	1人

表 44-3 援助キャンセルの理由

(M.A.)

自分の病気のため	41人 (33.9%)
家族の病気のため	41人 (33.9%)
自分の用事のため	23人 (29.0%)
家族の用事のため	14人 (11.6%)
その他	19人 (15.7%)
無回答	1人 (0.8%)
合計	121人 (100.0%)

表 44-4 援助キャンセルの場合の依頼会員への連絡方法 (M.A.)

センターを通して	57人 (47.1%)
サブ・リーダーを通して	8人 (6.6%)
直接依頼会員へ	68人 (56.2%)
無回答	1人 (0.8%)
合計	121人 (100.0%)

表 45 センター活動の良い点

(M.A.)

依頼会員に信頼され、やりがいを感じる	982人 (66.9%)
社会参加ができる	647人 (44.1%)
地域に新しい知り合いができる	639人 (43.6%)
自分や家族と援助している子どもとのふれあいが楽しい	919人 (62.6%)
援助している子どもとのふれあいで自分の子どもの成長や違う面の発見がある	517人 (35.2%)
育児に関する知識や技術を身につけることができる	275人 (18.7%)
育児の経験を生かすことができる	811人 (55.3%)
援助費をもらえる	663人 (45.2%)
その他	132人 (9.0%)
良いと思うことは特にな	3人 (0.2%)
無回答	62人 (4.2%)
合計	1,467人(100.0%)

表 46 センター活動で困っている点

依頼が少ない	397人 (27.1%)
依頼会員に信頼されていない気がする	8人 (0.5%)
育児の方法について依頼会員と意見が一致しない	17人 (1.2%)
有償ということで無理な依頼をする会員がいる	42人 (2.9%)
子どもがなつかない	15人 (1.0%)
子どもを遊ばせる場所に苦勞する	83人 (5.7%)
自分の子どもが焼もちを焼く	36人 (2.5%)
講習内容が充分でなく、援助に不安がある	24人 (1.6%)
アドバイザーからの話と依頼会員からの依頼内容に食い違いがある	38人 (2.6%)
援助費が安い	87人 (5.9%)
その他	182人 (12.4%)
困っていることは特にな	693人 (47.2%)
無回答	90人 (6.1%)
合計	1,467人(100.0%)

表 47 センター活動に対する満足度

大いに満足	130人 (8.9%)
満足	907人 (61.8%)
少し不満	277人 (18.9%)
不満	44人 (3.0%)
無回答	109人 (7.4%)
合計	1,467人 (100.0%)

3. 依頼会員調査結果

表 48 性別

女性	男性	合計
1,162人 (96.5%)	42人 (3.5%)	1,204人 (100.0%)

表 49 年齢

20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～40歳	40歳以上	無回答	合計
1人 (0.1%)	13人 (1.1%)	122人 (10.1%)	438人 (36.4%)	458人 (38.0%)	171人 (14.2%)	1人 (0.1%)	1,204人 (100.0%)

表 50 仕事

表 50-1 仕事の有無

あ り	825人 (68.5%)
な し	378人 (31.4%)
無回答	1人 (0.1%)
合 計	1,204人 (100.0%)

表 50-2 仕事の形態

フルタイムで外で働いている	561人 (68.0%)
パートタイムで外で働いている	164人 (19.9%)
主に自宅で働いている	54人 (6.5%)
その他	2人 (0.2%)
無回答	2人 (0.2%)
合計	825人 (100.0%)

表 50-3 フルタイム・パートタイム勤務者の勤務形態

日中の通常勤務	633人 (87.3%)
早朝のみ又は早朝を含んだ勤務	11人 (1.5%)
深夜のみ又は深夜を含んだ勤務	5人 (0.7%)
交替制勤務(早朝・深夜勤務あり)	41人 (5.7%)
交替制勤務(早朝・深夜勤務なし)	11人 (1.5%)
その他	21人 (2.9%)
無回答	3人 (0.4%)
合計	725人 (100.0%)

表 50-4 日中の通常勤務者の早出や残業の有無

ほとんどない	271 人 (42.8%)
月に 3～4 回程度	147 人 (23.2%)
月 10 回程度	79 人 (12.5%)
月の内半数以上	101 人 (16.0%)
その他	36 人 (5.7%)
無回答	2 人 (0.3%)
合計	633 人 (100.0%)

表 50-5 フルタイム・パートタイム勤務者の土・日・祝祭日出勤の有無

ほとんどない	328 人 (45.2%)
月に 1～2 回程度	186 人 (25.7%)
月に 5～6 回程度	112 人 (15.4%)
その他	95 人 (13.1%)
無回答	4 人 (0.6%)
合計	725 人 (100.0%)

表 51 同居の家族 (M.A.)

配偶者	1,085 人 (90.1%)
自分の親・配偶者の親	148 人 (12.3%)
子ども	1,196 人 (99.3%)
その他	21 人 (1.7%)
無回答	6 人 (0.5%)
合計	1,204 人 (100.0%)

表 52 同居の子ども

表 52-1 同居している子ども

1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	合計
519人 (43.1%)	509人 (42.3%)	148人 (12.3%)	19人 (1.6%)	3人 (0.2%)	6人 (0.5%)	1,204人 (100.0%)

表 52-2 同居している子どもの年齢 (M.A.)

0 歳	179 人 (9.4%)
1 歳以上 3 歳未満	554 人 (29.1%)
3 歳以上就学以前	656 人 (34.5%)
小学校低学年	356 人 (18.7%)
小学校高学年	105 人 (5.5%)
中学生以上	52 人 (2.8%)
合計	1,902 人 (100.0%)

表 53 登録している子ども

表 53-1 ファミリー・サポート・センターに登録している子どもの数

1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	合計
687人 (57.1%)	421人 (35.0%)	81人 (6.7%)	7人 (0.6%)	1人 (0.1%)	7人 (0.6%)	1,204人 (100.0%)

表 53-2 センターに登録している子どもの年齢

		登録率 (M.A.)
0 歳	143 人 (8.5%)	79.9%
1 歳以上 3 歳未満	535 人 (31.8%)	96.6%
3 歳以上就学以前	626 人 (37.2%)	95.4%
小学校低学年	319 人 (18.9%)	89.6%
小学校高学年	57 人 (3.4%)	54.3%
中学生以上	4 人 (0.2%)	7.7%
合計	1,684 人 (100.0%)	

$$\text{※ 登録率} = \frac{\text{登録している子どもの数}}{\text{同居している子どもの数}}$$

表 53-3 センターに登録している子どもが昼間過ごす場所 (M.A.)

認可保育所	533 人 (30.4%)
認可外保育施設	45 人 (2.6%)
幼稚園	223 人 (12.7%)
小学校	348 人 (19.9%)
学童保育	152 人 (8.7%)
自宅	642 人 (36.7%)
祖父母等親戚の家	107 人 (6.1%)
保育ママ	23 人 (1.3%)
その他	60 人 (3.4%)
合計	1,750 人 (100.0%)

表 53-4 昼間一番長く過ごしている場所

認可保育所	626 人 (35.8%)
認可外保育施設	33 人 (1.9%)
幼稚園	184 人 (10.5%)
小学校	376 人 (21.5%)
学童保育	8 人 (0.5%)
自宅	497 人 (28.4%)
祖父母等親戚の家	13 人 (1.0%)
保育ママ	2 人 (0.1%)
その他	11 人 (0.6%)
合計	1,750 人 (100.0%)

表 54 緊急時保育

表 54-1 同居の家族以外に緊急時の保育を頼める人の有無

いる	いない	無回答	合計
691 人 (57.4%)	487 人 (40.4%)	26 人 (2.2%)	1,204 人 (100.0%)

表 54-2 緊急時保育の依頼先 (M.A.)

自分の親・配偶者の親	501 人 (72.5%)
親戚	97 人 (14.0%)
近所の住人	98 人 (14.2%)
友人・知人	153 人 (22.1%)
その他	66 人 (9.6%)
無回答	4 人 (0.6%)
合計	691 人 (100.0%)

表 55 依頼会員になったきっかけ

自治体の広報紙を見て	666 人 (55.3%)
チラシを見て	118 人 (9.8%)
友人・知人からの口コミ	209 人 (17.4%)
その他	153 人 (12.7%)
無回答	58 人 (4.8%)
合計	1,204 人 (100.0%)

表 56 依頼会員になった理由

保育施設への送迎、出張や残業時の預かりなど仕事のため 援助を頼みたいため	578 人 (48.0%)
子連れでいけない用事等で外出する際の援助を頼みたいため	207 人 (17.2%)
子育てから開放され、リラックスする時間がほしいため	19 人 (1.6%)
いざという時に援助を頼みたいため	308 人 (25.6%)
その他	67 人 (5.6%)
無回答	27 人 (2.2%)
合計	1,204 人 (100.0%)

表 57 3 か月間 (平成 14 年 4 月～6 月) 援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
769 人 (63.9%)	424 人 (35.2%)	11 人 (0.9%)	1,204 人 (100.0%)

表 58 援助依頼の理由

(M.A.)

		回数	1人当り回数
①仕事のため	512人(66.6%)	9,912回(84.0%)	19.4回
②冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽等で外出のため	76人(9.9%)	204回(1.7%)	2.7回
③他の子どもの学校行事のため	98人(12.7%)	316回(2.7%)	3.2回
④自分の体調不良、病気のため	67人(8.7%)	377回(3.2%)	5.6回
⑤家族の病気のため	60人(7.8%)	383回(3.2%)	6.4回
⑥その他	90人(11.7%)	613回(5.2%)	6.8回
無回答	12人(1.6%)		
合計	769人(100.0%)	11,805回(100.0%)	15.6回

表 59 仕事を理由とした援助依頼の状況

表 59-1 依頼回数

1～10回	259人(50.6%)	41～50回	26人(5.1%)
11～20回	89人(17.4%)	51～60回	29人(5.7%)
21～30回	54人(10.5%)	61回以上	13人(2.5%)
31～40回	35人(6.8%)	毎日	7人(1.4%)
		合計	512人(100%)

表 59-2 援助依頼に対する提供会員の対応表

応じてもらった	681人(88.6%)
断られたことがある	79人(10.3%)
すべて断られた	6人(0.8%)
無回答	3人(0.4%)
合計	769人(100.0%)

表 59-3 援助依頼を断られた回数

回数	83人 161回(平均1.7回)
無回答	2人

表 59-4 援助依頼を断られて時の対応

(M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	40人(47.1%)
同居の家族に頼んだ	15人(17.6%)
別居の親戚等に頼んだ	14人(16.5%)
友人・知人に頼んだ	8人(9.4%)
ベビーシッターに頼んだ	14人(16.5%)
他の子育て支援グループに頼んだ	5人(5.9%)
その他	12人(14.1%)
合計	85人(100.0%)

表 60 援助依頼をしなかった理由

(M.A.)

依頼する必要が生じなかった	294 人 (69.3%)
同居の家族、親戚、友人等に預けたため	118 人 (27.8%)
他人に預けることに不安を感じたため	30 人 (7.1%)
子どもがなつかないため	15 人 (3.5%)
利用料金が高いため	46 人 (10.8%)
預けることに家族が反対した	12 人 (2.8%)
その他	62 人 (14.6%)
無回答	19 人 (4.5%)
合計	424 人 (100.0%)

表 61 過去 1 年間の当日急な援助依頼の状況

表 61-1 当日急な援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
328 人 (27.2%)	872 人 (72.4%)	4 人 (0.3%)	1,204 人 (100.0%)

表 61-2 援助依頼の理由

(M.A.)

仕事のため	199 人 (60.7%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	13 人 (4.0%)
他の子どもの学校行事のため	11 人 (3.4%)
自分の体調不良、病気のため	54 人 (16.5%)
家族の病気のため	68 人 (20.7%)
その他	29 人 (8.8%)
無回答	4 人 (1.2%)
合計	328 人 (100.0%)

表 61-3 提供会員の対応

応じてもらえた	271 人 (82.6%)
断られたことがある	45 人 (13.7%)
すべて断られた	4 人 (1.2%)
無回答	8 人 (2.4%)
合計	328 人 (100.0%)

表 61-4 断られた時の対応

(M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	30 人 (61.2%)
同居の家族に頼んだ	8 人 (16.3%)
別居の親戚等に頼んだ	8 人 (16.3%)
友人・知人に頼んだ	5 人 (10.2%)
ベビーシッターに頼んだ	2 人 (4.1%)
他の子育て支援グループに頼んだ	0
その他	6 人 (12.2%)
無回答	2 人 (4.1%)
合計	49 人 (100.0%)

表 62 過去 1 年間の当日急なキャンセルの状況

表 62-1 当日急な援助依頼キャンセルの有無

あり	なし	無回答	合計
330 人 (27.4%)	869 人 (72.2%)	5 人 (0.4%)	1,204 人 (100.0%)

表 62-2 キャンセルの理由

(M.A.)

仕事や用事が変更となり依頼する理由がなくなった	142 人 (43.0%)
同居の家族、親戚、友人等に預けたため	43 人 (13.0%)
子どもや自分・家族の病気のため	202 人 (61.2%)
預けることに家族が反対した	2 人 (0.6%)
その他	20 人 (6.1%)
無回答	6 人 (1.8%)
合計	330 人 (100.0%)

表 63 過去 1 年間の当日急な援助依頼変更の有無

表 63-1 当日急な援助依頼変更の有無

あり	なし	無回答	合計
287 人 (23.8%)	911 人 (75.7%)	6 人 (0.5%)	1,204 人 (100.0%)

表 63-2 援助依頼変更の理由

(M.A.)

仕事のため	188 人 (65.5%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	18 人 (6.3%)
他の子どもの学校行事等のため	14 人 (4.9%)
自分の体調不良、病気のため	39 人 (13.6%)
家族の病気のため	55 人 (19.2%)
その他	37 人 (12.9%)
無回答	1 人 (0.3%)
合計	287 人 (100.0%)

表 63-3 提供会員の対応 (M.A.)

応じてもらえた	269 人 (93.7%)
断られたことがある	11 人 (3.8%)
すべて断られた	0
無回答	7 人 (2.4%)
合計	287 人 (100.0%)

表 63-4 断られた時の対応 (M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	6 人 (54.5%)
同居の家族に頼んだ	3 人 (27.3%)
別居の親戚等に頼んだ	4 人 (36.4%)
友人・知人に頼んだ	3 人 (27.3%)
ベビーシッターに頼んだ	0
他の子育て支援グループに頼んだ	0
その他	1 人 (9.1%)
合計	11 人 (100.0%)

表 64 過去 1 年間の早朝の援助依頼の有無

表 64-1 早朝の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
132 人 (11.0%)	1,066 人 (88.5%)	6 人 (0.5%)	1,204 人 (100.0%)

表 64-2 援助依頼の理由 (M.A.)

仕事のため	108 人 (81.8%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	4 人 (3.0%)
他の子どもの学校行事等のため	7 人 (5.3%)
自分の体調不良、病気のため	3 人 (2.3%)
家族の病気のため	4 人 (3.0%)
その他	10 人 (7.6%)
合計	132 人 (100.0%)

表 64-3 提供会員の対応 (M.A.)

応じてもらえた	126 人 (95.5%)
断られたことがある	4 人 (3.0%)
すべて断られた	1 人 (0.8%)
無回答	1 人 (0.8%)
合計	132 人 (100.0%)

表 64-4 断られた時の対応

(M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	4 人 (80.0%)
同居の家族に頼んだ	1 人 (20.0%)
別居の親戚等に頼んだ	0
友人・知人に頼んだ	0
ベビーシッターに頼んだ	0
他の子育て支援グループに頼んだ	0
その他	1 人 (20.0%)
合計	5 人 (100.0%)

表 65 過去 1 年間の夜 10 時以降の援助依頼の状況

表 65-1 夜 10 時以降の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
51 人 (4.2%)	1,150 人 (95.5%)	3 人 (0.2%)	1,204 人 (100.0%)

表 65-2 援助依頼の理由

(M.A.)

仕事のため	40 人 (78.4%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	9 人 (17.6%)
他の子どもの学校行事等のため	0
自分の体調不良、病気のため	0
家族の病気のため	1 人 (2.0%)
その他	3 人 (5.9%)
合計	51 人 (100.0%)

表 65-3 提供会員の対応

応じてもらえた	49 人 (96.1%)
断られたことがある	4 人 (2.0%)
すべて断られた	0
無回答	1 人 (2.0%)
合計	51 人 (100.0%)

表 65-4 断られた時の対応

(M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	1 人 (100.0%)
同居の家族に頼んだ	1 人 (100.0%)
別居の親戚等に頼んだ	0
友人・知人に頼んだ	0
ベビーシッターに頼んだ	1 人 (100.0%)
他の子育て支援グループに頼んだ	0
合計	1 人 (100.0%)

表 66 過去 1 年間の土・日・祝祭日の援助依頼の状況

表 66-1 土・日・祝祭日の援助依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
286 人 (23.8%)	915 人 (76.0%)	3 人 (0.2%)	1,204 人 (100.0%)

表 66-2 援助依頼の理由

(M.A.)

仕事のため	182 人 (63.6%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	48 人 (16.8%)
他の子どもの学校行事等のため	32 人 (11.2%)
自分の体調不良、病気のため	15 人 (5.2%)
家族の病気のため	15 人 (5.2%)
その他	29 人 (10.1%)
無回答	1 人 (0.3%)
合計	286 人 (100.0%)

表 66-3 提供会員の対応

応じてもらえた	286 人 (93.7%)
断られたことがある	6 人 (2.1%)
すべて断られた	2 人 (0.7%)
無回答	10 人 (3.5%)
合計	286 人 (100.0%)

表 66-4 断られた時の対応

(M.A.)

自分の用事をとりやめるなど自分でやりくりした	4 人 (50.0%)
同居の家族に頼んだ	2 人 (25.0%)
別居の親戚等に頼んだ	2 人 (25.0%)
友人・知人に頼んだ	1 人 (12.5%)
ベビーシッターに頼んだ	1 人 (12.5%)
他の子育て支援グループに頼んだ	2 人 (25.0%)
その他	1 人 (12.5%)
合計	8 人 (100.0%)

表 67 過去 1 年間の宿泊依頼の状況

表 67-1 宿泊依頼の有無

あり	なし	無回答	合計
8 人 (0.7%)	1,190 人 (98.8%)	6 人 (0.5%)	1,204 人 (100.0%)

表 67-2 宿泊依頼の理由

仕事のため	3 人 (37.5%)
冠婚葬祭、買い物、美容院、音楽会等で外出するため	3 人 (37.5%)
他の子どもの学校行事等のため	0
自分の体調不良、病気のため	0
家族の病気のため	2 人 (25.0%)
合計	8 人 (100.0%)

表 67-3 提供会員の対応

応じてもらえた	8 人 (100.0%)
断られたことがある	0
すべて断られた	0
合計	8 人 (100.0%)

表 68 ファミリー・サポート・センターへ援助依頼をして良い点 (M.A.)

安心して子どもを預けることができる	868 人 (72.1%)
地域につながりができる	404 人 (33.6%)
交流会などで子育て中の仲間ができる	95 人 (7.9%)
急な依頼にも快く対応してもらえる	539 人 (44.8%)
子どもが提供会員の子どもや家族とのふれあいを喜んでいる	490 人 (40.7%)
提供会員やアドバイザーに子育ての相談ができる	263 人 (21.8%)
いつでも子どもを預けられるという安心感がある	759 人 (63.0%)
安い料金で子どもを預けることができる	516 人 (42.9%)
その他	110 人 (9.1%)
良いと思うことは特にない	15 人 (1.2%)
無回答	23 人 (1.9%)
合計	1,204 人 (100.0%)

表 69 ファミリー・サポート・センターへの援助依頼をしていて困っている点 (M.A.)

提供会員の資質が同じでなく預けるのに不安がある	93 人 (7.7%)
紹介される提供会員が一定しない	41 人 (3.4%)
提供会員とコミュニケーションがない	45 人 (3.7%)
提供会員宅が遠い	76 人 (6.3%)
急な依頼に対応してもらえない	88 人 (7.3%)
提供会員に子どもがなつかない	21 人 (1.7%)
アドバイザーに相談する雰囲気がない	13 人 (1.1%)
利用料が高い	200 人 (16.6%)
その他	161 人 (13.4%)
困ることは特にない	600 人 (49.8%)
無回答	95 人 (7.9%)
合計	1,204 人 (100.0%)

表 70 センター活動に対する満足度

大いに満足	317 人 (26.3%)
満足	662 人 (55.0%)
少し不満	138 人 (11.5%)
不満	21 人 (1.7%)
無回答	66 人 (5.5%)
合計	1,204 人 (100.0%)